

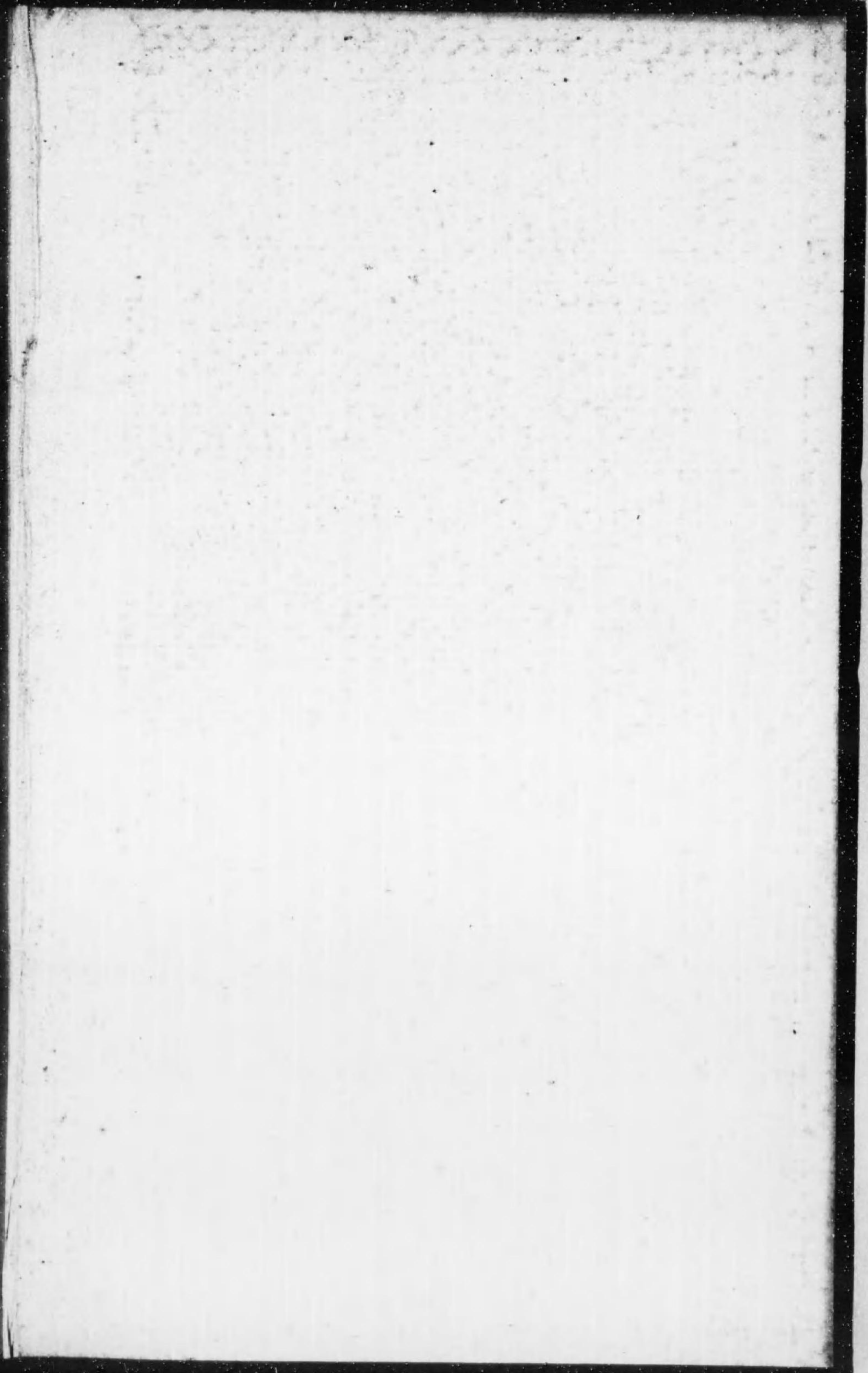
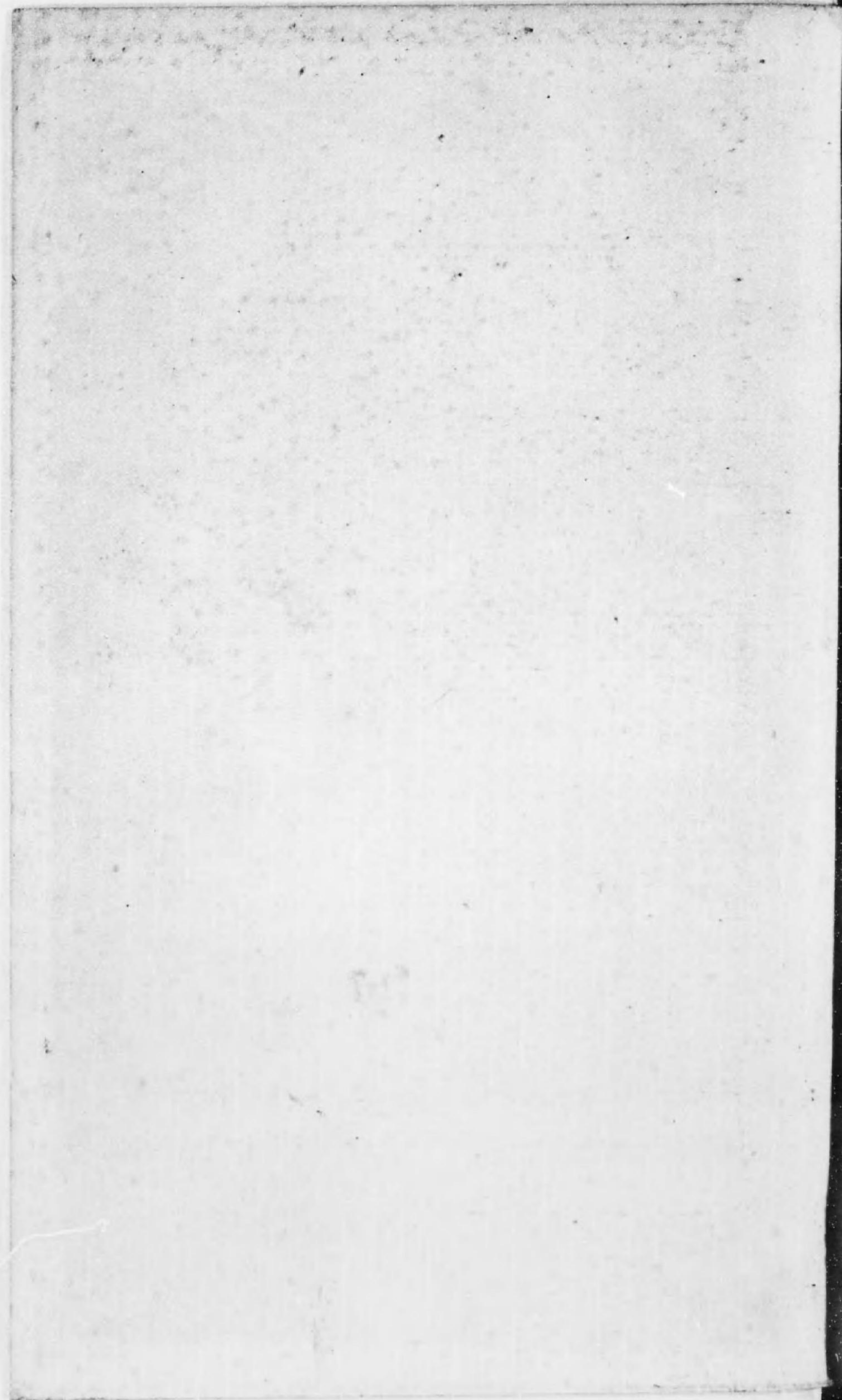
507  
8



始









507-8



深川土功組合紀要

11. 6. 27  
内交



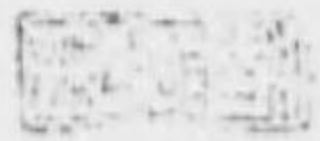
導 成 功 利 健 三 類



元北海道廳官現內官次官石原健三氏



弘道



氏道弘保久西員議院族貴現官長廳道海北元



祝  
下  
得  
也

得  
也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也

也  
也  
也  
也

也  
也  
也

也  
也  
也  
也

也  
也  
也



## 序

深川土功組合ノ區域ハ雨龍郡深川一巳ノ兩村ニ跨リ其灌溉面積約五千町步地勢平坦地味亦肥沃ニシテ東南石狩川ニ蒞ミ西北雨龍川ニ倚リ兩川相對シテ抱擁シ雨龍平野一望千里ノ間縱横ニ條ノ一大銀線ヲ畫キテ不盡ノ水利ヲ供ス殊ニ本道鐵道ノ幹線上川線ノ幹線ノ主要驛タル深川市街ハ附近物資ノ集散市場ニシテ留萌線亦此處ヨリ分岐シ交通ノ便ヲ與フルコト極メテ多シ實ニ此地方ハ石狩原野中樞ノ農村ニシテ天惠ノ然ラシムル所亦以テ水田造成ノ適地タルヲ知ルヘキナリ

顧フニ當地方ノ開拓ハ故三條實美公等本道拓殖ノ急務ヲ唱道シ蜂須賀菊亭兩侯及戸田大谷兩伯秋元子等ト相謀リ明治二十二年雨龍廣原ノ開墾ヲ企劃シタルニ基因シ其造田ノ計劃ハ菊亭侯深川村茅生ニ居ヲ占メ明治二十四年一巳屯田移住者ト相議シ實測設計ヲ爲シタルニ濫觴シ而モ深川土功組合ハ明治四十一年十月東武氏外十八名ノ發起ニ依リ同四十二年八月之カ設置ヲ見タルモノニシテ其目的タル灌溉



溝ノ堀鑿ハ大正元年工ヲ起シ今ヤ漸ク竣工ヲ告クルニ至レリ其間年ヲ閱スルコト  
四星霜資ヲ投スルコト七十萬圓幹線ノ延長八千六十二間支線ノ延長七千二百六十  
四間小支線及分派線ノ延長五萬三百六十二間ヲ算シ水量ハ之ヲ五千町歩ノ水田ニ  
灌溉シテ尙綽々タルモノアリト謂フ夫レ斯ノ如ク規模ノ壯大ニシテ灌溉面積ノ廣  
漠ナル寔ニ全道ニ冠タルハ勿論實ニ我邦稀ニ見ルノ一大事業ナリトス特ニ石狩川  
取入口上下流ニ於ケル單床護岸工事ノ如キ或ハ第一導水門及延長一千二百八十九  
呎ノ隧道ノ如キ或ハ水路内流速ノ調節ニ資スル落水工ノ如キ何レモ皆鐵筋混凝土  
ヲ使用シ又或ハ揚水機ニ離心動唧筒ヲ使用スルカ如キ其他混凝土暗渠鐵筋混凝土  
水路橋等各所ノ設備ハ全ク理想的ニ完成シ大ニ斯界ノ範トスルニ足ルモノアルハ  
寔ニ快心ニ禁エサルヲ覺ユルナリ而モ其之レアルカ爲水田ニ造成シタル土地ノ價  
値ハ從來ニ倍蓰シ其收穫ニ於テ將タ亦其地價ニ到底同架ニ談スヘカラサルハ素ヨ  
リ其所ナリトス之レ偏ニ關係諸氏カ既往數年ノ間或ハ水源地ノ變更ヲ策シ或ハ資

金借入ノ途ノ講シ或ハ國庫補助ノ申請ヲ爲ス等幾多ノ曲折波瀾ニ逢着シテ東奔西  
馳曰夕苦心焦慮ノ結晶ニ外ナラスシテ寔ニ地方民衆ノ閑却シ能ハサル貴重ノ資ナ  
リト謂ハサルヘカラス

今ヤ世運ノ趨勢ハ國力ノ充實ヲ必要トシ地方ノ殖産興業ヲ促スト共ニ食糧獨立ノ  
問題ハ實ニ刻下須要ノ事項ト爲レリ組合員タル者應サニ時勢ノ推移ニ鑑ミ後日ノ  
大計ヲ誤ルコトナク將來益不斷ノ勤精奮闘ヲ續ケ民風ヲ作興シテ勤儉治産ノ良習  
ヲ馴致シ以テ豫定ノ造田ヲ完了シ所期ノ目的ヲ達成スルニ最善ヲ竭ササルヘカラ  
ス夫レ斯ノ如クシテ努メテ倦マスンハ臆テ黃波河畔ニ漲リテ鄉衆和シ萬頃ノ稻田  
穰々トシテ穀倉滿チ石狩ノ水洋々トシテ流レテ千載ニ渴キサルカ如ク一鄉百年ノ  
福利ヲ實現スルハ又必スシモ至難ノ業ニアラサルヲ信スルナリ  
頃者深川土功組合紀要編纂成ルヲ告ク即所懷ノ一端ヲ披瀝シテ之カ序ト爲ス

大正五年九月下浣

北海道廳內務部長橋本正治

序

三



吾輩が始めて、雨龍郡に足を入れたのは、忘れもせぬ、明治廿六年の四月、まだ春とは云へ、残んの雪が四五尺も積もつてをる時であつた。道行く人もなければ、勿論路とても無つた。吾輩が此地に入つた目的は、其前の秋。故菊亭侯爵家と雨龍開拓の計劃が熟して、吾等が、侯爵家より、未墾地一戸分三萬坪として、百戸分と其外に百五十町歩、併て千百五十町歩の割讓の約束が成立し、移住者を入るゝ下準備の爲であつた。當時は札幌上川間の鐵道が、空知郡の空知太と云ふところに止つて其れより以北は、馬背か、橇かでなくば、交通が出来なかつたのである。又道路は、上川街道が、空知監獄の囚徒の手で、漸く竣功を告げたばかりであつた。其れでも、吾輩が北雨龍に足を容れた時二軒の草小屋があつた。一戸は、今の永宮橋の側に、永宮某と云ふものと、又一戸は、深川市街地の町端に、山室朝行と云ふ、熊本縣の人が、前年より這入つて、草根木皮を喰つて纔に生活してゐたばかりであつた。吾輩は、大谷岩太郎と云ふ測量に堪能なる同國人と、



外に、人夫四五人を伴ひ、鍋釜から食糧品一切を、携帯して、數十日間、積雪踏破し、山野を跋涉し、測量したのである。其翌年から、百戸團體の同志がポツポツ移住して、漸く開墾に着手したので、始て人里らしくなり、鶏犬の聲など聞ゆるやうになつた。今から、當時の事を回想すると、眞に夢のやうである。爾來一日、開拓が進捗するに随ひ、審に地利を案じ地勢を察するに、儻し、斯の地にして、一大疏水事業を起したならば、必ず今より幾倍利源が開發さるゝであらうと信じ、村人等と相談したが、何分大事業で、容易に工を起し難いのであつたが、集々凝議の末、兎に角測量して見ようと云ふので、明治三十七年札幌から不破某と云ふ、技術者を傭ひ來つて、先づ神居古潭を水源と爲し、其より以下の測量を始めた。其調査の報告に依れば、三十七萬圓と云ふ巨資を要すると云ふので、一時沙汰止みとなつた。其後明治四十一年に到つて、再び灌溉の議が起り、始めて官憲の調査に依頼して、今度は兩龍川より、分水計劃が出来、愈々工事に着手す

べき場合に際し、沿川の住民から激しき反對が起つて再び中止の止むを得ざるに到つたのである。然も、一旦計劃した以上、此儘止むべきに非ずと、一段の勇氣奮ひ起して、更に調査に調査を重ね、一方資金の調達等萬難を排して、漸く現今の石狩川を基點として工事に着手することを得たのである。恰度此間明治と大正の年紀を通じ、年經ること十有二年、長官を送ゆること八代、資を投ずること百萬金、幾多の艱難と戦ひ、幾多の蹉跎を経て、漸く宿昔の望を達成し、全道無比の大灌溉溝を作り上げたのである。今は沃野千里、一望萬頃、黄金の波を漂よはし、穰々瑞穂の郷を現出したのである。古人言ふ、羅馬の城は、一日にして成るに非ずと眞に此の謂である。尙ほ此の事業に關つた、獻身的犠牲者は、多數あるが、就中唱道者の一人、故佐藤政三氏の如き、青木利一氏の如き、友成仲氏の如き、官憲の人としては、稻見貞藏氏の如き、西村保吉氏の如き、其他組合員として、村有志の熱誠摯實事に當りたる人々は、最も多數である。此等の人々に對しては



何人も感謝の念を拂はなければならぬと想ふ。終りに一言したきことは、一國の文化は、物資文明と、精神文明が相伴はなければならぬ。彼の哲人ルーテルの語に、一國の繁榮は、其國の歳入の多きに依るに非ず、其の防備の堅固なるに依るに非ず、公共建築物の美なるに依るに非ず、教化されたる教育あり、修養あり、品性ある人の多數なるに依る、眞正の國利、國力、國威、斯に在り」と洵に知言であると思ふ。後世斯土に生を托し、住居する人々は、深く先人の遺業に鑑み、身を修め、家を齊ひ、國利民福を増進して、眞に文化の普及者と爲り理想郷の建設者たらんことを、切望して止まないものである。

大正五年九月下汜

衆議員議員

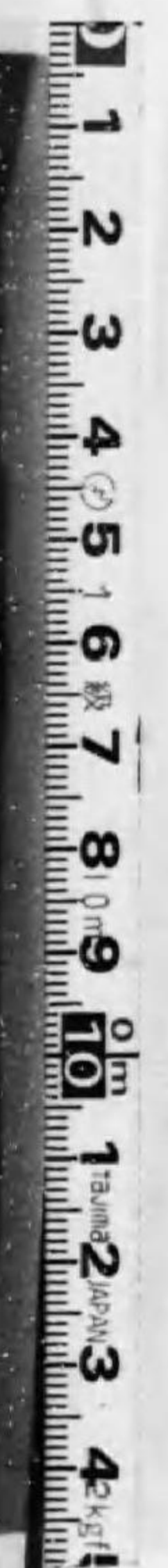
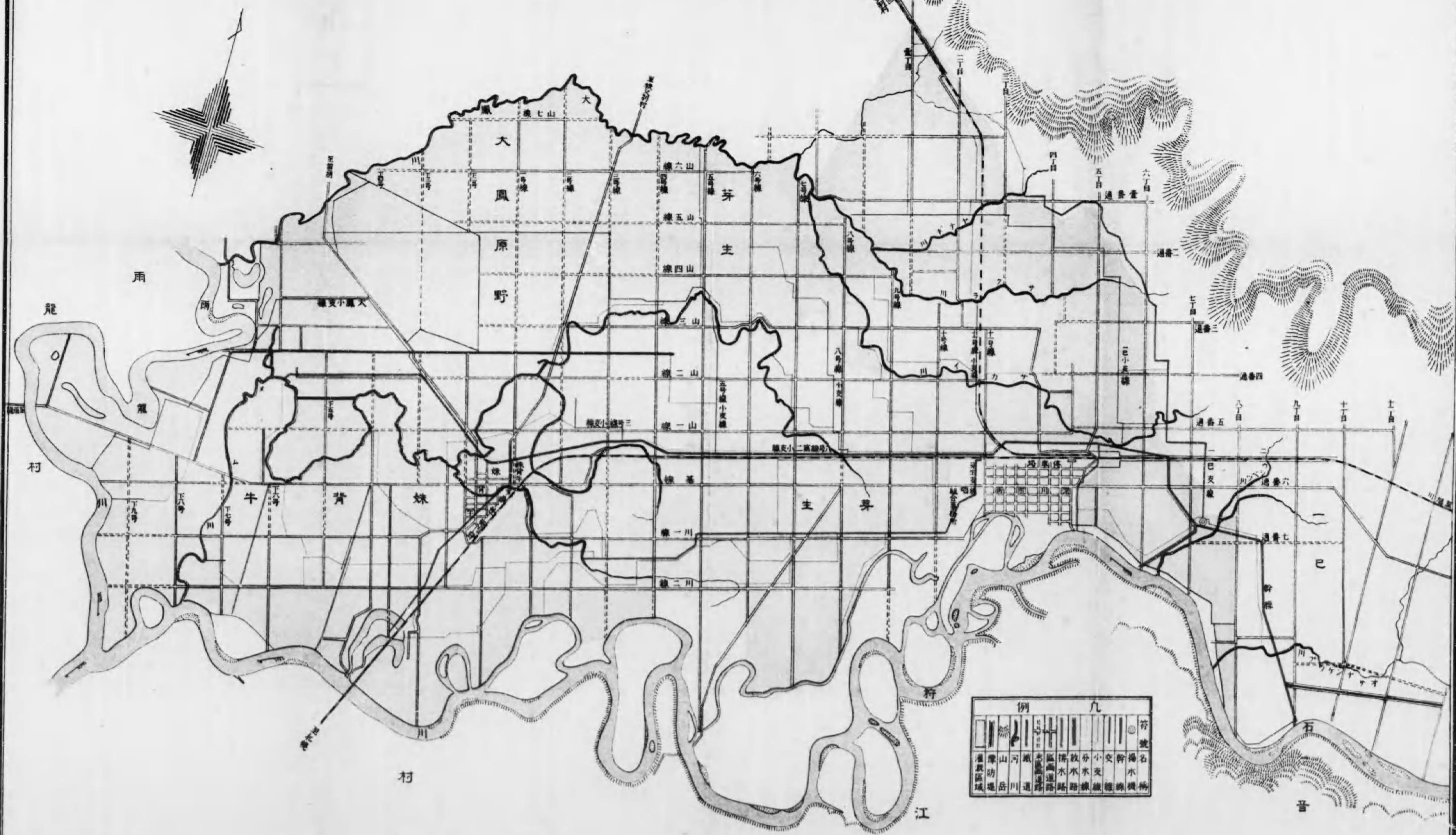
勳四等 東

武 謹言



# 北海道雨龍郡深川支功組合灌漑水路平面圖

縮尺三万四千七百分之一



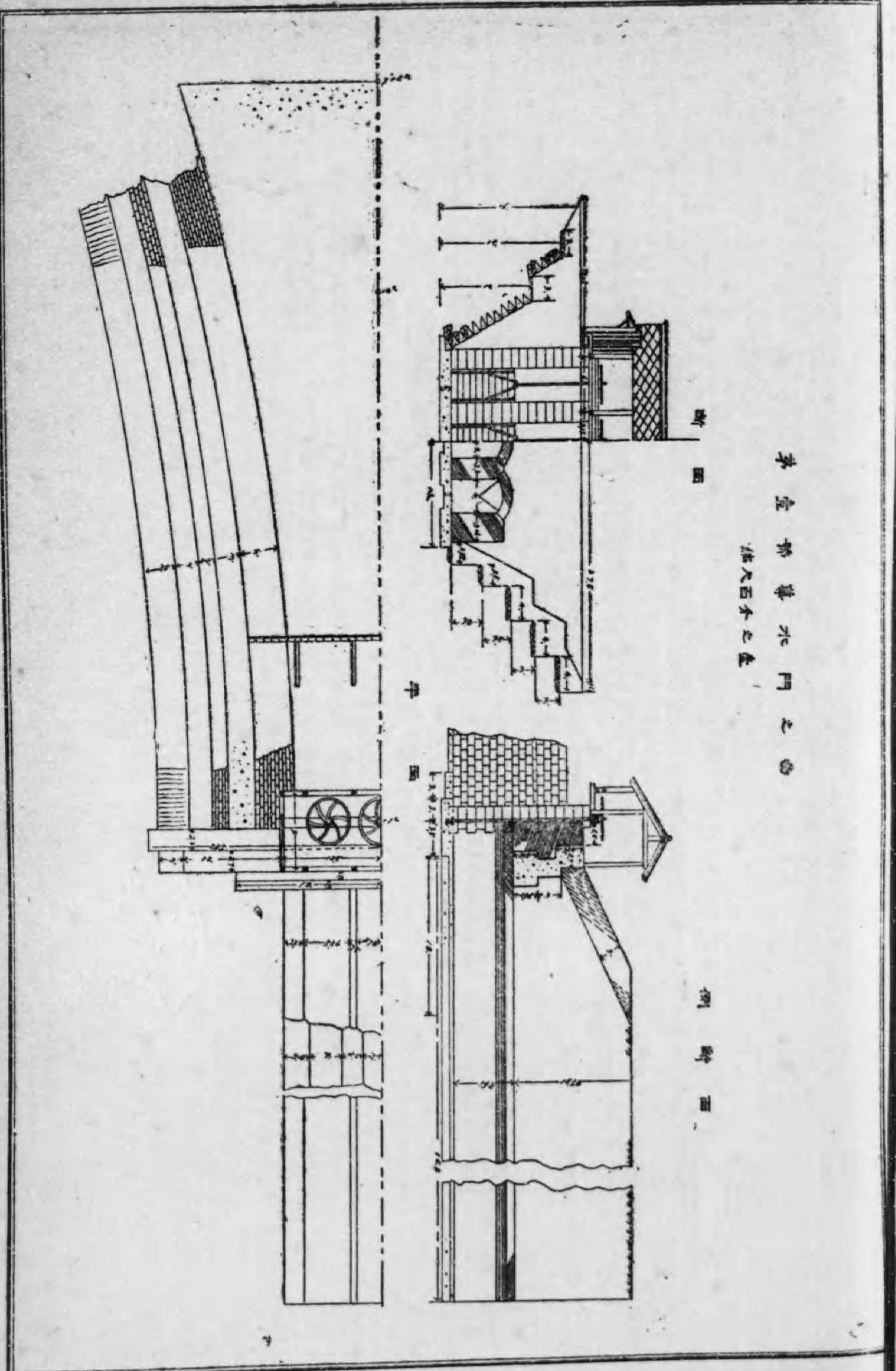
らんことを切望して止まないものである。  
大正五年九月下汜

衆議員議員  
勳四等 東 武







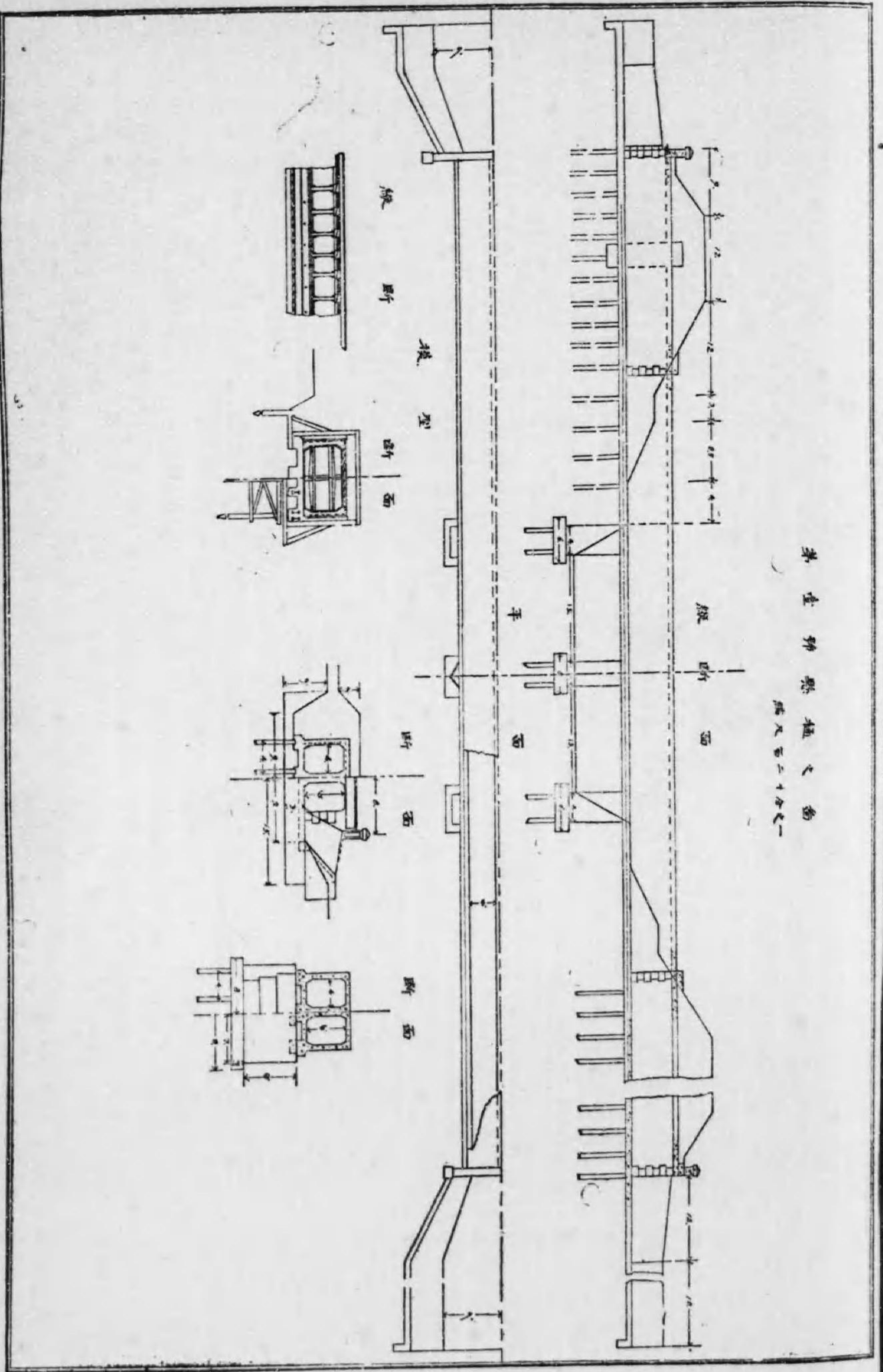


水門之構造  
断面之圖

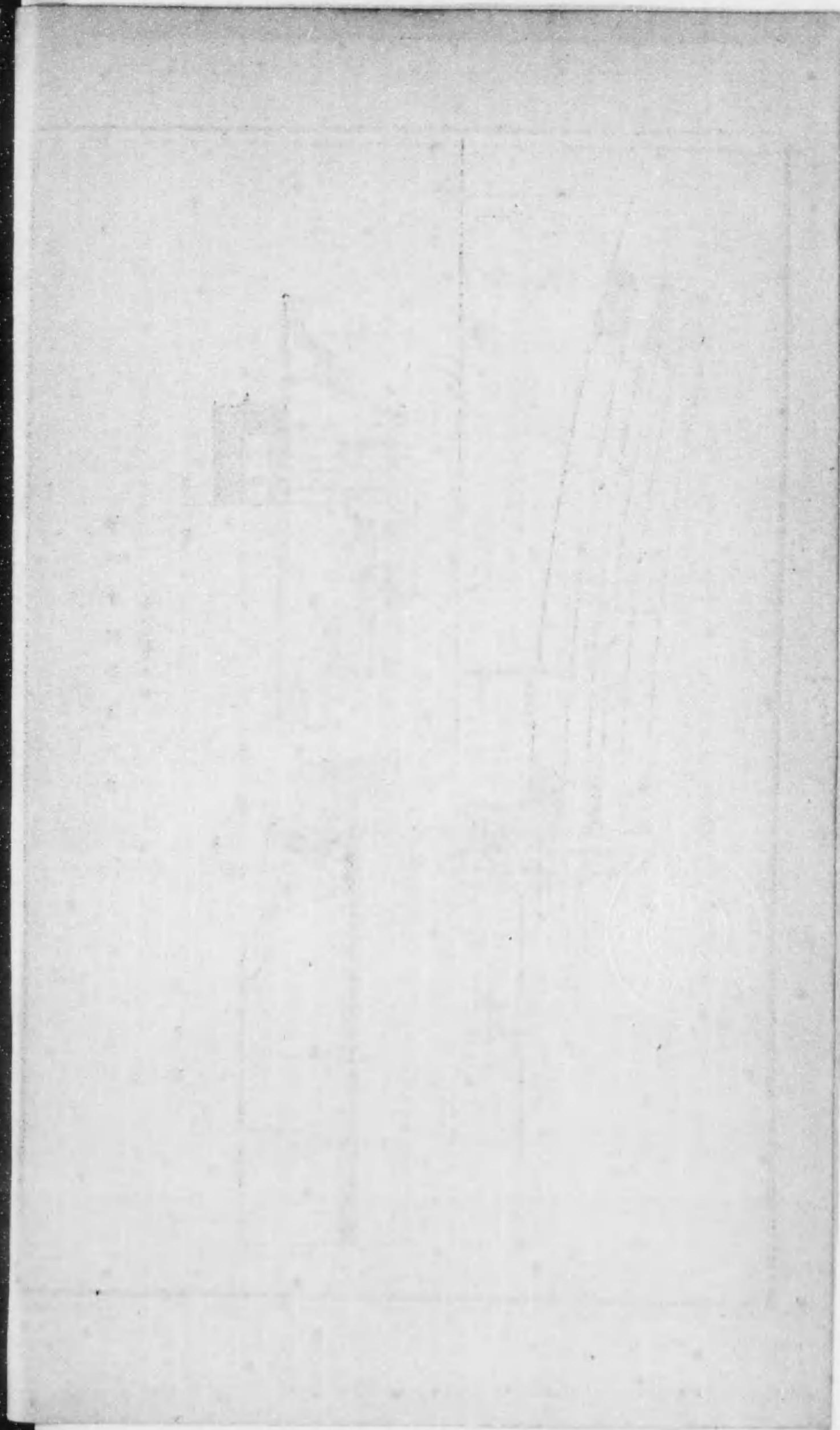
側面之圖





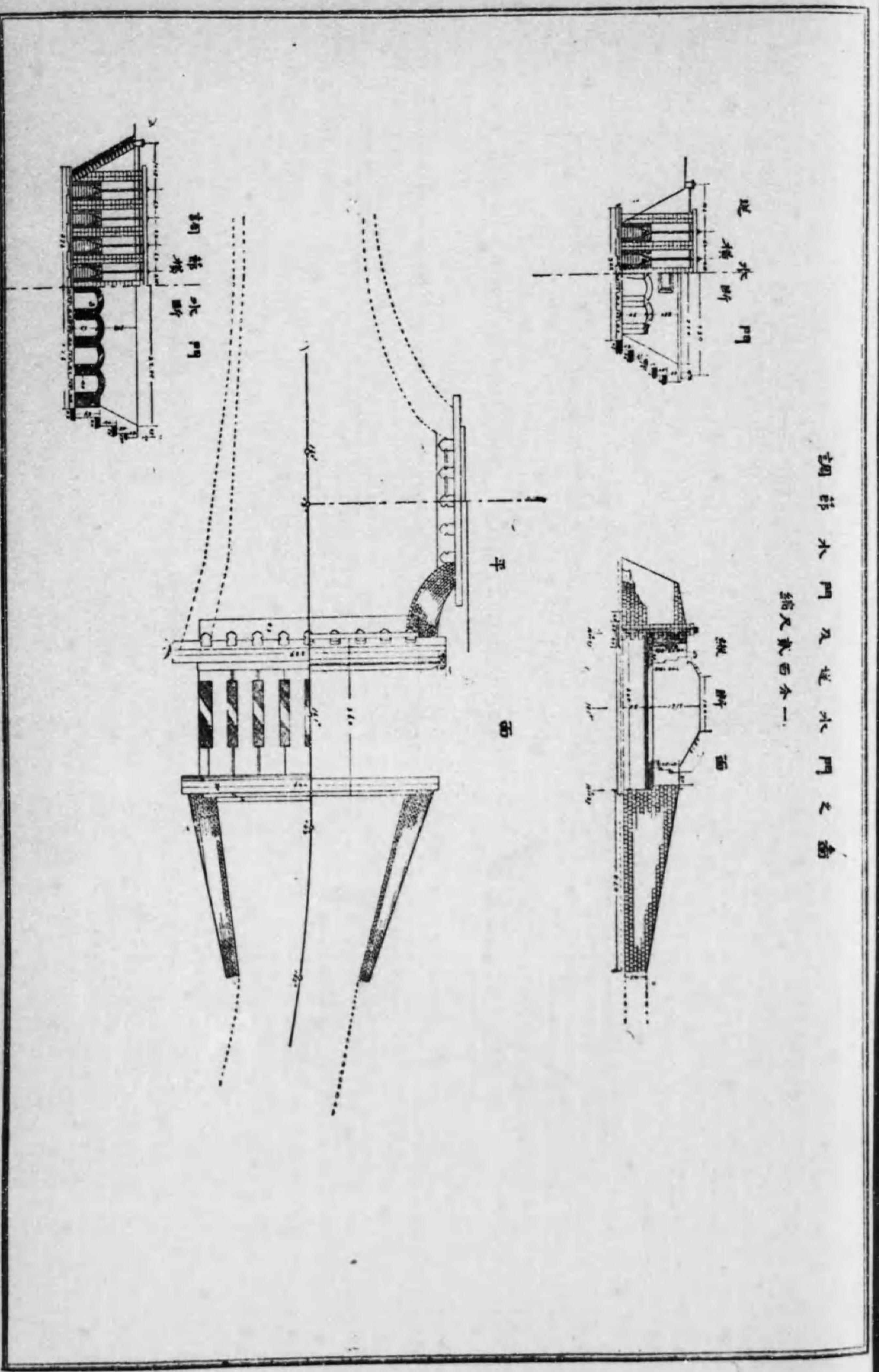


蒸 汽 炉 的 结 构 图  
图 号 为 2-1-1

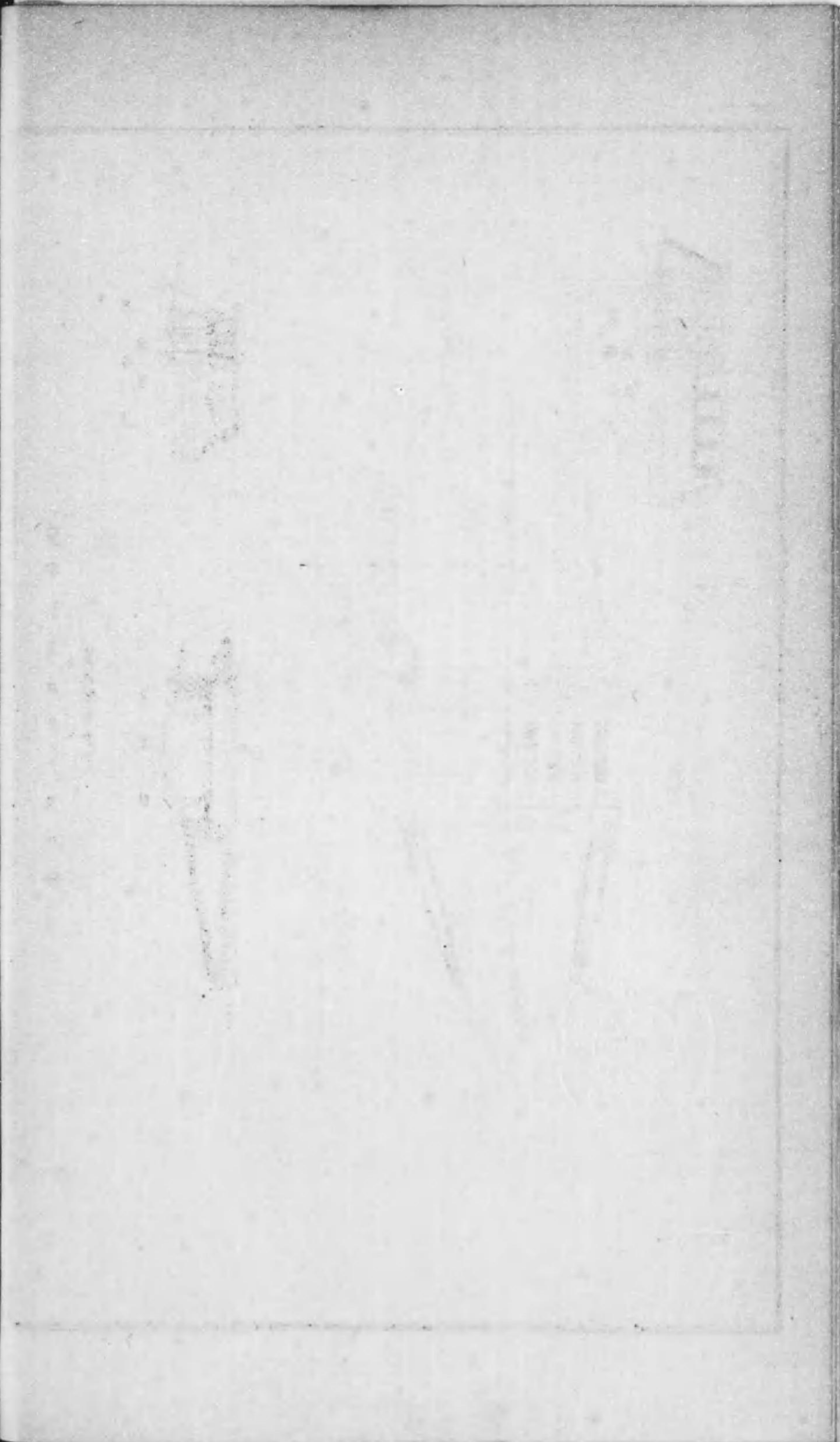
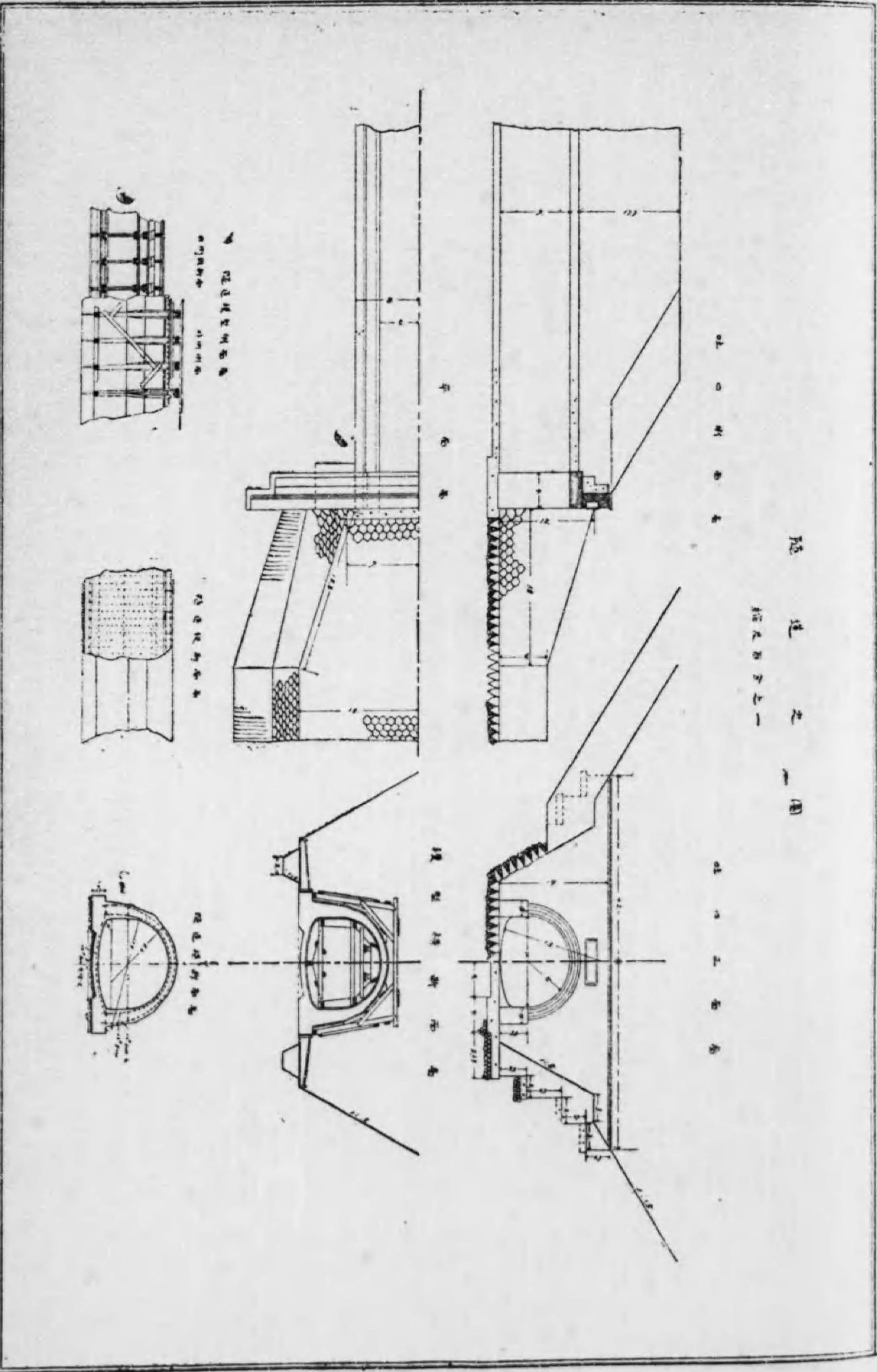




調節水門及進水門之圖  
縮尺數百分之一









种 族 阶 级 之 备

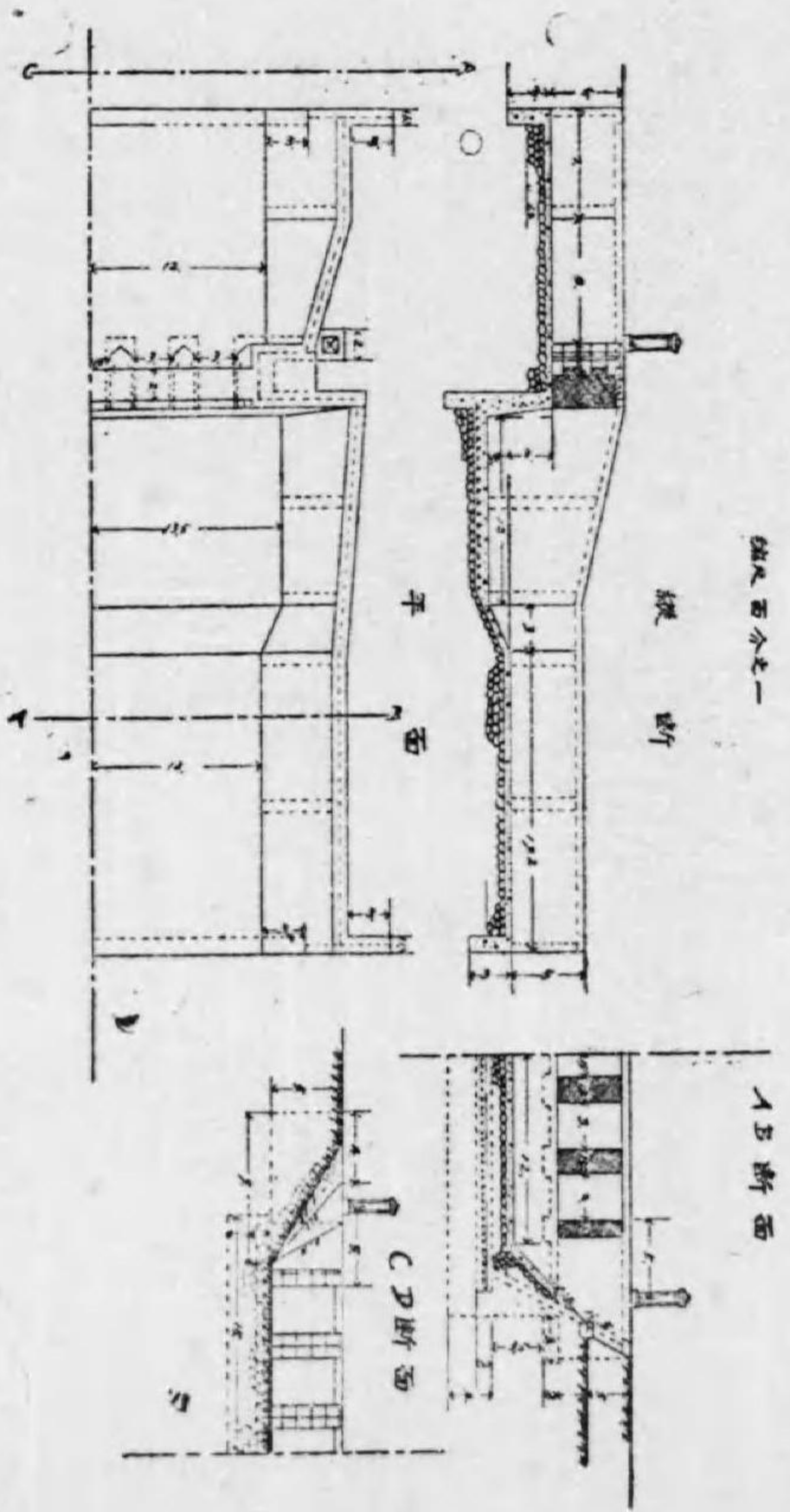
图 100 个 之 一

横 断

平 面

1 号 断 面

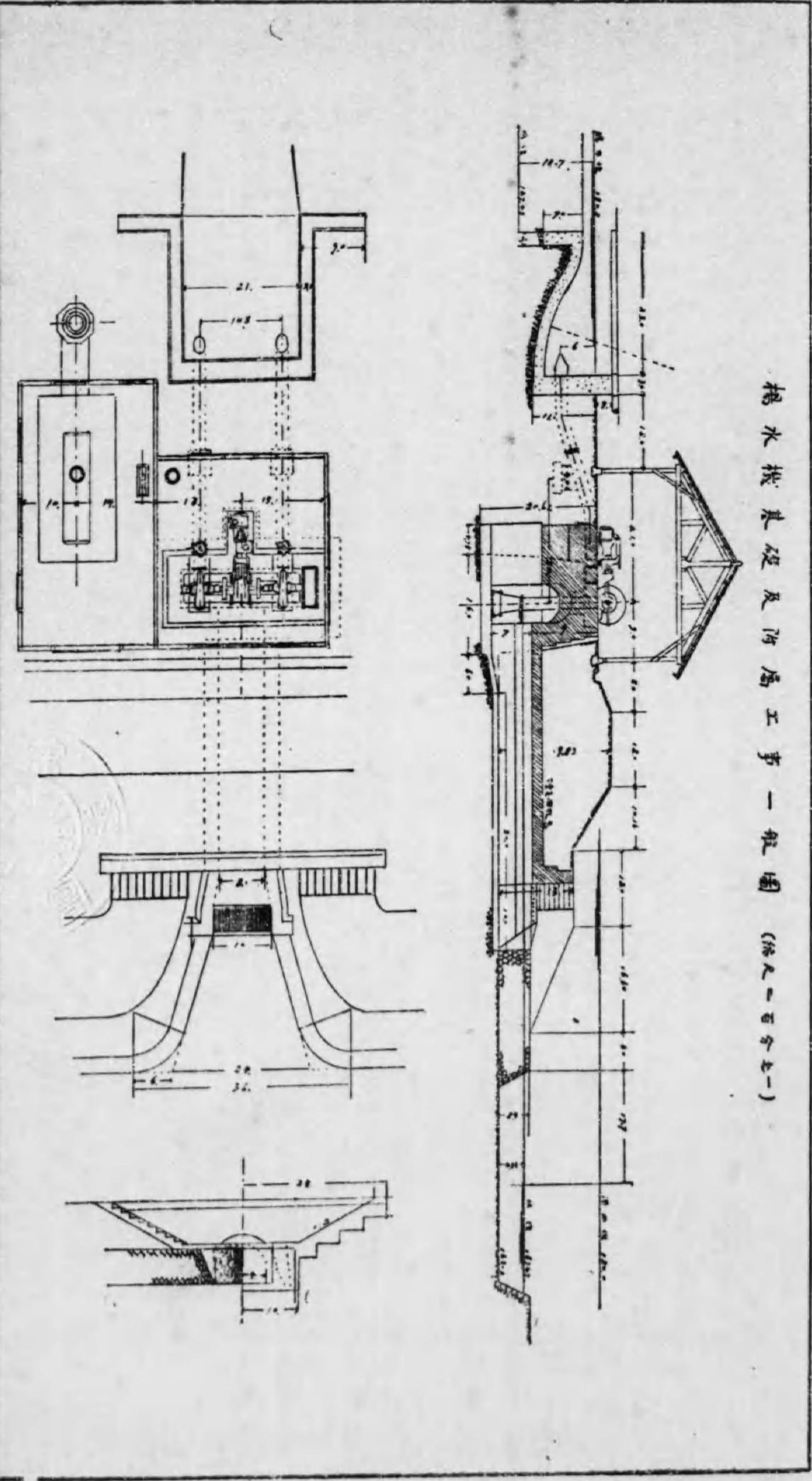
C 号 断 面











抽水機基礎及河屬工事一軌圖 (係九一百分之)







# 新線水路橫断面圖

新線水路橫断面圖

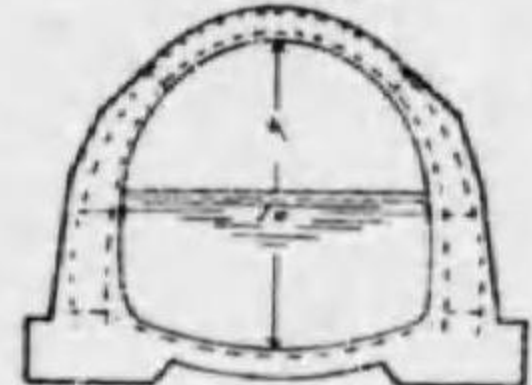
第一號導水門断面

断面尺寸  
11' - 12' / 2.0



第二號導水門断面

断面尺寸  
12' - 13' / 2.0



第三號導水門断面

断面尺寸  
14' - 15' / 2.0

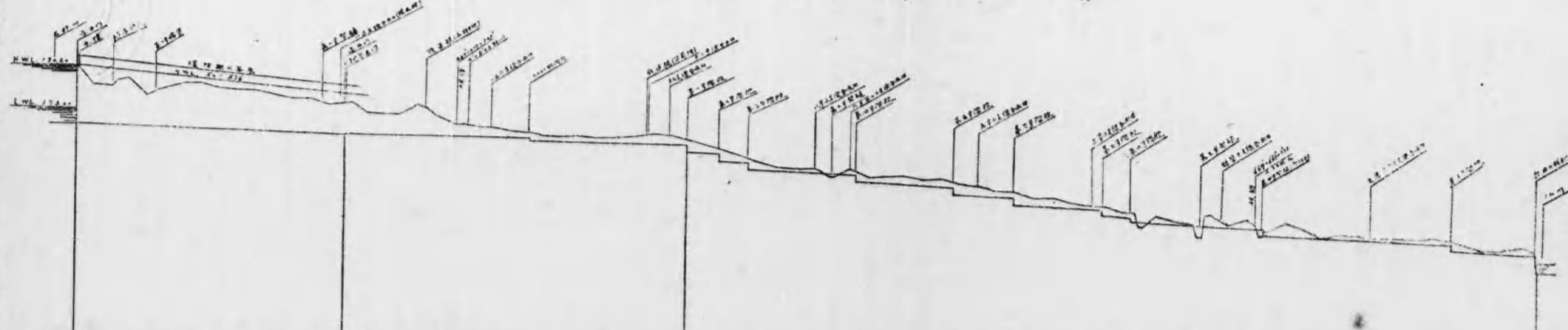


第四號導水門断面

断面尺寸  
16' - 17' / 2.0



# 新線水路縱断面圖

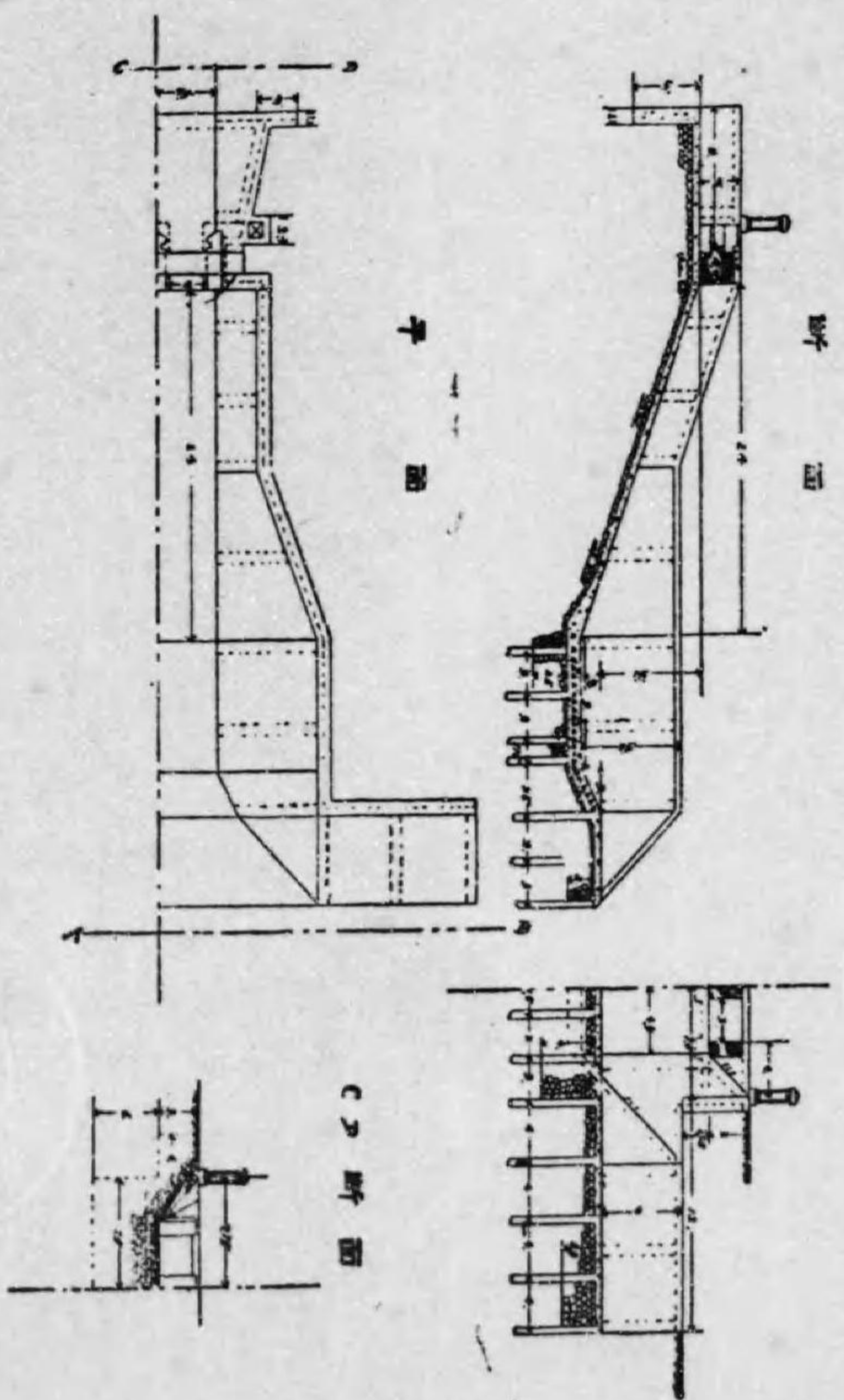


里程	地面高程	水面高程	水深	底面高程	底面寬度	底面坡度	其他
0+00	10.00	9.80	0.20	9.60	10.0	1:1	
0+10	9.80	9.60	0.20	9.40	10.0	1:1	
0+20	9.60	9.40	0.20	9.20	10.0	1:1	
0+30	9.40	9.20	0.20	9.00	10.0	1:1	
0+40	9.20	9.00	0.20	8.80	10.0	1:1	
0+50	9.00	8.80	0.20	8.60	10.0	1:1	
0+60	8.80	8.60	0.20	8.40	10.0	1:1	
0+70	8.60	8.40	0.20	8.20	10.0	1:1	
0+80	8.40	8.20	0.20	8.00	10.0	1:1	
0+90	8.20	8.00	0.20	7.80	10.0	1:1	
0+100	8.00	7.80	0.20	7.60	10.0	1:1	
0+110	7.80	7.60	0.20	7.40	10.0	1:1	
0+120	7.60	7.40	0.20	7.20	10.0	1:1	
0+130	7.40	7.20	0.20	7.00	10.0	1:1	
0+140	7.20	7.00	0.20	6.80	10.0	1:1	
0+150	7.00	6.80	0.20	6.60	10.0	1:1	
0+160	6.80	6.60	0.20	6.40	10.0	1:1	
0+170	6.60	6.40	0.20	6.20	10.0	1:1	
0+180	6.40	6.20	0.20	6.00	10.0	1:1	
0+190	6.20	6.00	0.20	5.80	10.0	1:1	
0+200	6.00	5.80	0.20	5.60	10.0	1:1	
0+210	5.80	5.60	0.20	5.40	10.0	1:1	
0+220	5.60	5.40	0.20	5.20	10.0	1:1	
0+230	5.40	5.20	0.20	5.00	10.0	1:1	
0+240	5.20	5.00	0.20	4.80	10.0	1:1	
0+250	5.00	4.80	0.20	4.60	10.0	1:1	
0+260	4.80	4.60	0.20	4.40	10.0	1:1	
0+270	4.60	4.40	0.20	4.20	10.0	1:1	
0+280	4.40	4.20	0.20	4.00	10.0	1:1	
0+290	4.20	4.00	0.20	3.80	10.0	1:1	
0+300	4.00	3.80	0.20	3.60	10.0	1:1	
0+310	3.80	3.60	0.20	3.40	10.0	1:1	
0+320	3.60	3.40	0.20	3.20	10.0	1:1	
0+330	3.40	3.20	0.20	3.00	10.0	1:1	
0+340	3.20	3.00	0.20	2.80	10.0	1:1	
0+350	3.00	2.80	0.20	2.60	10.0	1:1	
0+360	2.80	2.60	0.20	2.40	10.0	1:1	
0+370	2.60	2.40	0.20	2.20	10.0	1:1	
0+380	2.40	2.20	0.20	2.00	10.0	1:1	
0+390	2.20	2.00	0.20	1.80	10.0	1:1	
0+400	2.00	1.80	0.20	1.60	10.0	1:1	
0+410	1.80	1.60	0.20	1.40	10.0	1:1	
0+420	1.60	1.40	0.20	1.20	10.0	1:1	
0+430	1.40	1.20	0.20	1.00	10.0	1:1	
0+440	1.20	1.00	0.20	0.80	10.0	1:1	
0+450	1.00	0.80	0.20	0.60	10.0	1:1	
0+460	0.80	0.60	0.20	0.40	10.0	1:1	
0+470	0.60	0.40	0.20	0.20	10.0	1:1	
0+480	0.40	0.20	0.20	0.00	10.0	1:1	
0+490	0.20	0.00	0.20	-0.20	10.0	1:1	
0+500	0.00	-0.20	0.20	-0.40	10.0	1:1	

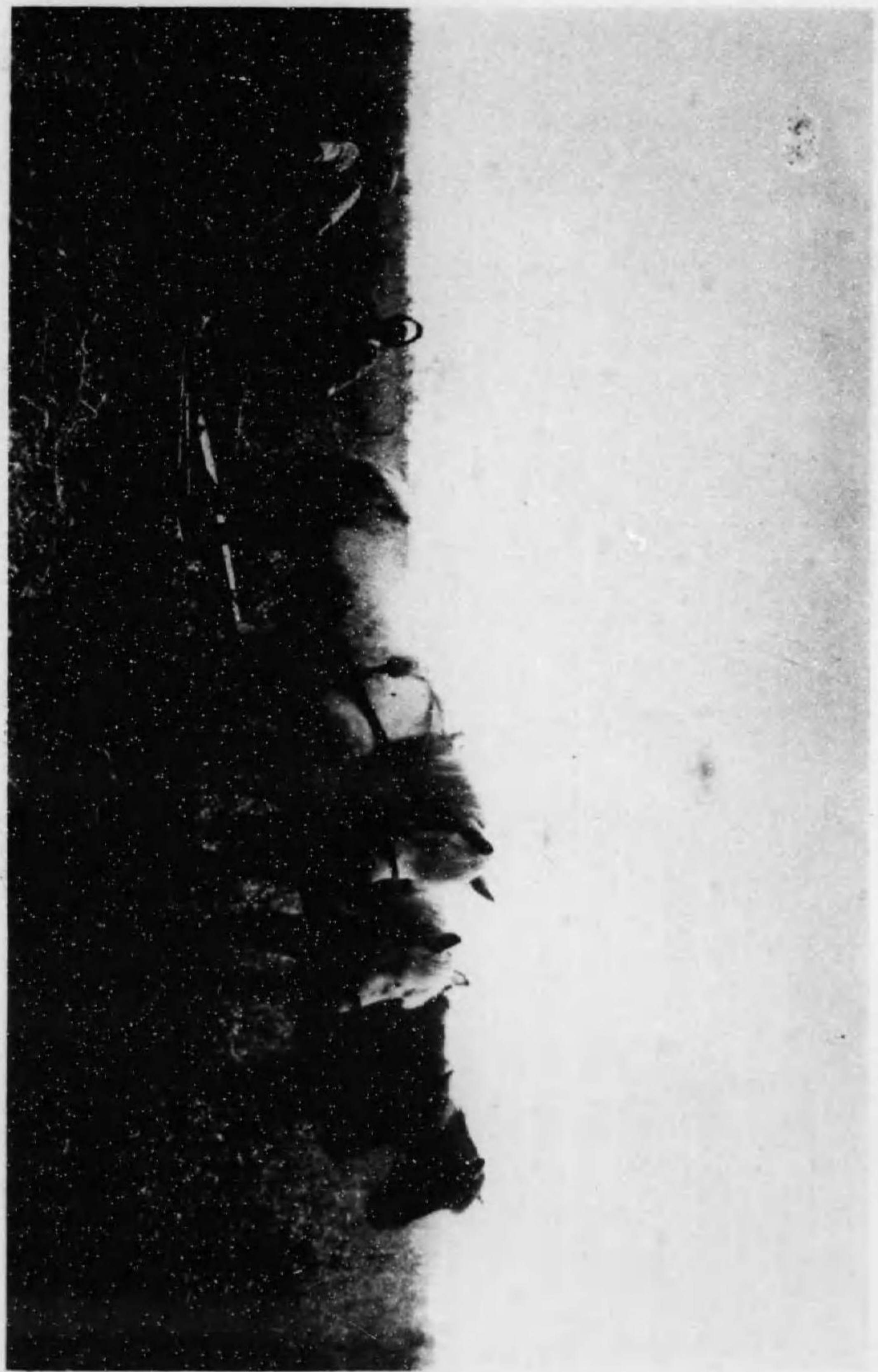


輪 索 斜 段 之 輪

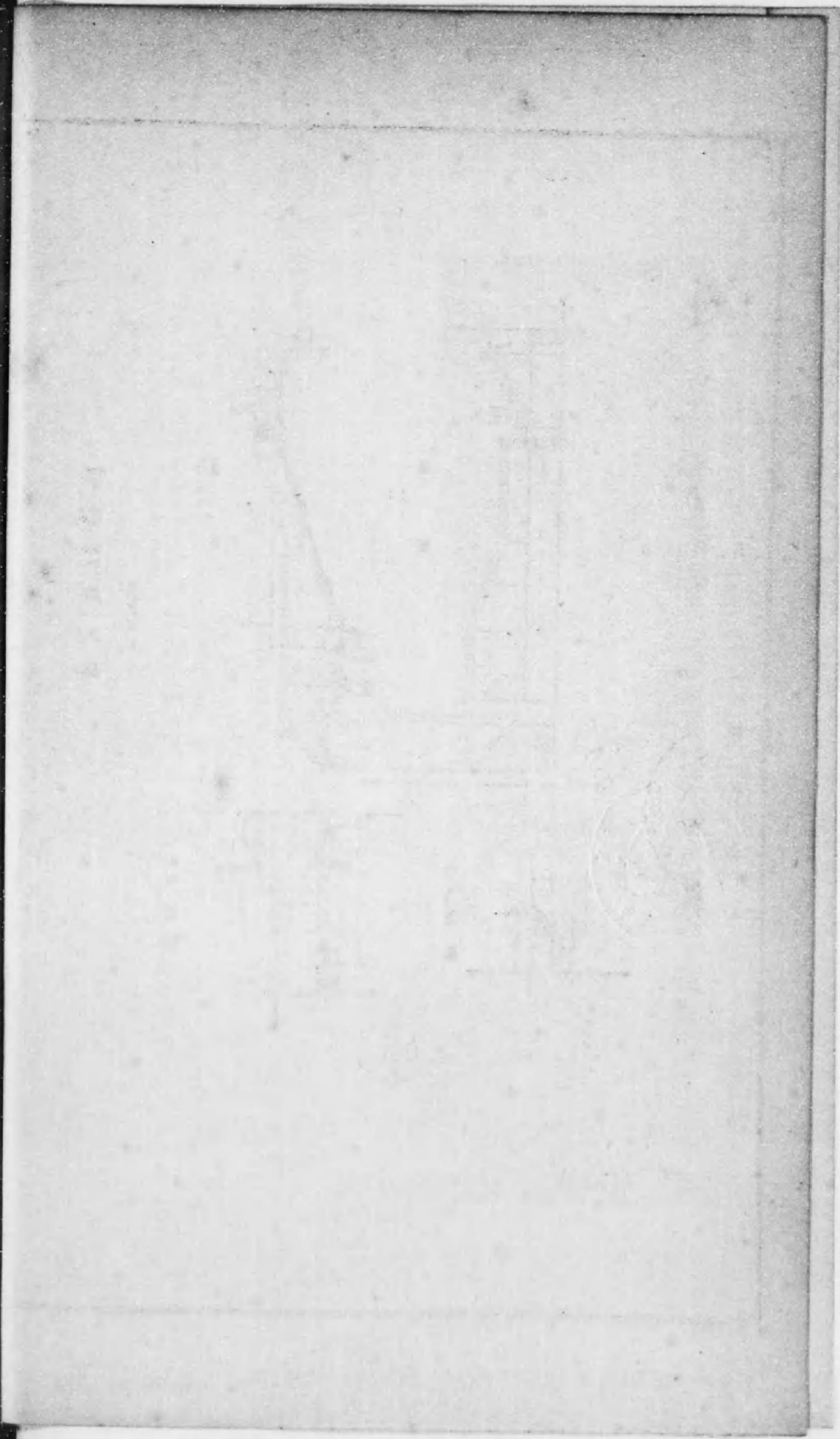
縮 入 四 分 一





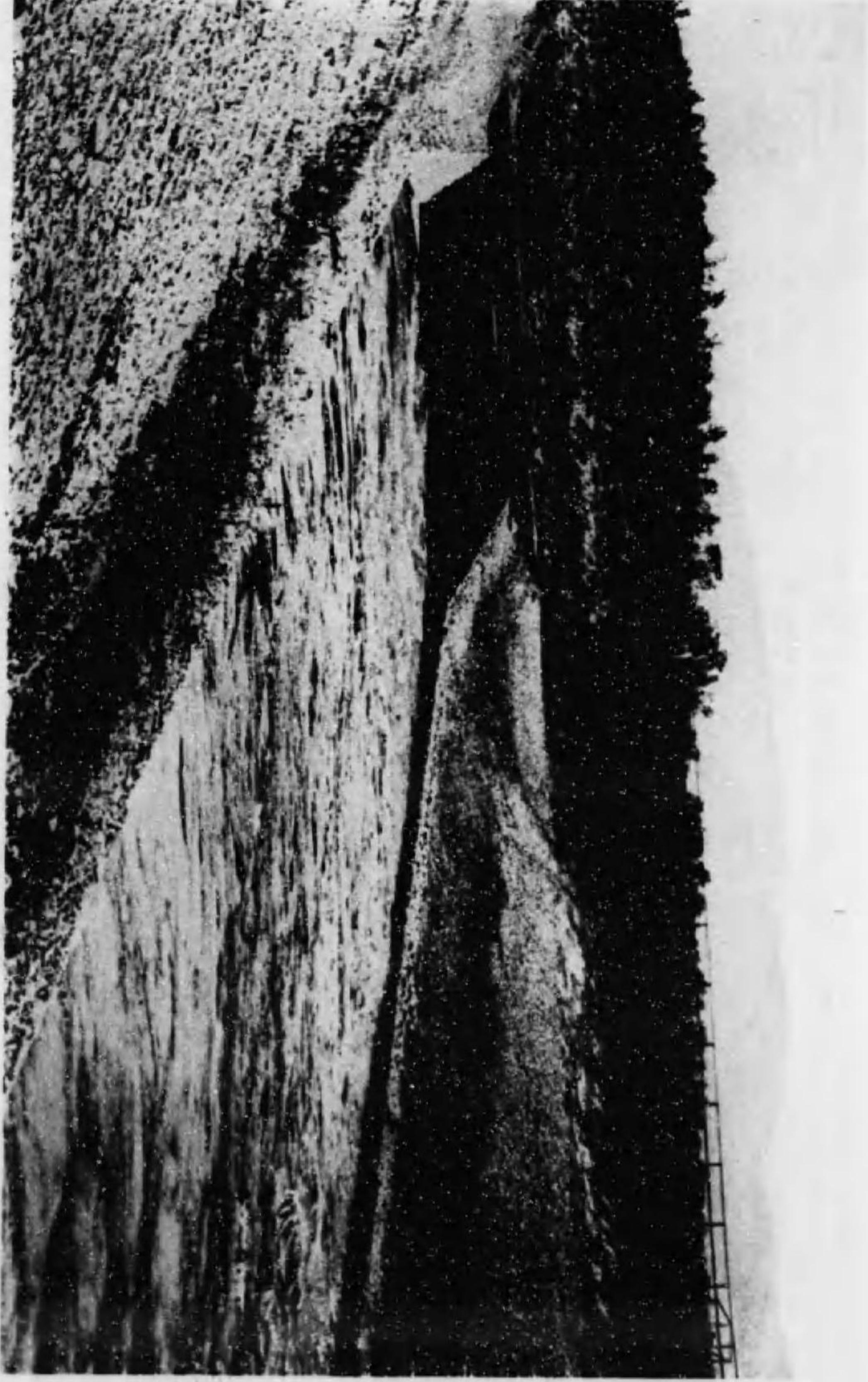


深川創業當時の光景

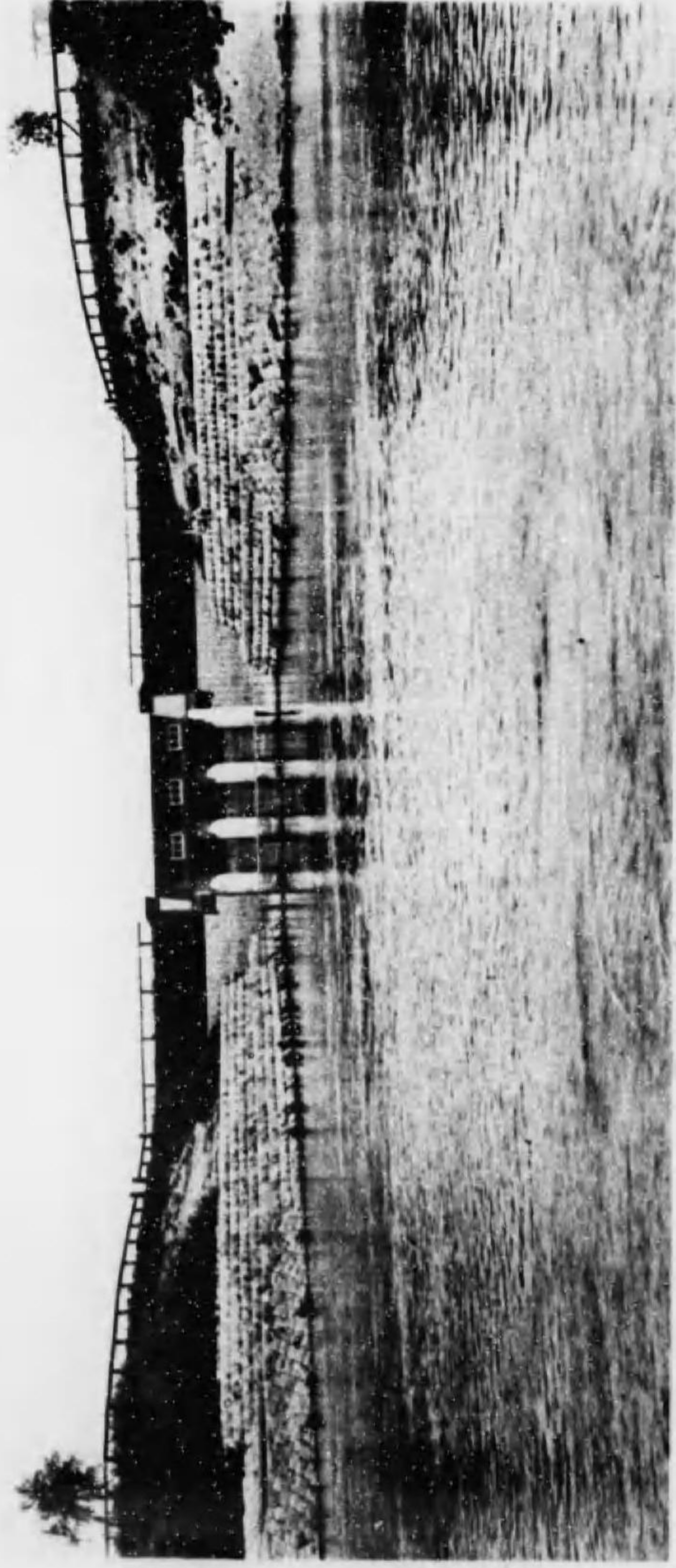




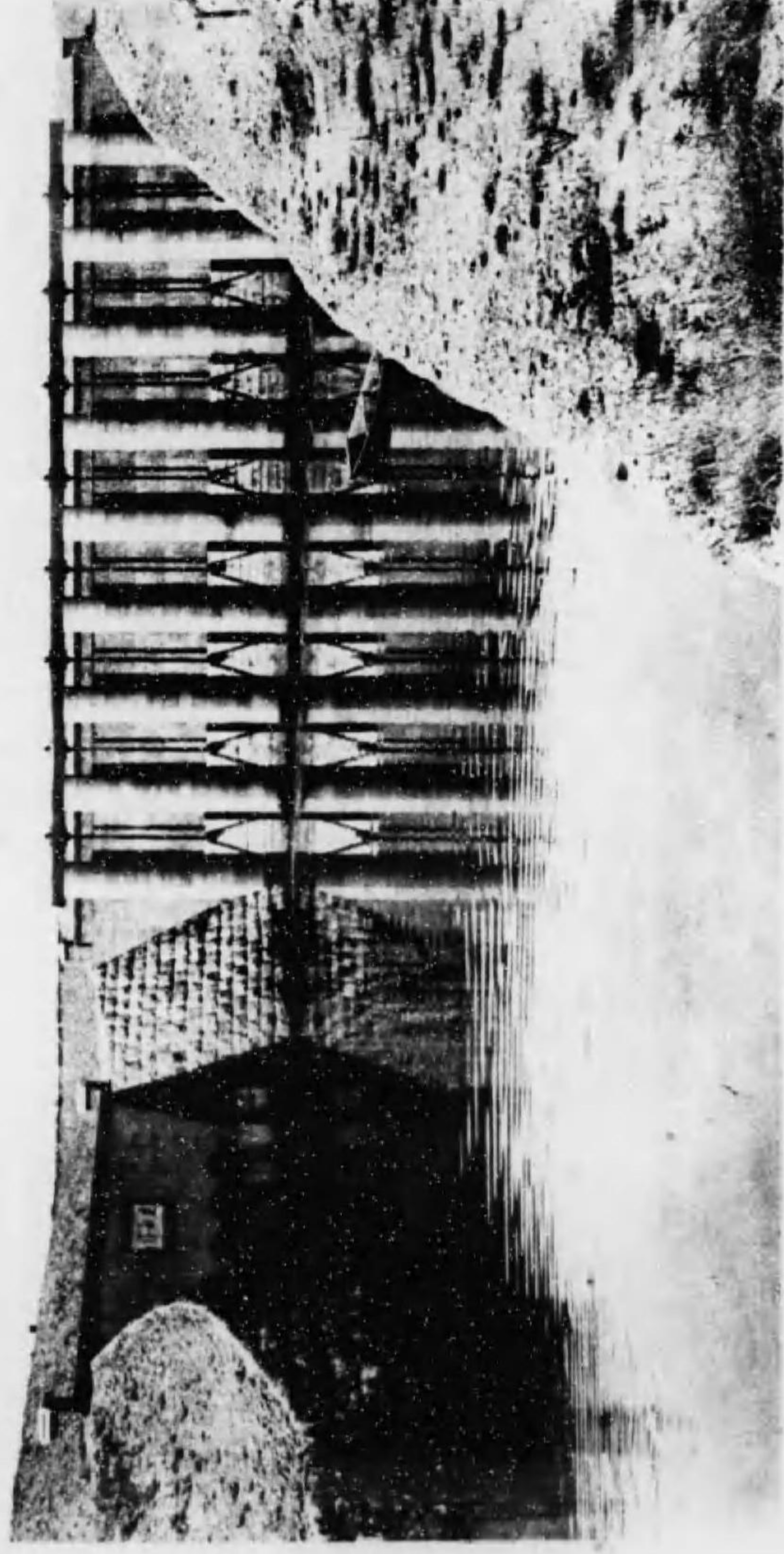
(三ノ井) 口 出 水 用 道 陸 線 幹



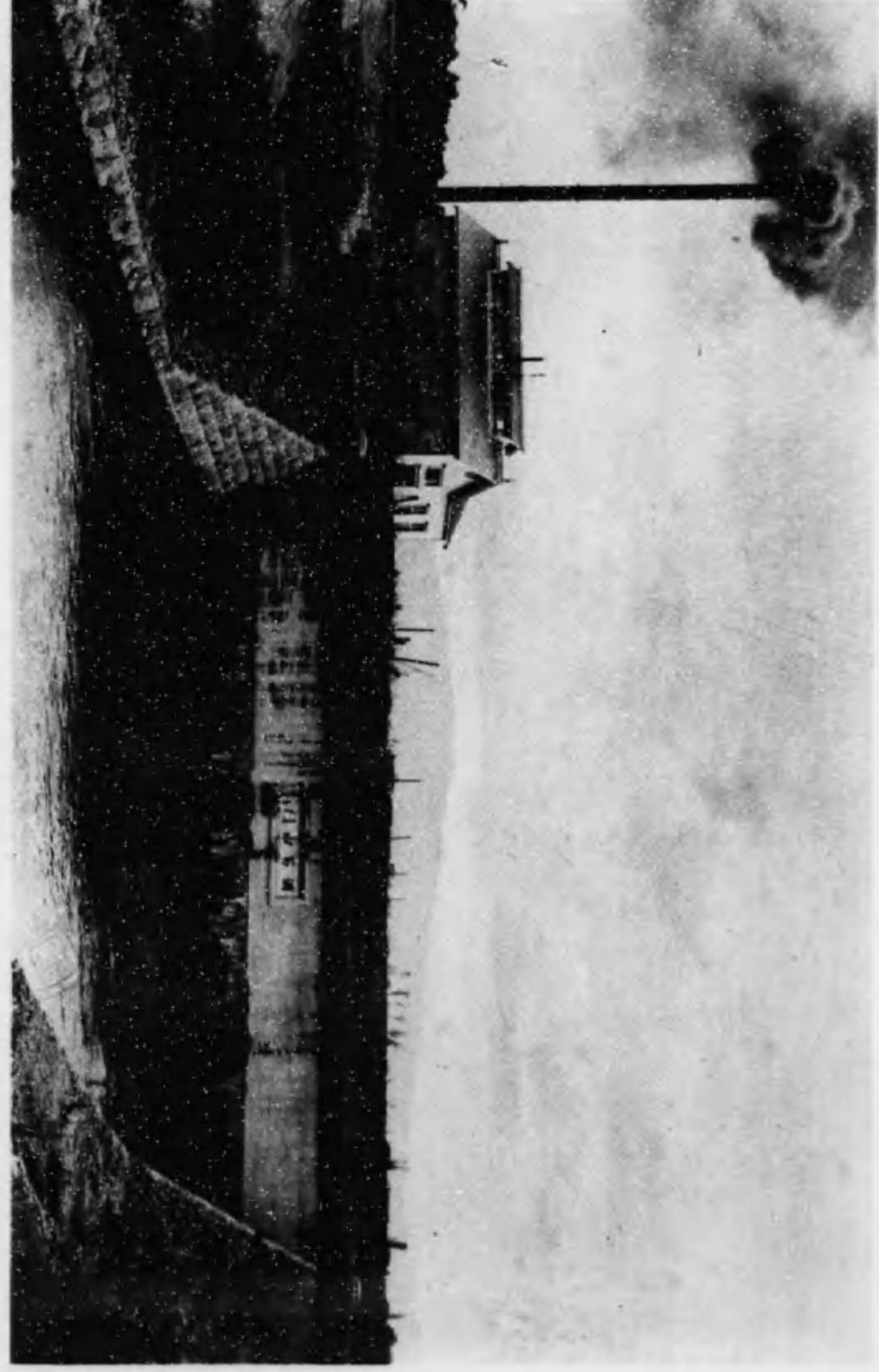
(一ノ井) 門 水 導 號 一 第 線 幹







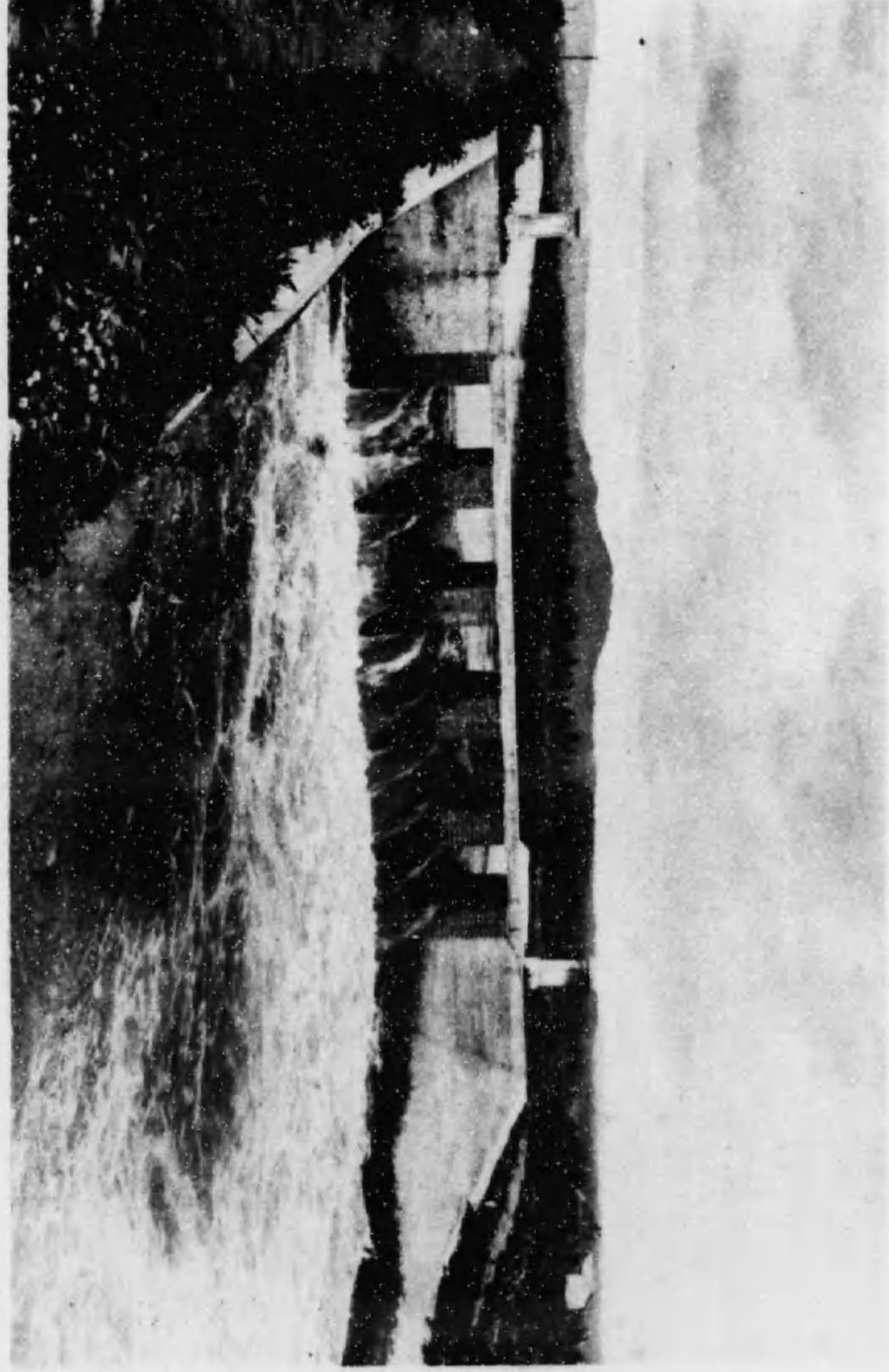
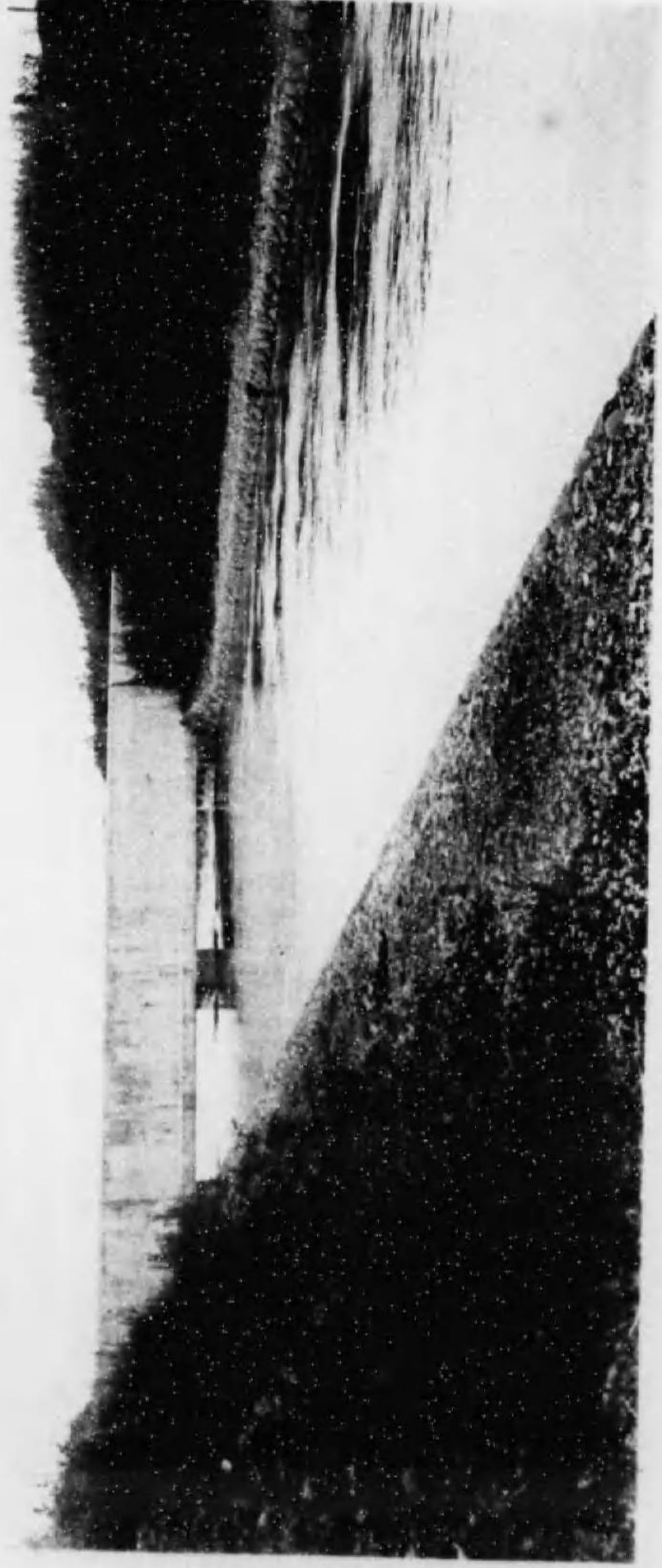
(三ノ其) 門水放及門水節調



(四ノ其) 手裏門水節調及地在所機水揚

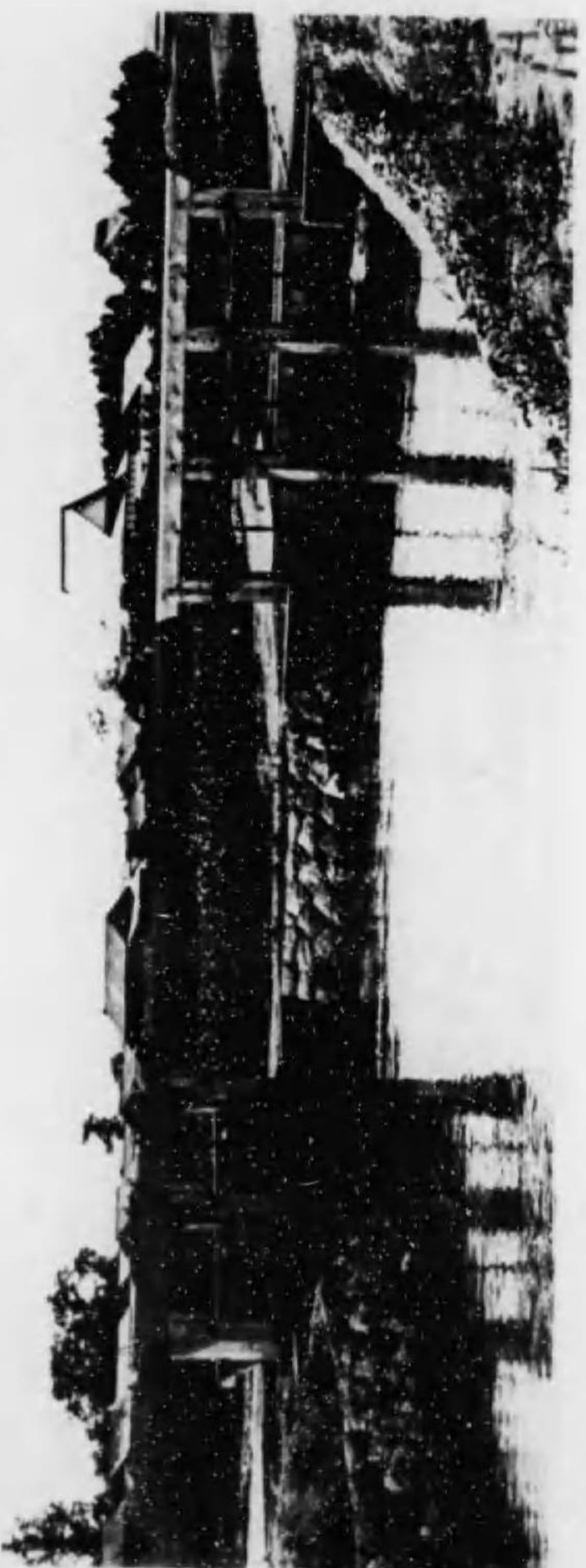


リウクウシマムツ川懸橋 (五ノ尺)



鐵筋混凝土階段 (六ノ尺)





妹背牛支線分水門(其八)



莽生支線分水門(其七)



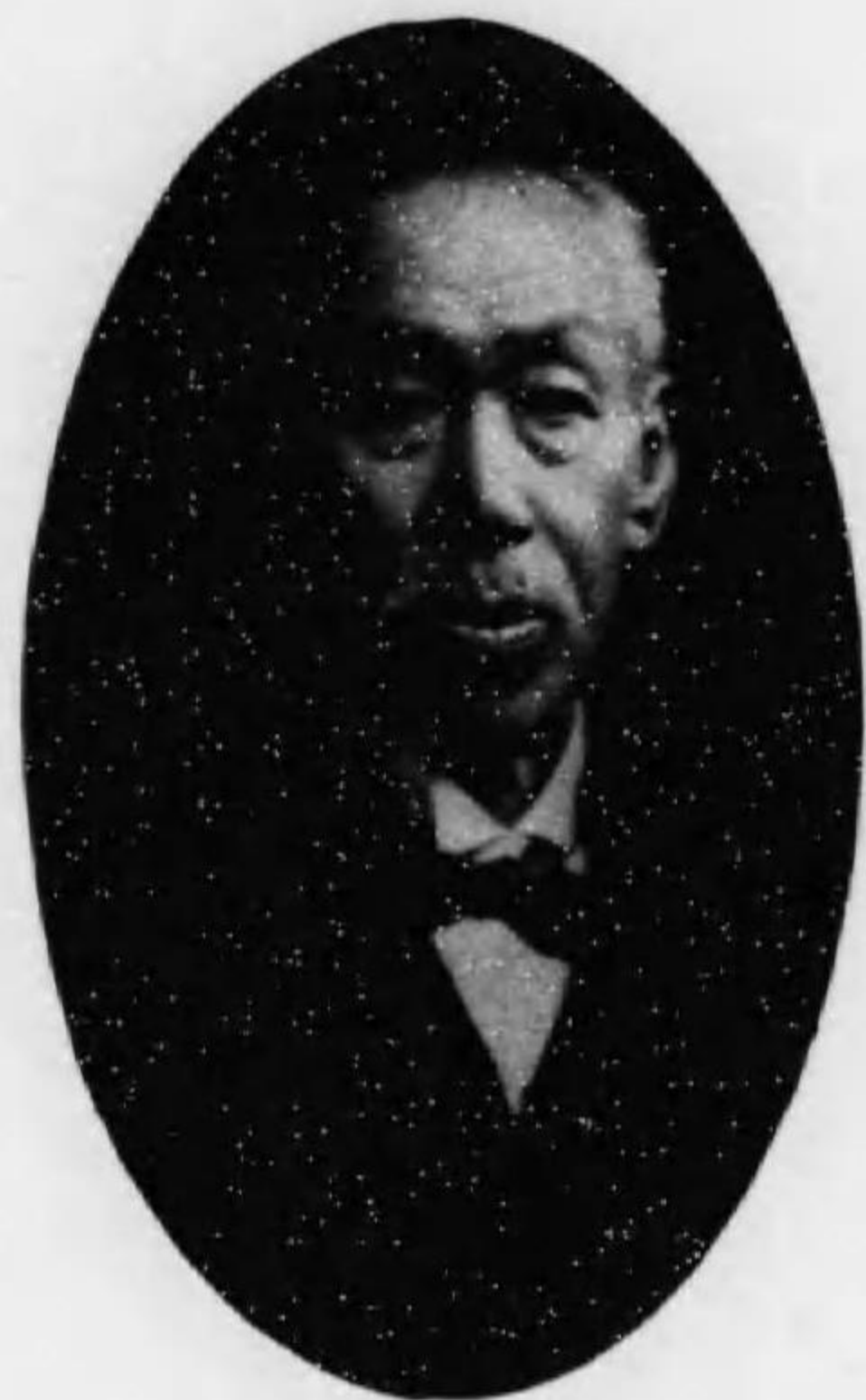
官長 廳道海北 孫 依 一



官長 廳道海北元 醇 島 河



深川土功組合顧問



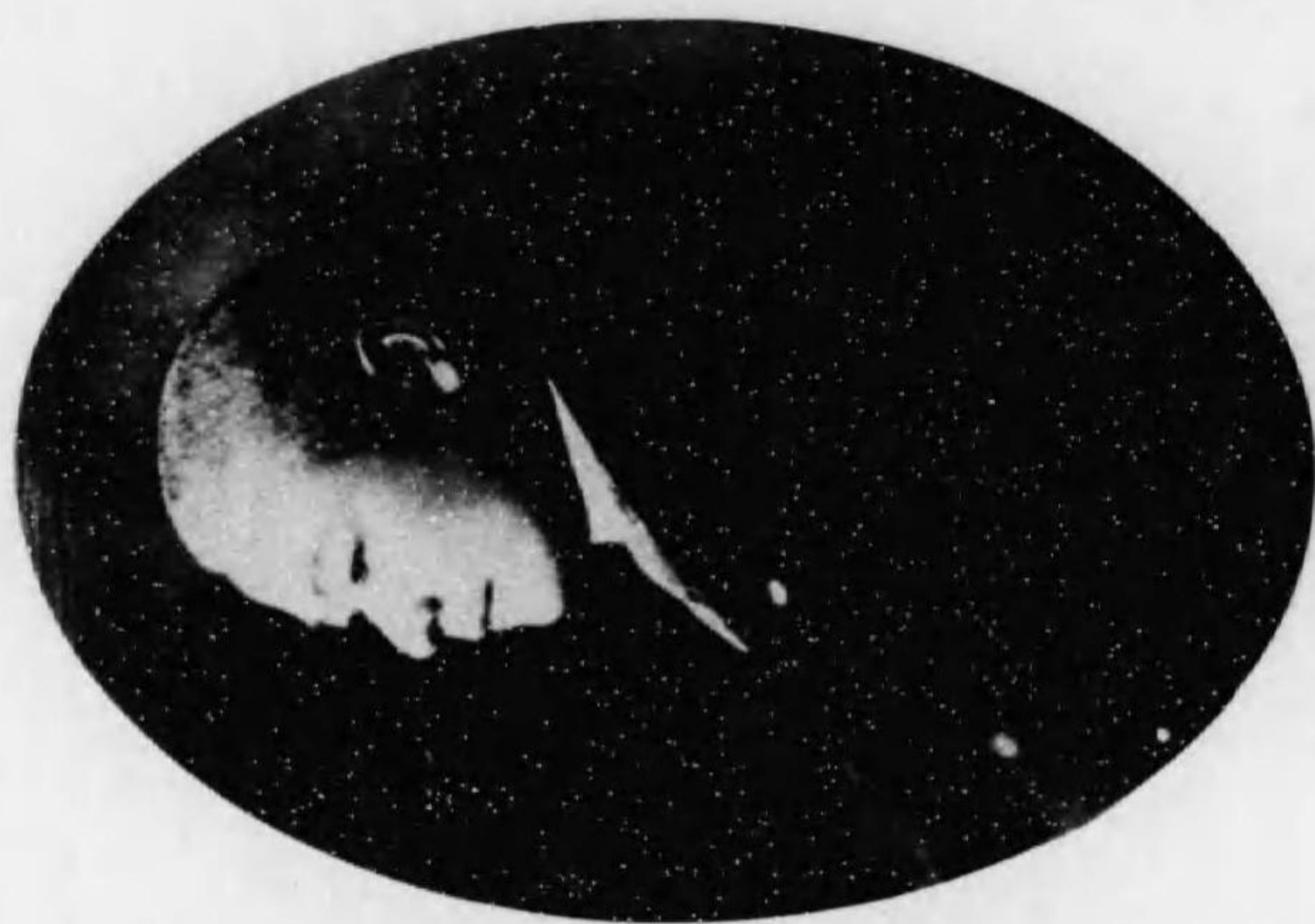
森源三



内田游



武東



前空支廳長深川土功組合  
藏貞見稻



前空支廳長深川土功組合  
增田彰



深川土功組合理事



上杉米藏



中井哲太郎



青木利一



前野野節夫  
北海道土木技術師



友川深川土功組合技術師  
仲成



手技合組功土川深



助新間本



助丙是唯



進之保木々佐



作莊南



郎三茂宮小



吉景野上



作幸野中



行直田神



治春岩小

員議評合組功土川深

篠田 赫穂



山川十免吉



川上和平



島牛之助



林 熊治郎



太田金太郎



柳町 幹一郎



爲岡利三郎



青地初三郎



小野 魁之助





記書合組功土川深



六 榮 部 阿



次 鐵 間 本



治 雅 山 利 毛

記書託囑及者掌兼務事計會  
屬 應 道 海 北



勇 野 上



郎 次 幸 井 高



治 菊 野 今



作 貞 本 瀧



郎 三 龍 井 石



岡田島太郎



中島幸次郎



川上樂治



遠藤庄次郎



深瀬倉松



篠田建彦



植田重太郎



村田忠正



杉村政常



谷口又次郎



元深川土功組合議員

深川土功組合議員

竹原岩吉



長谷川鐵治郎



加藤勲三郎



土屋錦治郎



深川土功組合議員  
佐藤的藤也



五十嵐國松



徳廣愛吉



横山角藏



横内清太郎

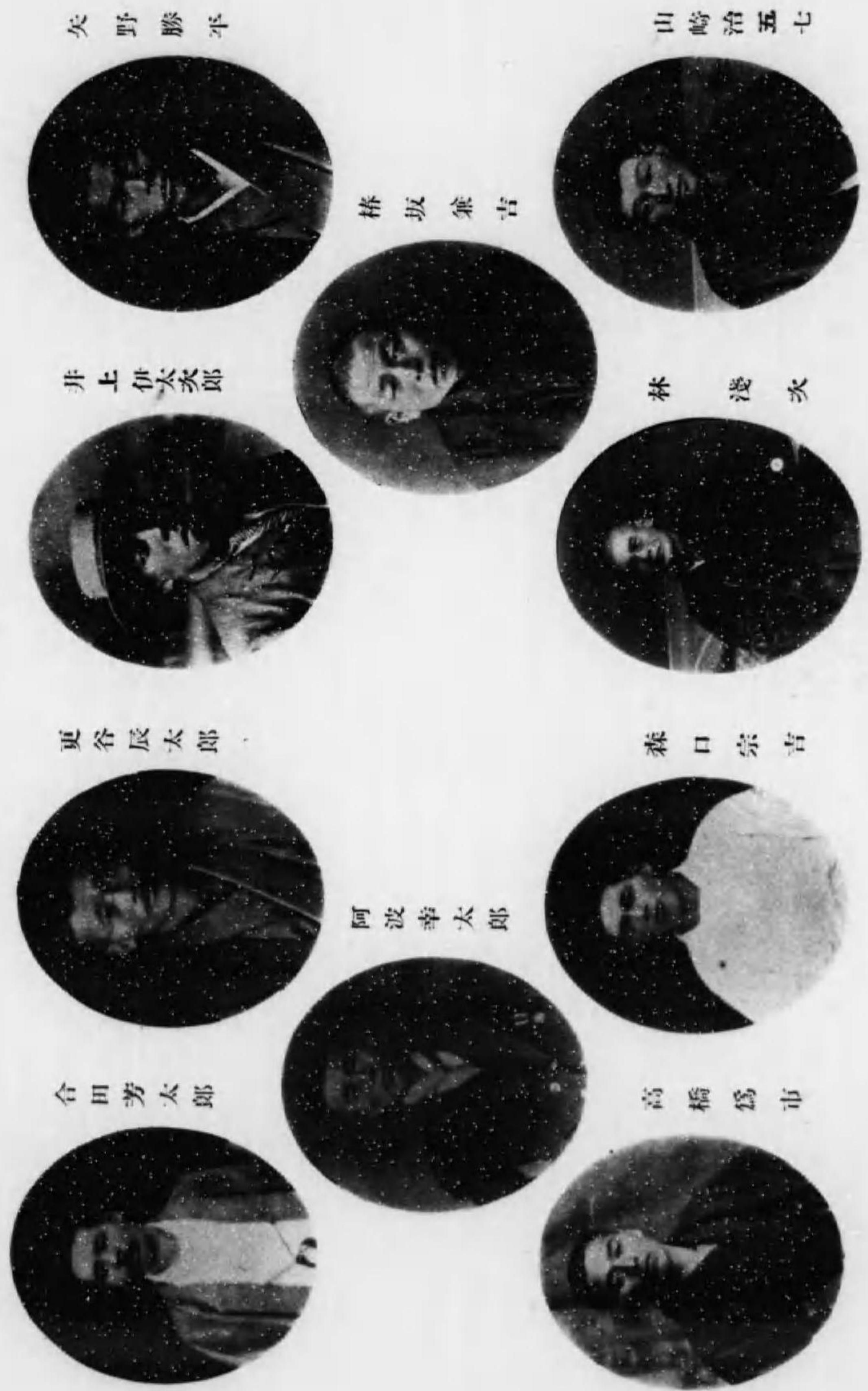


小野愛助





深川土功組合議員



矢野勝平

山崎治五七

椿坂兼吉

井上伊次郎

林淺次

更谷辰太郎

春口宗吉

阿波幸太郎

合田芳太郎

高橋爲市

例言

一本書ノ編纂ハ大正五年七月一日ヨリ着手シ同年九月二十日ニ終了シタルモノニシテ記載事項ハ組合創立前ヨリ大正五年六月三十日マテトシ特ニ編纂中同年九月十七日舉行セル竣工式ノ一節ヲ挿入セリ

一本書ノ資料ハ主トシテ組合ノ書類ヨリ蒐集シ得ルニ随ツテ録シタルモノナレハ目次ノ如キモ最後ニ適宜按配セリ故ニ記事其順ヲ失シ事實ニ精粗アルヲ免レス是等ハ後日ノ補正ニ俟ツ



深川土功組合記要

目次

第一章	緒言	一
第二章	開闢ノ基因	五
第三章	米作ノ濫觴	八
第四章	水利ノ調査	一〇
第五章	組合ノ成立	一五
第一節	設立準備	一五
第二節	創立總會	二一
第三節	組合申請	二七
第四節	組合認可	三五
第五節	事務引繼	五〇

目次



第六章	諸般ノ設備	五四
第七章	起工ノ沿革	五六
第一節	水源撰定	五六
第二節	沿岸故障	六一
第三節	計劃變更	六一
第四節	設計確定	六四
第五節	區域變更	六八
第八章	財政ノ計劃	七七
第九章	國庫ノ補助	八三
第一節	補助決定	八三
第二節	往復書類	八六
第十章	起債及償還	九四
第一節	總工事費	九四

第二節	補充借入	九九
第三節	低利資金	一〇〇
第十一章	賦課及徵收	一〇四
第十二章	豫算及決算	一〇六
第十三章	水利權解決	一一四
第十四章	揚水機調査	一二一
第一節	實況視察	一二一
第二節	結果報告	一二三
第三節	機械撰定	一二五
第十五章	土地ノ買收	一二七
第十六章	事務所建築	一三一
第十七章	第一期工事	一三三
第一節	計劃概要	一三三



第二節	揚水機線	一四四
第三節	起工認可	一四六
第四節	起工ノ式	一五三
第五節	大正用水	一六〇
第六節	實施概要	一六三
第七節	第一年度	一六五
第八節	私設電話	一六九
第九節	第二年度	一七五
第十節	冬期作業	一八三
第十一節	第三年度	一八六
第十二節	鐵道作業	一九五
第十八章	第二期工事	二〇一
第一節	計劃概要	二〇一

第二節	起工認可	二〇七
第三節	實施概要	二〇九
第四節	竣工ノ式	二一九
第十九章	請負及直營	二三七

第一節	工事總括	二三七
第二節	弊風矯正	二四二
第三節	請負方法	二四四

第二十章	事務及經理	二四八
第二十一章	河岸ノ防備	二五〇
第二十二章	河口土砂止	二五六
第二十三章	官有地編入	二五九
第二十四章	敷地内道路	二六一
第二十五章	放水路使用	二六四



第二十六章 陷落地問題……………二六七

第二十七章 規約及規程……………二七二

第二十八章 役員及吏員……………三三四

    第一節 役員異動……………三三四

    第二節 吏員異動……………三三九

第二十九章 組合員氏名……………三四四

第三十章 組合長更迭……………三六〇

    第一節 舊組合長……………三六〇

    第二節 事務引繼……………三六一

第三十一章 組合ノ將來……………三七七

    第一節 收益豫想……………三七七

    第二節 支線組合……………三八一

    第三節 米作改良……………三九〇

目次終



# 深川土功組合紀要

## 第一章

### 緒言

本組合ハ深川土功組合ト稱シ深川村字芽生、妹背牛、永宮、大風及一巳村字一巳ノ諸部落ニ於ケル灌漑用水路ヲ施設維持スル爲メ北海道土功組合法ニ據リ設置シタルモノニシテ石狩國雨龍郡ニ屬シ北海道廳空知支廳管内ニ在リ石狩國本道ノ中央ニ於ケル帝國ノ巨川石狩川ノ流域ヨリ成リ全道第一ノ大國キトテ廣茫涯リオキ凹地帯ヲ有シ之ヲ石狩原野ト名ツク地味肥エ水利足りテ眞ニ天與ノ農耕地タリ故ヲ以テ人口ノ多キ生産ノ裕カナル十一州ニ冠タリ石狩凹地帯ハ其地質構造内地府縣ト異ナルナキニ係ハラス開拓使ノ當初ヨリ氣候極メテ寒烈ニシテ土地從ツテ礫礫到底拓地殖民ノ地ニ非ラサルカ如ク頗ル誇大ニ傳説セラレキ然モ開拓使ハ力ヲ農業ニ注キ諸般ノ調査ヲ遂ケシモノノ中明治四年地理測量教師タル米人「エ、ジ、ワルフキールド」ノ報文「石狩平原ハ溫帶中ノ北緯四十二度ニ近ク世界ノ地圖



ニ就テ考フルモ北緯四十二度ハ温帶中ノ最モ廣大ニシテ且最モ沃饒ナル原野ノ中心ニ當ルヲ以テ石狩平原ノ開發モ亦容易ニシテ人煙稠 物産豊富ニ赴クノ日期シテ待ツヘキナリトノ一節ニ徴スレハ石狩國ノ今日アル蓋シ當然ノ理勢ナリト謂フヘシ雨龍郡ハ石狩國ノ北隅ニ位シ深川、一已、多度志、北龍、上北龍、秩父別ノ六村ヲ包括シテ雨龍郡野ノ名アリ東南ハ石狩川ヲ隔テテ空知郡ニ隣リシ東北ハ神居古譚ノ連峰ヲ以テ上川郡ニ接ス西ハ「ヲシラリカ」川ヲ境トシテ樺戸郡ニ對シ西北ハ「ホロシリ」山脈アリテ天鹽國留萌、増毛二郡トノ界ニ連ナリ雨龍川其間ヲ貫流ス

本組合區域ハ即チ雨龍原野ノ一部ニシテ東ハ一已村八丁目ノ石狩川畔ヨリ八丁目ノ道路ニ沿ヒテ中央道路ニ至リ高丘地ノ裾ヲ迂迴シテ官設鐵道上川線ヲ橫斷シ更ニ曲折シテ深川、一已兩村ノ境界ニ達ス而シテ西南北ノ三方何レモ河川ヲ以テ限界トス即チ西ハ雨龍川ニ臨ミ南ハ石狩川ニ接シ北ハ大鳳川ヲ境トセリ廣袤東西四里南北一里半ニ亘リ包容面積六千町步餘ニ及ヒ平坦廣闊ニシテ一望千里眼界闊峻丘阜ノ遮ルモノナク土質亦大鳳部落ノ泥炭地ヲ除クノ外概ネ粘質壤土若クハ砂質壤土ナルヲ以テ地味膏腴水流緩カニ之ヲ灌溉シテ又好個ノ農耕地タリ故ヲ以テ開發以來着々成墾シ盛ンニ良畑ヲ作りテ夥多收穫ヲ見シト雖モ歲ヲ經ルニ從ヒ掠奪的農業ノ結果トシテ當然到達スヘキ舊墾地ハ開發當初ニ比シ著シク地力ノ減耗ヲ來タシ延ヒテ農利ヲ漸減スルコト甚シキニ及ヘリ然レハ農家ノ生計ハ辛ウシテ

其收益ヲ以テ償フカ或ハ缺損生シテ又補填ノ途無キニ至リ加フルニ逐年生活費ノ膨脹ト諸負擔ノ激増トハ農家經濟ヲシテ益々不安ノ狀況ニ陥ラシム茲ニ於テカ農村救済ノ聲期セスシテ起ル蓋シ農村救済ノ方法タル姑息ノ手段ヲ以テ些少ノ農利ヲ僥倖シ一時ノ纏繞ヲ事トセンヨリハ寧ロ百年ノ大計ヲ定メテ農家ノ經濟狀態ヲ永遠ニ安全ナラシムルヲ得策トス本組合區域内ノ先覺夙ニ此ニ着眼シテ地勢ニ稽ヘ氣候ニ徴シ救済ノ途水田ヲ造成シテ米穀ヲ產出スルノ他ナキヲ慮リ敢然萬難ヲ排シテ土地ノ改良ヲ企テントシツゝ區域内在住者亦翕然トシテ此舉ニ應シ遂ニ灌溉工事ヲ起スノ議ヲ決シテ本組合ヲ組織スルニ至リシナリ

本組合ハ明治四十二年八月二十八日其設立認可ヲ受ケタルモノニシテ灌溉工事ハ大正元年十一月三日之カ起工ノ式ヲ舉ケ大正五年三月ニ入り(大正四年度内)全部ノ完成ヲ告ケ同年九月十七日竣功式ヲ行ヘリ名ケテ大正用水ト云フ區域内包容面積ノ内官有地宅地畑地ヲ控除シ四千八百五十七町一反六畝歩ヲ其純灌溉反別トナス水源ハ組合設立當初道廳ノ調査設計ニ基キ之ヲ雨龍川ニ求ムル豫定ナリシモ上流沿岸住民トノ間ニ水利上ノ故障起リテ更ニ石狩川右岸納内附近ニ選定セシカ再ヒ變更シテ其下流約一里ノ國見峠附近ニ決定シ自然流下法ト揚水機トニ依リ灌溉スルニ至リタルナリ工事ハ幹支線ヲ第一期トナシ此金額五十五萬八百十四圓小支線分派線ヲ第二期トナシ此金額十四萬五千一百圓トス而シテ第



一期工事費ノ内約四分ノ一即チ金十三萬五千八百四十三圓ハ之ヲ國庫ノ補助ニ仰キ其殘及第二期工事費ハ總テ北海道拓殖銀行ヨリ借入支辨(國庫補助金交付ノ爲メ成入缺陥補充)シタルモノニシテ同銀行ノ借入額ハ之ヲ年賦償還トセシモ順次政府ノ低利資金借換ノ方法ヲ講スルコト、セリ要スルニ組合設立以來星霜ヲ閱ミスル玆ニ八年根本的ニ設計ヲ變更スルモノ三回組合成リタルノ後チ四年ニシテ始メテ工ヲ起シ然モ屢次支阻障礙ニ逢着シ幾多ノ波瀾曲折ヲ經過シテ灌漑區域約五千町歩總工費約七十萬圓ヲ算スル本道水利土功中唯一ノ大工程ヲ完成ス經營ノ困難尋常ニ非ラサルヲ知ルヘシ而シテ能ク其困難ヲ排除シテ今日アルニ至ラシメタルモノ創立發起者並ニ組合全員一致共同忍耐勉勵ノ結晶ニ外ナラスト雖モ永ク記シテ忘ルヘカラサルハ累代當局ノ特殊ノ恩典ト地方先覺ノ多大ノ苦心ナリトス若シ夫レ天惠地福併セ得タル石狩凹地帯ノ北方雨龍平原内ノ我カ組合區域ニシテ近ク黃雲種々タル良田ト化セシカ本道農業ノ大宗タル米穀ノ著名産地トナリ其産額ハ地方ノ倉糧ヲ獨立セシムルノ外需要地一轉シテ供給地タルヲ得ヘシ實ニ我カ組合ノ設立ハ本道拓殖史上明治末葉ノ誇リニシテ又其工事ノ完成ハ大正初頭ノ一異彩タラスンハアラス以下序ヲ逐フテ組合成立ノ動機ヨリ事業遂行ノ經過ヲ記サン

## 第二章 開闢ノ基因

抑モ本組合地方開闢ノ基因ハ故公爵三條實美等ノ事業經營ノ企劃ニアリ公ハ夙ニ本道拓殖ノ急務ナルヲ認メ躬ラ此事業ヲ經始セント欲シ先ツ華族組合ヲ設ケテ同志ヲ加入セシメ明治二十二年十二月八日雨龍郡ニ於テ原野山林ヲ合セ未開地一億五千萬坪ノ貸付ヲ出願シ同月十八日許可ヲ得タリ當時ノ所謂華族農場即チ是ナリ而シテ其加入者ハ三條公ヲ首トシ侯爵蜂須賀茂昭、同菊亭修季、伯爵大谷光瑩、子爵戸田康泰、同秋元興朝ニシテ規模ヲ米國式農法ニ則リ農牧ノ業ヲ共同經營シ以テ開墾ノ模範ヲ示サントスルニアリ然ルニ不幸事業中途ニシテ三條公ノ薨去ニ會ヒ玆ニ一頓挫ヲ來シテ遂ニ明治二十六年三月二十八日組合ヲ解キ貸付地積ノ内成墾地ヲ除キ總テ官ニ返還シ成墾地ハ個々分割シテ獨立農場ト爲スニ至ル菊亭侯深ク之ヲ慨シテ決然公ノ遺志ヲ遂ケンコトヲ期シ同月二十九日更ニ雨龍郡ノ原野山林ヲ合セ未開地一千七百二十六萬八千二百四十八坪ノ貸付ヲ出願シ翌三十日直ニ許可ヲ得四月辰ヲ深川村メムニトシ苦心慘憺克ク華胄ノ身ヲ以テ廣野ノ開墾ニ全力ヲ傾注セラレタリ。偶々地方開拓ノ先覺者タル東武、侯ノ此舉ニ感奮シテ侯ニ説ク所アリ奈良縣十津川ヨリ本道新十津川へ來住セルモノ百戸ヲ糾合シ侯ノ農場ニ移シテ自ラ之カ管理ニ任シ具ニ辛苦ヲ嘗ム是レ組合區域内團體移住ノ先



驅ニシテ地方開發ノ核子タリ當時開墾ノ方法タル一舉ニ巨資ヲ投シテ大規模ノ施設ヲ爲サンヨリハ小作人ヲ移住セシメテ漸次墾成ノ基礎ヲ造ルニ如カストナシ專ラ此方針ニ依リテ經營ノ歩ヲ進メタリ同年東武ノ幹線ニ依リテ更ニ石川縣ヨリ五十戸團體ヲ移住セシメ侯亦本道各地ヨリ小作人ヲ募集シテ墾成ニ努メ衆ヲ率ヒ範ヲ垂レ着々トシテ好成績ヲ示セリ此年森源三、侯ヨリ妹背牛ニ於ケル貸付地五百五十町歩ノ分割ヲ受ケテ開墾ニ着手シ次テ明治二十八、九兩年ニ亘リ南北一已ニ各二百戸ノ屯田兵村ヲ置カルルニ及ンテ發展ノ機運駁々トシテ進ミ以テ現下ノ狀勢ヲ促成セリ願フニ本組合地方ハ明治二十二年市來知、旭川間ノ假道路改修當時ヨリ無願開墾者所在點々タリシモ更ニ傳フヘキモノナク華族農場ノ創設ニ至リ初メテ秩序的開墾ノ端ヲ開キ後チ菊亭農場ニ依リテ區域内深川村ニ於ケル良畑數千町歩ヲ墾成セルモノニシテ是レ殆ント菊亭侯ノ賜ナリト言フモ誣言ニ非サルナリ而シテ侯ハ進ンテ土地ノ改良ニ志シ一已兵村ト協定シテ水田造成ノ計劃ヲ立テタルコト別ニ掲クル所ノ如シ菊亭農場成リタルノ翌年(明治二十七年)廣袤十數里ニ亘リ深川、一已、秩父別ノ三村ヲ包括スルモ人煙尙ホ稀薄ニシテ一戸長役場ヲ置クニ過キサリシモノ農村ノ開發ニ屯田ノ開村ニ俄然拓殖ノ歩武ヲ進メテ市街地ノ劃定トナリ明治三十一年上川鐵道開通スルニ及ンテ農家商賈踵ヲ接シテ居ヲ構ヘ發達ノ餘勢明治三十四年三村分立シテ各戸長役場ヲ設クルニ至ル(深川村ハ翌三十五年二級町村制四十年一級町村ニ昇格シ、秩父別兩村ハ三十九年二級町村制實施)爾來村勢歲ト共ニ振

ヒ明治四十三年留萌鐵道開通シテ又面目ヲ新ニセリ

備考 種族農場分割後獨立農場トナリシモノ、内現存セルハ蜂須賀農場ノミナリ菊亭農場ハ貸付ヲ受ケタル際反別五千七百五十六町八畝八歩ナリシカ付與ニハ丈量増歩六百七十三町五反三畝八歩ヲ得テ總計六千四百二十九町六反一畝十六歩トナレリ其内譯及處分ハ地方開發ニ關係アルヲ以テ掲記センニ明治三十年第一回付與ノ分十六町三反三畝十二歩、同三十一年第二回付與ノ分千三百九十七町二反六畝十二歩、同三十二年第三回付與ノ分二千五百六十六町一畝二十二歩、山林地ノ官ニ返還シタル分千九百町歩、未開地ノ儘森源三へ賣渡シ同三十三年付與ノ分五百五十町歩ニシテ同三十五年ニ至リ深川市街地ニ當ル分ヲ今ノ現存者へ賣渡シ同三十六年ニハ百戸團體ヲ其現住者へ讓渡シタル外同三十七年ニハ深川村學校、警察分署、寺院、墓池等へ其敷地ヲ寄附シ尙ホ殘地ハ開墾資金ノ負債整理ノ爲メ五十嵐久助、五十嵐佐市、岡部外世吉其他小作人へ全部賣却セリ



### 第三章 米作ノ濫觴

地方開闢ノ基因前章ノ如シテ水田ノ試作ニ及ハンカ本組合區域内米作ノ濫觴ト稱スヘキハ明治二十九年ニ於ケル一巳村字九戸伊藤兼太郎ノ試作ナリトス伊藤ハ屯田兵村ノ居住者ニシテ歩兵第一大隊第四中隊ニ屬ス當時屯田兵本部ノ方針カ米作ニ疑懼ヲ抱キテ畑作ノ獎勵ヲ專ラニシ寧ロ水田禁止ノ状態ニアリ道廳亦此意味ニ於テ指導シツ、アリシニ拘ハラス伊藤ハ堅ク信スル所アリ自ラ進ンテ米作ヲ試ミタルモノニシテ種粳ヲ音江村鷺田軍藏ヨリ購ヒ五月苗代ヲ開キ六月水田約六反歩ニ移植セシナリ此年恰モ氣候適順ニシテ發芽ヨリ成熟ニ至ルマテ好成績ヲ示シ遂ニ反當リ二石有餘ノ收穫ヲ見ル同年同中隊ノ青地初三郎モ亦二三反歩ヲ試作シテ好結果ヲ得タリ當時(同年五月)一巳村字一巳(二百九十番地)ニ移住シ來レル山田永弼モ盛ンニ米作ノ有利ナルヲ説キ水田開發ノ急ヲ唱ヘテ專ラ地方ノ農家ニ勸奨セシカ農家モ伊藤ノ試作ニ見山田ノ勸説ニ聞キテ翌三十年ニハ兵村第三中隊ノ西村仁左、高橋久治、染井徳太郎、谷口宗太郎、佐伯藤市、土屋鍋次郎、近藤磯次郎、木村定吉、永滿種吉、玉置吉作、河口仁太郎、山下市藏、秋山岩太郎、林久太郎、坂田鶴松、津元忠太郎、伊藤清次郎、大月吉次郎等四中隊ノ伊藤兼太郎、高橋茂三郎、青地初三郎、森徳之助、杉坂新三、宮武利吉、森由太郎、小柳五郎、吉本

桑治、津木彌次郎、宇野松太郎等競フテ水田ヲ造リ米作ヲ試ルニ至ル而シテ伊藤ノ成績最モ優良ニシテ宮内省ヘ献納ノ榮ヲ得所屬中隊長林大尉ヨリ同年十二月二十八日付ヲ以テ「移住以來農業ニ熱心特ニ率先貴穀タル米作ヲ勵ミ其結果優秀ニシテ宮内省献納ノ榮ヲ得タルノミナラス村内斯業ノ發達上ニ與リテ力アリトナシ賞狀ト銀盃一個ヲ與ヘラレテ其功績ヲ賞セラレ高橋茂三郎モ亦同中隊長ヨリ同日付ヲ以テ「移住以來農業ニ熱心特ニ率先貴穀タル米作ヲ勵ミ其結果良好ニシテ漸次村内ニ普及スルニ至ル」トシテ褒狀ヲ與ヘラル(中隊長ヨリ褒狀ヲ受ケタルモノ同中隊ニ尙ホ青地初三郎外數名アリタリト云フ)斯クシテ當初疑懼ヲ抱カレタル米作モ一般ニ其利益ヲ認メラレ愈々水田造成ノ機運ヲ進ム



## 第四章 水利ノ調査

僅々二年ノ米作ハ茲ニ端ナク農民ヲ刺戟シテ水田ノ開發歲ト共ニ盛シナルニ從ヒ先ツ提唱サレシハ水利問題ナリトス米作ノ唱道者タル山田永弼早ク此ニ意ヲ注キテ明治三十一年八月ヨリ翌三十二年八月ニ至ル一年有餘獨力本道各地ヲ始メ内地府縣ニ就キ水田ノ造成ト灌溉ノ實況ヲ視察シ歸來水田開發ノ根柢タル水利問題ヲ力説セリ其間(三十二年六月)一已村南北聯合諮問會ハ山田ノ熱誠ナル勸誘ニ動キ其提説ヲ容レテ灌溉用貯水池ト石狩川導水トノ便否ヲ講究シ結局調査ヲ道廳ニ出願スルニ至ル道廳亦願意ヲ容レ(同年七月)芳賀事業手ヲシテ貯水ノ個所及石狩川ノ引入口ヲ踏査セシメ石狩川ノ導水ヲ可トスルノ決定ヲ與ヘシヲ以テ諮問會ハ石狩川導水ノ計劃ヲ立テ、兵村大隊長(第一)安西少佐ニ謀ル所アリ大隊長ハ更ニ第七師團參謀長小泉大佐ニ具申シテ詮議ヲ俟テリ又一面山田ハ有志勸奨ノ衝ニ當リ菊亭農場顧問東武、同支配人青木利一及其他ノ有力者ニ對シ交渉數次遂ニ一已深川組合ナルモノヲ組織シテ起業センコトヲ協定シ小泉參謀長亦侯爵菊亭修季ト議シテ該設計ノ調査ヲ道廳ニ出願セシム然ルニ廳議容易ニ決セス漸クニシテ宮澤工事課長ノ斡旋ニ依リ技術員不破丑太郎ヲ雇禮シ明治三十三年ニ入リ數度地主會ヲ開キテ協議ヲ凝ラシ青木利一、中南駒一ヲ水利委員ニ舉ケ同年二月七日委員ト技術員

トノ間ニ俸給旅費人夫賃等ノ額ヲ定メテ翌年ノ融雪期ヨリ實例スヘキヲ約セリ而シテ明治三十四年一月二十八日深川村菊水小學校内二十町歩以上所有ノ地主會ヲ開キ水田豫定反別ヲ五千町歩内兵村一千五百町歩農場三千五百町歩トシ此高底實測費並ニ工事設計費一千八十八圓三十四錢ヲ兵村農場ノ等分負擔ト定メ灌溉工事費ハ村債ヲ起シ日本勸業銀行ヨリ借入ノコト起業マテノ經費ハ二十町歩以上ノ所有地主ニ於テ立替若クハ借入支拂ノコト水利組合ヲ設クルコト等ヲ議セリ當時二十町歩以上ノ所有主ハ蜂須賀茂照菊亭修季、東武、植田正明、千葉藤吉、殿井隆興、松村勇、杉本勇治、廣部彌助、中井哲太郎、西村皓平、西熊太郎、杉本喜一、北本競、上杉米藏、杉浦由松、松村茂富、更谷辰太郎、吉村文次郎、志賀定七、五井道次郎、水野安、森源三、三島德藏、内田海、柳町靜一郎等ナリトス而シテ融雪期ヨリハ不破技術員實測ニ着手シテ同年九月三十日終了セルヲ以テ爾來机上設計ニ從ヒ越エテ三十五年五月ニ及ヒ設計仕様圖面等全部完成セリ其間兵村大隊長鈴田少佐ニ對シ東武ヨリ工事ノ請負ヲ照會シ一已村町野成三郎ヨリ起工式ノ協議ヲ爲ス等只管不破技術員ノ設計ヲ急キシト雖モ容易ニ進捗セス宮澤工事課長、青木、中南ノ兩委員督勵シテ漸ク速成セシム設計ノ工費概算ヲ示セハ左ノ如シ

## 灌溉用水路堀鑿概算書

一金三十七萬四千九百九十八圓四十四錢



深川土功組合紀要

内 譯

一一

- 金三十萬四千五百九十八圓四十四錢 堀鑿費
- 但總延長一萬千六百七十間四分間口ニ付十四坪五合一坪ニ付金一圓八十錢トシテ如斯
- 金一萬七千五百圓 導水門布設費
- 但導水門一ヶ所ニ引入口護岸工事一式
- 金一千五百圓 放水門布設費
- 但放水門二ヶ所布設費
- 金一萬一千一百圓 橋梁費
- 但道路横切ニ要スル橋梁三十七ヶ所架設費
- 金三千五百圓 鐵道横切布設費
- 但鐵道横切ニ要スルガーダー架設費
- 金六千八百圓 階段布設費
- 但階段十七ヶ所布設費
- 金一萬五千圓 事務所費
- 但技術員、助手、定夫、事務員等三ヶ年間ノ見積リ
- 金一萬五千圓 豫備費
- 以上

設計漸ク成リシテ以テ同月十八日深川、一已兩村ノ關係地主總會ヲ開キ前掲實測及設計費ハ精算シ

テ一半ヲ一已兩兵村一半ヲ菊亭農場ヨリ支出シ設計ノ實施ニ就キ幾多思ヒヲ凝ラシ議ヲ重ネシト雖モ  
 奈何セン總工事費餘リニ巨額ニシテ到底負擔ニ堪ヘサリシト殊ニ金融機關ノ不備ナル當時ニ於テ之カ  
 資源ヲ得ルノ頗ル困難ナリシヨリ空シク憾ミヲ存ンテ工事ノ遂行ヲ斷念セサルヘカラサルニ至ル然レ  
 トモ水田開發ノ急愈々迫リ水利灌漑ノ要益々切ナルモノアリ前計劃ノ頓挫シテヨリ四年、明治三十九  
 年九月一日一已村ノ有志、村長石山九八郎ト謀リ石狩川ヨリ導水セントシ偶々上川郡神居村字春志内  
 ヲリ引水ノ便アルヲ知リシヲ以テ南一已兵村ノ出資ニ係ル六百圓ヲ投シ技術員伴儉一ヲシテ實測セシ  
 ム當時字二十四戸森徳之助主トシテ熱心事ニ當レリ翌四十年三月石山一已村長ヨリ深川村長佐藤樹太  
 郎ニ照會協議スル所アリ一方一已村有志ハ水源ヲ兩龍川ニ求ムルノ可否ヲ調査シタルニ秩父別村六條  
 通一丁目ニ於テ兩龍川ト深川停車場位置トニ、十尺餘ノ落差アルヲ知レリ同年十二月十二日組合組織  
 ノ準備トシテ技師派遣ノ申請ニ要スル圖面ノ調製ヲ道廳河村技師ニ囑託シ翌四十一年一月十五日道廳  
 ニ設計調査ノ申請ヲ爲セシニ同年二月十日許可セラレ次テ三月三日實測費一千圓ノ豫算ヲ以テ支出ノ  
 指示ヲ受ク其間内田濤ノ推薦セル野田左門ニ組合規約ノ編成ヲ依囑シ五月ニ入り十二日道廳河村技師  
 ノ實地調査トナリ石山一已村長、同村森徳之助、西八助、土屋鍋治郎、佐藤深川村長、同村植田重太郎  
 等先導シテ神居村字春志内ノ用水取入口ヲ踏査セシニ其不可ナルヲ示サレ已ムナク石狩川ノ導水ヲ斷



念シテ雨龍川ヨリ引水スルコトシ翌十三日河村技師ノ雨龍川視察トナリシカ同年九月十日大體ノ實測ヲ了セシヲ以テ同月二十日深川村役場ニ於テ發起人會(氏名ハ設立準備ノ部ニアリ)ヲ開キ漸ク組合設立ノ議ヲ決スルニ至ル水利問題ノ起リシヨリ以來幾變遷シテ茲ニ決定ヲ見シモノ其動機ハ曩ニ挫折シタル菊亭農場ト一已兵村ノ水田計劃ニ胚胎セシコト勿論ニシテ又組合ノ創立ハ實ニ山田永弼ノ熱誠一已兵村在住者ノ奮勵深川村有志ノ努力等預リテカアリシト雖モ能ク今日ノ盛運ヲ迎フルニ至リシモノ一ニ菊亭侯ノ卓見ニ歸スヘク其偉績ヤ千古滅スヘカラサルナリ此章ヲ終ルニ際シ地方水田造成ノ關係者トシテ明治三十一年ニ於テ一已兵村大隊長菊池中佐、同第三中隊長平賀大尉、同第四中隊長林大尉、同三十二年ニ於テ同大隊長安西少佐、同第三中隊長高添大尉、第四中隊長小幡大尉ヲ又組合組織ニ關スル委員トシテ一已村中南駒市、市村與三郎、町野成三郎、高橋茂三郎、秋山岩太郎、深川村東武、青木利一、上杉米藏、千葉藤吉、植田正明等ヲ特記スヘク殊ニ水田造成ノ關係者タリ或ハ灌溉溝堀鑿ノ主唱者タリ或ハ組合組織ノ斡旋者タリシ第七師團長男爵永山武四郎、北海道廳長官河島醇、同枝師河村泰治、深川村大地主侯爵菊亭修季、一已村農事顧問山田永弼、一已村農事諮問會長中南駒市、同市村與三郎、本組合顧問森源三、同評議員篠田赫穂、同發起人佐藤政三等ノ組合創立ノ前後ニ於テ何レモ物故シタルハ痛惜措ク能ハサル所ニシテ永ク其功績ヲ記念セサルヘカラサルナリ

## 第五章 組合ノ成立

### 第一節 設立準備

多年翹望セル灌溉用水ノ組合設立ヲ決シタルヲ以テ明治四十一年十月一日深川村澄心寺ニ於テ十町歩以上ノ地主會ヲ開キ創立費及工事費ノ協議ヲ爲シ同月二日發起人東武、内田瀨、青木利一、柳町靜一郎、篠田赫穂、谷繁雄、村田忠正、西熊太郎、千葉藤吉、山川十免吉、松村茂富、更谷辰太郎、上杉米藏、植田重太郎、佐藤政三、五十嵐國松、青地初三郎、爲岡利三郎、川島與三吉、土屋鍋治郎、佐伯藤市ノ名ヲ以テ組合區域内土地所有者及占有者ニ宛左ノ通知書ヲ發セリ

拙者共儀今般發起ノ上北海道土功組合法ニ依リ雨龍郡深川村及一已村ノ一部ヲ區域トシテ其區域内ニ土地所有又ハ占有スル諸君ト相謀リ土功組合ヲ設置シ水田灌溉用水路掘鑿ノ事業ヲ經營致度依テ北海道土功組合法施行細則第二條ニ基キ左記事項及御通知候條御同意ノ上ハ第五項ノ期間内別紙同意書ヘ記名調印相成度候也

#### 一 組合ノ目的タル事業

第五章 組合ノ成立



灌溉用水路ノ掘鑿及維持

### 二 組合ノ地區及組合員タルヘキ者ノ概數

雨龍郡一巳村ノ内深川、秩父別、一巳ノ三村界點ヨリ起リ零番通（留前鐵道線路ヨリ零番通ヲ東ヘ百間ノ箇所）ヘ一直線ニ至リ夫レヨリ一番通三丁目十字路ニ至リ一番通ヲ東進シ四丁目ニ至リ四丁目ヲ百五十間南進シ夫レヨリ一直線ニ五丁目ニ東進シ五丁目ヲ南進シテ二番通ニ至リ二番通ヲ百五十間東進シ夫レヨリ一直線ニ五番通マテ南進シ五番通ヲ六丁目ニ至リ更ニ鐵道線ヲ東ヘ百五十間ノ箇所）ヘ一直線ニ進ミ夫レヨリ石狩川マテ南進スル線ヲ境界トシ其以西深川村界マテ一圓及深川村一圓（深川及妹背牛ノ兩市街地及石狩、雨龍兩川ニ屬スル中州並深川村如二十二番二十三番三十六番四十六番四十七番四十九番五十番ノ一、五十一番ノ一、八十番ノ一、八十一番ノ一、八十二番、八十三番、八十四番、八十五番、八十六番、八十五番、八十六番、八十七番ノ三、百六十八番、百六十九番、百七十一番、百七十三番、百七十五番、百七十六番、百七十七番、二百五十八番ノ二百五十九番ノ二ヲ除ク）トス

此區域内組合員タルヘキ人員三百七十名

内 深川村 二百五十名  
一巳村 百二十名

### 三 事業施行ノ方法及順序

本組合灌溉ノ取入口ハ雨龍川ニ於ケル秩父別村灌溉溝現在取入口ノ約五十間上流斷崖ノ部分ニ隧道ヲ鑿テ背夜ノ小流ニ導キ更ニ水門餘水路等ノ調節機關ヲ以テ溝路ニ流入セシムルモノニシテ夏期ノ減水ヲ防ク爲メ本流及支流ニ堰止工事ヲ施スノ計劃トス

幹線ハ現在ノ秩父別用水路ニ併行スルコト約一千五百間ニシテ左折東方ノ山麓ヲ曲折經由シテ一巳村字一己一番通四丁目ニ至リ

右折シ同道路敷ニ沿フ深川停車場附近ニ於テ留前線鐵道ヲ橫斷シ同上川線ノ北側ニ達シ更ニ同線路及基線ニ併行シ妹背牛ヲ通過シテ雨龍川ニ注ク一萬四千八百間ナリトス

第一支線（小藤線）ハ幹川二千七百六十間ヨリ分岐シ秩父別用水路ニ併行スルコト約七百五十間二丁目ニ於テ更ニ南方ニ分岐シ四條通及三丁目ヲ經テ二條通ニ出テ五丁目マテハ同道路ニ併行シ大風川ヲ經テ雨龍川ニ注ク延長七千八百間トス

第二支線（一巳線）ハ幹線ノ七千三百十二間ノ邊ヨリ分岐シ字一巳六丁目ノ背後ニ出テ右折シテ鐵道上川線ヲ橫斷シ石狩川岸ノ低地ヲ包圍シ迂回シテ深川市街地ニ至リ石狩川ニ合スル三千間トス

第三支線（メム線）ハ幹線ノ八千三百五十五間即チ十一號線ニ於テ左折分岐シ直ニ鐵道線ヲ橫斷シ同線路ノ南側ニ沿ヒ五號線ノ附近ヨリ左折シメム川ノ上流ヲ橫切リ直線ニ石狩川ノ一派流ニ合スル三千六十五間トス

### 四 創立費及工事施設費ノ概算

一金四千七十二圓三十二錢 創立費總額

内 課

- 金一千五百圓 測量入夫賃
- 金五十圓 測量用抗木代
- 金百圓 圖盤其ノ他調査用備品代
- 金百圓 測量用釘繩其他消耗品
- 金百圓 測量器運搬費
- 金百五十圓 事務所家賃
- 金六百圓 圖面謄寫及青色寫眞費

第五章 組合ノ成立



金四百六十六圓	創立事務取扱費
金百圓	同 事務員旅費
金百二十圓	發企人諸費
金十圓	創立總會費
金三十五圓	通信運搬費
金七百四十一圓三十二錢	借入金利息
一金三十萬八千四百七十三圓二十錢	工費總額
內 課	
金七萬圓	取入口工費
內	
金三萬圓	堰堤工費
金二萬圓	除道工費
金二萬圓	餘水路及水門工費
金十三萬五千三百四十四圓十錢	幹線工費
內	
金十一萬四千九百十四圓十錢	土工費
金二萬四百圓	作工費
金二萬四千五百七十六圓	第一支線工費

內	
一萬四千七百七十六圓	土工費
九千八百圓	作工費
金八千八百九十圓二十錢	第二支線工費
內	
金五千五百九十圓二十錢	土工費
金三千三百圓	作工費
金二萬一千四十二圓九十錢	第三支線工費
內	
金一萬一千四百四十二圓九十錢	土工費
金九千六百圓	作工費
金二萬八千六百五十圓	用地費
金一萬五千圓	監督費
金五千圓	雜費

五、同意表示ノ形式及期間

同意ノ表示ハ別冊同意書ニ記名調印ヲ求ム其期間ハ明治四十二年三月十五日限リトス(同意書添付)

而シテ同月二十六日ニ至リ右通知書ニ對シ組合區域内土地所有者及占有者ヨリ添付セル同意書ニ署



名捺印セルモノ其數三百九十二名ニ達セシヲ以テ十二月三十日組合設置ニ關シ創立總會ニ於テ代人ニ依ル議決權執行認可ノ申請ヲ爲シ翌四十二年一月七日之カ認可ヲ受ケ同年三月三日發起人ヨリ更ニ左ノ創立總會招集通知書ヲ發セリ

明治四十一年十月二日付御通知置候深川土功組合設置ノ件ハ法定ノ同意者ヲ得タルニ付來ル明治四十二年三月十五日創立總會開會候條左記各項御承知ノ上萬障御差繰御集會相成度此段及通知候也

左記

一 會議ノ目的

- 會議規則議定ノ件
  - 深川土功組合規約議定ノ件
  - 工事設計書議定ノ件
  - 組合創立費議定ノ件
  - 組合創立委員選舉ノ件
  - 空知支廳長ヲ本組合ノ組合長ニ指定セラレンコトヲ其筋ヘ申請スルノ件
- 會議ノ日時
- 明治四十二年三月十五日午前九時
- 會議ノ場所

一 規約案縦覽ノ場所

- 雨龍郡深川村字森元町教證寺
- 雨龍郡深川村役場前掲示場
- 同 字メム六號線 同
- 同 字妹背牛 同
- 同一巴村字一巳二番通五丁目
- 其他各部長ノ宅

一 規約案縦覽ノ時間

- 每日自午前八時至午後十時
- 一 止ヲ得サル事故ノ爲メ出席出來難キモノハ委任狀ヲ所持スル代人ヲ以テ議決權ヲ行フコトノ認可ヲ得タルニ付左ノ通心得被下度候
- 委任狀ヲ以テ議決ノ權ヲ行ハントスルモノハ署名捺印シタル委任狀ヲ代人ヲ以テ發起人ニ差出スヘシ
- 但受任者ハ組合員タルヘキモノニ限ル

第二節 創立總會

組合創立ノ準備既ニ整ヘリ茲ニ於テ明治四十二年三月十五日深川村字森元町教證寺ニ於テ創立總會



ヲ開ク當日發起人ヲ代表シテ植田重太郎發起人會ニ於ケル組合設立協議ノ經過ヲ述ヘ規定ニ依ル規約案設計書類區域圖等ハ議場ヘ備ヘ置キタル旨附言シ指名推薦ノ同意ヲ得テ内田滯ヲ議長トセリ出席者ハ組合區域内關係者全員四百二十六人ノ内組合設立同意者三百九十二人ニシテ本議席ニ列シタルモノ二百四十八人法定ノ代理委任狀ヲ以テ出席シタルモノ四十三人ナルヲ以テ法定數三分ノ二以上ニ達シタルコトヲ確認セリ議長ハ議事署名者及書記ヲ指定シテ議事ヲ進行シ先ツ土功組合法法細則ニ基キ創立總會議事規則ヲ議定セリ左ノ如シ

深川土功組合創立總會議事規則

- 第一條 組合員ヨリ議長一名ヲ選舉ス
  - 第二條 組合員出席シタルトキハ議長又ハ書記ニ口頭ヲ以テ届出ツヘシ
  - 第三條 會議中議員ハ議長ノ許可ヲ受ケスシテ議席ヲ離ル、コトヲ得ス
  - 第四條 發言者ハ起立シテ議長ヲ呼ビ自己ノ名ヲ告ケ許可ヲ受クヘシ
  - 第五條 會議中ハ議員直接應答ヲ爲スヘカラス總テ議長ニ向テ之ヲ爲スヘシ
  - 第六條 議長ハ時宜ニ依リ發言ヲ中止シ又ハ議事ヲ中止スルコトヲ得
  - 第七條 議事ノ順序議場ノ整理ハ議長之ヲ專決ス
  - 第八條 建議セントスルトキハ其事由ヲ録シテ文案ト爲シ之ヲ議長ニ提出スヘシ
- 但簡易ナル事柄ハ議席ニ於テ之ヲ陳述スルコトヲ得

第九條 建議ニシテ賛成者アルトキハ議長ハ之ヲ會議ニ付スヘシ

第十條 議事ハ第一讀會第二讀會第三讀會ヲ經テ確定ス

但決議ニ依リ讀會省略スルコトヲ得

第十一條 第一讀會ニ於テハ議事ノ大體ニ就キ討議シ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ決ス第二讀會ニ於テハ議案ヲ逐條審議ス第三讀會ニ於テハ第二讀會ニ於テ可決シタルモノニ付全體ヲ通シテ可否ヲ審議ス

第十二條 修正說ハ第二讀會又ハ第三讀會ニ於テ之ヲ提出スヘシ

第十三條 議長ニ於テ討論終結ト認ムルトキハ其可否ヲ決スヘシ

可否ノ採決ハ出席員ノ過半數ニ依リ之ヲ決ス同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第十四條 採決ノ方法ハ起立ヲ以テ之ヲ決ス

第十五條 議事ノ慎重ヲ要スルモノハ議長ニ於テ委員ヲ選定シテ之ヲ付シ又ハ臨機ノ方法ヲ以テ審議セシメ報告シタル後議題ト爲スコトヲ得

第十六條 創立委員又ハ議長ヲ選舉スルトキハ無記名投票ヲ以テ之ヲ選舉シ又ハ總會ノ決議ニ依リ指名推薦ノ法ヲ用フルコトヲ得

次ニ組合ハ深川土功組合ト稱シテ組織スルコト組合規約ハ原案ヲ可トスルコト創立委員ハ佐藤樹太郎(深川)ヲ指名推選スルコト組合長ハ空知支應長ヲ指定方申請スルコト組合創立費ハ之ヲ承認スルコト工事設計書ハ原案ヲ可トスルコト等ヲ決シ分水門及分水路ノ建議ニ就テハ「百五十町歩以上ヲ限度トスル分水門分水路ハ組合費ヲ以テ設置ス其設計ハ技術員ニ一任ス」ト決定シ拍手歡呼裡ニ創立總會ヲ終ヘタリ當日特ニ山口空知支應長臨監セリ尙ホ議定セシ工事設計書左ノ如シ

(規約ハ便宜認可ノ部ヘ掲ケ創立費ハ前掲通知書ト同様)



略ニ付)

工事設計書

- 一 事業施行ノ方法及順序(前掲通知書同斷)
- 二 費用及夫役現品ノ概算

一金三十萬八千四百七十三圓二十錢 工費總額

内 譯

金七萬圓

取入口費

内

金三萬圓

堰堤工費

金二萬圓

隧道工費

金二萬圓

用水路水門工費

金十三萬五千三百四十四圓十錢

幹線工費

内

金十一萬四千九百十四圓十錢

土工費

自十

至二百七十六

鎮

長二千六百六十間

敷平均二十四尺、深平均七尺

兩法一割五分 土積一萬七千八百四十四坪

自同

至七百三十一

鎮

上長四千五百五十二間

敷十八尺 深平均六尺

兩法一割 土積一萬八千二百八坪

自同

至八百九十一

鎮

上長一千六百三三間

深平均五尺

兩法一割

土積五千二百二十一坪

自同

至千二百

鎮

上長三千八十五間

深平均五尺

兩法一割

土積八千五百七十坪

自同

至千四百八十

鎮

上長二千八百間

敷十二尺

深平均四尺

兩法一割

土積四千九百七十八坪

自同

至千四百八十

鎮

上長二千八百間

敷十二尺

兩法一割

土積計五萬四千七百二十一坪 一坪ニ付二圓十錢

自同

至千四百八十

鎮

上長二千八百間

敷十二尺

兩法一割

土積四萬四千七百七十六圓

自同

至千四百八十

鎮

上長二千八百間

敷十二尺

兩法一割

土積四萬四千九百七十六圓

自同

至千四百八十

鎮

上長二千八百間

敷十二尺

兩法一割

土積四萬四千九百七十六圓

章五第 組合ノ成立



深川土功組合紀要

自同 上長七千三百間 敷六尺 深平均四尺  
 至終 點點  
 兩法一割、土積八千一百一十坪  
 土積八千五百六十坪 一坪ニ付二圓十錢  
 金六千六百圓 作工費  
 水門四、懸樋三、階段五、橋梁一〇  
 計二十二ヶ所 一ヶ所平均三百圓  
 金八千八百九十圓二十錢 第二支線工費  
 内  
 金五千五百九十圓二十錢 土工費  
 自分岐點 長三千間 敷四尺 深平均四尺  
 至終 點點  
 兩法一割 土積二千六百六十二坪 一坪ニ付二圓十錢  
 金三千三百圓 作工費  
 彎管一、懸樋二、橋梁六、水門二、  
 計十一ヶ所 一ヶ所平均三百圓ノ割  
 金二萬一千四十二圓九十錢 第三支線工費  
 内  
 金一萬四千四百四十二圓九十錢 土工費

自分岐點 長三千六十五間 敷十二尺 深平均四尺  
 至終 點點  
 兩法一割 土積五千四百四十九坪 一坪ニ付二圓十錢  
 金九千六百圓 作工費  
 彎管一、懸樋五、橋梁八、水門二、  
 計十六ヶ所 一ヶ所平均六百圓ノ割  
 金二萬八千六百五十圓 用地費  
 延長二萬八千六百六十五間 巾平均十間  
 此反別九十五町五反五畝歩平均一反歩ニ付三十圓  
 金一萬五千圓 監督費  
 金五千圓 雜費  
 外夫役現品ナシ  
 三 事業着手及竣成ノ時期  
 許可御指令ノ日ヨリ三ヶ月以内着手ノ上明治四十四年度完成ノ豫定

第三節 組合申請

創立總會ヲ終ヘテ發起人一同ヨリ發起者ノ一人青木利一ヲ發起人總代トナシ組合設立申請ニ關シ書類  
 訂正方其他申請上一切ノ件ヲ處辨スルコトヲ委任シ明治四十二年四月二十一日付ヲ以テ左ノ組合設立



及組合長指定ニ關スル申請書ヲ差出セリ(申請書ニ添付セル關係書類ハ便宜各部ニ掲ケ圖面ハ省略)

深川土功組合設立認可申請書

今般明治三十五年法律第十二號北海道土功組合法ニ基キ水田灌溉用水路ノ施設維持ニ關スル事業ノ爲メ雨龍郡深川土功組合設置ヲ發起シ法定ノ同意ヲ得タルニ依リ明治四十二年三月十五日創立總會ヲ開キ規約案其他ニ付適法ノ決議ヲ經候ニ付組合設置ノ御認可相成度同法施行令第一條並ニ同法施行細則第十一條ノ書類相添へ此段申請候也

明治四十二年四月二十一日

雨龍郡深川土功組合發起人

- |                |       |
|----------------|-------|
| 札幌區大通西三丁目六番地   | 東武    |
| 上川郡鷹栖村字近文三線十三號 | 内田海   |
| 札幌區北四條西七丁目一番地  | 青木利一  |
| 雨龍郡深川字妹背牛      | 柳町靜一郎 |
| 雨龍郡深川村字妹背牛     | 篠田赫穂  |
| 雨龍郡深川村字妹背牛     | 谷口繁信  |

- |           |       |
|-----------|-------|
| 雨龍郡深川村字メム | 村田忠正  |
| 雨龍郡深川村字メム | 西熊太郎  |
| 雨龍郡深川村字メム | 千葉藤吉  |
| 雨龍郡深川村字メム | 山川十免吉 |
| 雨龍郡深川村字メム | 松村茂富  |
| 雨龍郡深川村字メム | 上杉米藏  |
| 雨龍郡深川村字メム | 植田重太郎 |
| 雨龍郡深川村字本町 | 佐藤政三  |
| 雨龍郡一巳村字一巳 | 青地初三郎 |
| 雨龍郡一巳村字一巳 | 川島與三吉 |
| 雨龍郡一巳村字一巳 | 土屋鍋治郎 |
| 雨龍郡一巳村字一巳 | 佐伯藤市  |
| 雨龍郡一巳村字一巳 | 桑島仲太郎 |

北海道廳長官河島醇殿

第五章 組合ノ成立



今回深川村及一巳村ノ一部ヲ區域トシ深川土功組合組織ニ關スル認可申請書ヲ提出致シ候ニ付更ニ本郡及前記ニケ村ノ地勢及農業其他ノ概況ヲ陳ヘ併テ村事業トシテ經營シ難キ理由等左ニ副申致候本郡ノ地勢雨龍郡ハ深川、一巳、北龍、秩父別ノ四ケ村ヨリ成リ石狩國ノ北隅ニ在リ西ハ「ヲシラ」川ヲ以テ樺戸郡ニ境シ東南石狩川ヲ隔テ空知郡ニ又北東神居古澤ノ連峰ヲ以テ上川郡ニ北西部ハ「ホロシリ」山脈ヲ以テ天鹽國留萌、増毛ニ郡ニ境ス石狩川ハ其東南端ヲ雨龍川ハ北西部ヲ貫流セリ今組合ヲ設置セントスル深川、一巳ニケ村ノ狀況ヲ記スレハ

深川村ハ元官線鐵道ノ基地タル空知太ヲ去ル二十七哩ノ地點ニ在リ東南石狩川ヲ隔テ空知郡瀧川、音江ノ二村ニ界シ西北ハ雨龍川ヲ以テ北龍村ニ雨龍川上流大沼ヨリ北方鴛橋マテハ秩父別ニ隣シ北東鴛橋ヨリ「オオホナイ」川ト「アシリオオホナイ」川ニ至リ再ヒ同川ヲ廻リ一巳村ノ兵村排水路ニ達シ同所ヨリ南方直線「オオホナイ」川ノ境橋ニ至リ兵村境界ヲ經テ南北石狩川ニ至ル之ヲ一巳村トノ境界トス廣袤南北二里東西三里深川、妹背牛、メム、大鳳、永宮、千秋、小藤等ノ部落アリ戸數千二百面積五千九百八十餘町ヲ有セリ土質ハ上層輕鬆ナル壤土ニシテ深サ一尺二寸中層褐色粘土ニシテ深サ五寸乃至二尺下層ハ砂質壤土ナリ今本村ニ於ケル職業別戸數地種別反別及其主タル農産

物ヲ掲クレハ

職業別戸數 農七七二、商一七二、其他二五〇、計一、一九四戸

地種別反別 田一五、〇〇〇、畑四、六六五、九〇〇〇、宅地一八、〇〇〇〇、其他二八二、〇〇〇〇、泥炭地一、〇〇〇〇、〇〇〇〇(大鳳)計五、九八〇、九〇〇〇歩

主タル耕作物 (反別及反當收穫)

種類	作付反別	反當收穫	一石ノ價	反當收入金額
小豆	一、四二〇、〇〇〇	八〇〇	八、〇〇〇	六、四〇〇
黍	五〇〇、〇〇〇	一、六〇〇	四、〇〇〇	六、四〇〇
粟	六八〇、〇〇〇	一、一〇〇	八、五〇〇	九、三五〇
米	一五、〇〇〇	一、六〇〇	一五、〇〇〇	二四、〇〇〇

一巳村ハ深川村ノ北東ニ隣接シ其廣袤南北三十里東西三里北東方神居古澤ノ連峰ハ北方一帯ニ擴延シ上川、増毛ノ二郡ニ境シ西南ハ深川、秩父別ノ二ケ村ニ隣セリ戸數千五百面積約九千六百餘町歩ヲ有シ土質ハ深川ト同一ナリ而シテ本村ニ於ケル職業別戸數地種別反別及其主タル耕作物ヲ掲クレ



職業別戸數 農一、二六四、商一二五、其他一一一、計、一、五〇〇戸  
 地種別反別 田四三八、二〇〇〇、畑三、〇九七、九〇〇〇、宅地三一、六〇〇〇、泥炭地七〇、  
 〇〇〇〇〇、森林六、〇〇〇、〇〇〇〇計九六三七、七〇〇〇歩  
 主タル耕作物 (反別及反當收穫)

種類	作付反別	反當收穫	一石ノ價格	反當收入金額
小豆	一、〇九〇、九〇〇〇	九〇〇	八、〇〇〇	七、二〇〇
黍	一〇七、〇〇〇〇	一、二〇〇	四、〇〇〇	四、八〇〇
蕎麥	三五〇、〇〇〇〇	一、二〇〇	八、五〇〇	一〇、二〇〇
米	四三八、二〇〇〇	二、〇〇〇	一五、〇〇〇	三〇、〇〇〇
裸麥	三二四、二〇〇〇	一、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
玉蜀黍	一〇四、六〇〇〇	一、五〇〇	四、五〇〇	六、七五〇
大豆	八〇、四〇〇〇	八〇〇	七、〇〇〇	五、六〇〇
燕麥	八九、九〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	九、〇〇〇
馬鈴薯	七二、八〇〇〇	八、〇〇〇	一、七五〇	一四、〇〇〇

以上ノ内今回組織スル組合ノ區域トナルヘキ地點ハ西南方深川村界ニ接續シタル一帯少部分ニシテ  
 之カ總面積ハ約六百町歩戸數百三十戸ニシテ其現ニ耕作シツ、アルモノハ三百餘町歩ナリトス  
 依之觀之前掲ニケ村ノ總戸數ノ約八割ハ農業者ニシテ其主要作物ハ小豆、米(今回組織スル組合區域内ニナシ)、麥、蕎  
 麥等ナリ如斯歲次畑作ヲ經營セラル、コト茲ニ十有餘年地力ノ減耗ハ年歲ヲ經ルニ從ヒ益々甚シク  
 其收穫ニ影響スル勿論ニシテ現ニ昨四十一年ハ小豆一反歩ノ平均收穫僅ニ八斗之ヲ當時ノ代價ニ換  
 算スレハ六圓八拾錢ニ過キササルヲ以テ諸費ヲ相償ヒタランニハ殆ント餘利アルナキカ如ク生産者ノ  
 經濟狀況寔ニ寒心ニ堪ヘサラシム殊ニ近年小作料ハ著シク騰貴シ又地方稅村稅等ノ負擔モ年ト共ニ  
 加ハリ今ニシテ農業狀態ヲ變更シ以テ增收ヲ圖リ生産ノ基礎ヲ確實ニスルノ方法ヲ講スルニアラサ  
 レハ到底現狀ヲ維持スル能ハサルニ至ルヘキヲ憂慮シテ措カサルナリ然ルニ今茲ニ組織セントスル  
 組合區域ニ屬セサル本村並ニ一巳村ノ水稻耕作者ノ成績ハ則チ反之其收穫量等ハ大約上川郡各村ニ  
 於ケルモノト大差ナク畑作ノ夫レニ比シ四倍弱ノ增收アルヲ證認セリ且ツ上川郡神樂、神居、鷹栖  
 永山、東旭川ノ各村水田ノ成績ニ徵スルモ米作ノ有利ナル今更疑フヘカラサル事實ニシテ本村畑作  
 者ノ水田耕作ヲ希望スル所以ナキニアラサルナリ然レトモ現時ニ於ケル水田(前表水田四百五十餘町歩)ハ概シテ  
 天然ノ小流ヲ利用シ灌漑スルニ過キササルヲ以テ盛夏渇水時ニ際スレハ深泉涸渴シ爲メニ用水ノ缺乏



ヲ告ケ以上勸奨スルノ餘地ヲ存セス故ニ先ツ完全ナル灌溉溝ヲ設備シ漸次水田ニ改作セシメタラン  
 ニハ假令前掲ノ如ク菽穀類ニ幾分ノ不作ヲ來スモ農家經濟ニハ甚シキ餘響ヲ受クルカ如キ事ナク若  
 シ夫レ豫想ノ如ク順良ナル結果ヲ得ルニ至ラハ獨リ農家ノ慶福ノミニアラスシテ實ニ本村一般ニ福  
 利ヲ増進セシムルモノニシテ所謂一舉兩得ノ策タルヲ信セントス之レ灌溉溝ヲ堀鑿セントスル事實  
 ナリ而シテ今回實測ノ結果ハ本組合區域中深川村ニ屬スル水田見込反別ハ約三千七百町歩ニシテ本  
 村總耕作面積ノ約五分ノ三戸數モ亦三分ノ一強ニ相當シ亦一已村ノ一部ハ全村ノ面積ニ比スレハ約  
 十一分ノ一戸數モ略同一ノ數ニ相當スルモノニシテ孰レモ部分ノ事業トシテ經營スヘキ工事ニ屬ス  
 ルヲ以テ共ニ村事業トシテ全村ニ利害關係ヲ負擔セシムル事能ハサルヲ以テ前記ノ如ク利害ヲ同フ  
 スル區域ヲ限定シ深川土功組合ヲ組織シ該事業ノ完成ヲ企圖シタル所以ナリ  
 以上

明治四十二年四月二十一日

深川土功組合發起人東武外十八名代人

並本人

青 木 利 一

組合長指定ニ關スル申請

明治四十二年三月十五日開會シタル深川土功組合創立總會ハ滿場一致ヲ以テ空知支廳長ニ本組合ノ  
 組合長タル事ヲ希望致シ候ニ付御指定相成度此段申請候也

明治四十二年四月二十一日

雨龍郡深川土功組合發起人

東 武

外 十八名連署

北海道廳長官 河 島 醇殿

### 第四節 組合認可

發起人ヨリ創立總會ノ決議ニ基キ組合設立ニ關スル申請ヲ了シ只管其認可ヲ待ツハアル間ニ或ハ發  
 起人會ヲ開キテ諸般ノ協議ヲ整ヘ或ハ道廳ニ發起人出頭シテ速カニ指令ニ接セントヲ希望セシカ偶  
 々書類調製ノ不備ヨリ法定數ノ同意ヲ得サル無効ノ創立總會決議ト認めラレ更ニ適法ノ決議ヲ經ヘキ  
 旨達セラレタルヲ以テ總會ノ議長タリシ内田濤ヲシテ違法ニアラサリシ當時ノ事實ヲ具申セシメ規約  
 及設計書モ道廳指示ノ如ク整備セシカハ遂ニ明治四十二年八月二十八日付ヲ以テ認可ヲ得同時ニ組合



長モ亦申請通り指定セラル即チ左ノ如シ

北海道廳指令第七五二六號

北海道札幌區大通西三丁目六番地

發起人 東 武

外 十 八 名

明治四十二年四月二十一日付申請雨龍郡深川土功組合設置ノ件

右北海道土功組合法第四條ニ依リ認可ス

明治四十二年八月二十八日

北海道廳長官 河 島 醇

一地第三四七號

北海道廳空知支廳長

北海道士功組合法施行令第十條ニ依リ石狩國雨龍郡深川土功組長ニ指定ス

明治四十二年八月二十八日

北海道廳長官 河 島 醇

尙ホ認可セラレタル本組合同規約左ノ如シ(本規約ハ後チ區域ノ變更等ニテ改正セラレタルモ改正前本規約ニ依リテ組合ノ事業ヲ遂行シタルモノニ付特ニ茲ニ掲ク)

深川土功組合同規約

第一章 總 則

第一條 本組合ハ水田灌溉用水講ノ開鑿維持ニ關スル事業ノ爲メニ設置ス

第二條 本組合ハ深川土功組合ト稱ス

第三條 本組合ノ區域ヲ定ムルコト左ノ如シ

(區域ハ前掲發起人通知書ニアル區域ト同様ニ省略セリ)

第四條 本組合ノ事務所ハ雨龍郡深川村字メムニ設置ス

第五條 本組合ニ於テ公告ヲ要スルモノハ左ノ揭示場ニ揭示スルヲ以テ公布式トス

一 雨龍郡深川村役場前

一 雨龍郡深川村字メム六號線

一 雨龍郡深川村字妹背牛

一 雨龍郡一巳村二番通五丁目

一 雨龍郡一巳村一番通一丁目

公告ハ發布ノ日ヨリ七日ヲ經テ施行ス

但特ニ施行ノ期日ヲ定ムルモノハ此限リニ非ス

第二章 費用及夫役現品ノ賦課徴收

第六條 他ノ事業ノ爲メ組合ノ營造物ノ使用セントスルトキハ組合ノ利益ヲ害セサル限り相當ノ賃賃料ヲ徴收シテ之ヲ承諾スルコ

第五章 組合ノ成立



トヲ得

營造物使用ノ諾否及賃貸料ノ額ハ組合長之ヲ定ム

第七條 組合ニ要スル費用ハ賃貸料其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ尙ホ不足アルトキハ組合員ニ賦課ス

第八條 組合費ハ組合員ノ組合區域内ニ所有又ハ占有スル土地全部ヲ標準トシテ賦課ス

但全ク組合ノ利益ヲ受ケサル土地其他止ヲ得サル事故ノ存スル土地ハ議員會ノ決議ヲ經テ標準ヨリ減シ又ハ削除スルコトヲ得

第九條 組合ヘ其事業ノ爲メ夫役現品ヲ賦課スルコトアルヘシ

夫役現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外組合費ノ賦課額ヲ標準トシ且ツ之ヲ金額ニ換算シテ賦課スルモノトス

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ急迫ヲ除クノ外金品ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第十條 組合ノ賦課額ハ其事業ヨリ受クル利益ヲ標準トシテ議員會ノ決議ヲ以テ區域ヲ限リ其割合ニ等差ヲ設クルコトヲ得

第十一條 組合費ノ賦課期日ハ議員會ニ於テ之ヲ定ム

組合費ノ納期ハ賦課後一箇月以内トス

第十二條 組合費若クハ夫役現品ニ代フル金員ヲ納期内ニ納メサルトキハ組合長ハ期間ヲ定メ督促シ尙ホ完納セラレトキハ速ニ北海

道土功組合法第六條ノ請求ヲ爲スモノトス

第三章 財産及會計

第十三條 組合ハ議員會ノ決議ヲ以テ積立金ヲ設クルコトヲ得

積立金ノ利用方法ハ有利國債證券若クハ有利地方債證券ニ換儲シ又ハ郵便貯金若クハ確實ナル銀行ニ預入レ増殖ヲ計ルヘキモノトス

第十四條 組合財産ノ賣却貸與又ハ組合ノ工事及物件調達ノ請負ニシテ其見積金額百圓以上ノモノハ公ノ入札ニ付スルモノトス

但臨時急施ヲ要スルモノ又ハ豫メ議員會ノ承諾ヲ得タルモノハ此限りニ非ス

第十五條 豫算各款ノ金額ハ甲乙流用セサルヲ例トス

但特別ノ事情アル場合ニ限り議員會ノ決議ヲ經テ流用スルコトヲ得

豫算各款ノ金額ニ評議員會ノ同意ヲ得テ流用スルコトヲ得

豫算各目ノ金額ハ組合長ニ於テ流用スルコトヲ得

前二項ノ處分ハ次ノ議員會ニ報告スルコトヲ要ス

第十六條 組合ハ豫算ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲メ豫算中ニ豫備費ヲ設クルモノトス

但豫備費ハ議員會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第十七條 組合長ハ豫算ノ認可ヲ受ケタルトキハ直ニ要領ヲ公告シ且ツ豫算ノ原本ヲ會計事務擔任者ニ交付スヘシ

第十八條 會計事務擔任者ハ組合長ノ命令アルニアラサレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

組合長ノ命令ヲ受クルモ其豫算中豫定ナキカ又ハ其命令第十五條第十六條ノ規程ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第十九條 組合長ハ毎年二回以上臨時出納検査ヲ爲スヘシ出納検査ニハ議員會ノ選舉シタル組合議員二名以上ノ立會ヲ要ス

第四章 役員事務員及任期並職務權限

第二十條 組合ニ左ノ役員及事務員ヲ置ク

役員

一 組合長 一名

二 理事 二名

第五章 組合ノ成立



深川土功組合紀要

三 評議員 五名

事務員

四 書記 二名

五 技術員 二名

前項ノ外事務員ノ必要ヲ生シタル場合ハ議員會ノ決議ニ依リ臨時増員スルコトヲ得

第二十一條 組合ニ於テ選舉シタル役員ハ名譽職トシ事務員ハ有給トス

第二十二條 名譽職役員ハ職務取扱ノ爲メニ要シタル實費ノ辨償及報酬ヲ受クルコトヲ得

第二十三條 組合ニ於テ選舉シタル組合長ノ任期ハ就職ノ日ヨリ三箇年トス

第二十四條 理事及評議員ノ任期ハ二箇年トス

第二十五條 役員ノ任期滿了ニ依リ退任シタルトキニハ後任者ノ就職ニ至ルマテ尙ホ其職務ヲ行フ

第二十六條 事務員ハ組合長之ヲ任免ス

第二十七條 役員及事務員ノ辭任ハ組合長ニ申出ツヘシ

第二十八條 組合長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

一 議員會ノ議事ヲ準備シ其決議ヲ執行スル事

二 組合ノ財産及營造物ヲ管理スル事

三 組合ノ歳入ヲ管理シ收支豫算其他議員會ノ決議ニ依リ定マリタル收入支出ヲ命令シ會計及出納ヲ監守スル事

四 事務員ヲ監督懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及解職トス

五 組合ノ諸證書及其他ノ書類ヲ保管スル事

六 貨賃料組合費加入金及夫役現金ヲ賦課徴收スル事

七 其他組合長ノ職務ニ屬スル事項

第二十九條 議員會成立セス又ハ招集ニ應ゼルトキハ組合長ハ其決議スヘキ事項ヲ専決處分スルコトヲ得

議員會其決議スヘキ事件ヲ決議セス又ハ議了セザルトキ若クハ第七十一條但書ノ場合ニ於テ全ク會議ヲ開クコト能ハサルトキハ前

項ノ例ニ依ル

本條ノ處分ハ次回ノ議員會ニ報告スヘシ

本條ノ規程ハ法律又ハ命令ニ於テ總會又ハ議員會ノ決議ヲ要スル規定アル事項ニ付テハ適用スルノ限リニ非ス

第三十條 理事ハ組合長ヲ補任シ組合長故障アルトキハ之ヲ代理ス

但會計事務ヲ擔任スル理事ハ代理スルコトヲ得ス

理事ノ一名ハ會計事務ヲ擔任ス

前項ニ依リ會計事務ヲ擔任スヘキ理事ハ議員會之ヲ指定ス

北海道土功組合法施行令第十一條ノ場合ニ於テハ理事中年長者ヲ以テ組合長代理トス

第三十一條 會計事務ヲ擔任スヘキ理事辭任ノ場合ニ於テ其後任者就任ニ至ルマテノ事務ハ組合長ニ於テ議員會ノ承認ヲ經テ書記ノ

一人ヲ指定シ之カ代理ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十二條 評議員會ハ必要アルトキニ於テ組合長之ヲ招集ス

評議員三名以上ノ請求アルトキハ必ス評議員會ヲ招集スヘシ

第三十三條 評議員會ハ組合長ヲ以テ議長トス組合長事故アルトキハ其代理タル理事ヲ以テ議長ニ充ツ若シ組合長及代理共ニ事故アルトキハ出席評議員ノ内ヨリ假議長ヲ選舉スルモノトス

第五節 組合ノ成立



第三十四條 評議員會ニハ本規約第七十四條及第七十五條ヲ適用ス

第三十五條 評議員會ハ定員二分ノ一以上出席スルニアラサレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第三十六條 評議員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十七條 評議員會ハ組合業務ノ執行及財産ノ狀況ヲ監査スルカ爲メ評議員中ヨリ委員ヲ選舉スルコトヲ得  
前項ノ委員ハ三名トス

第三十八條 書記ハ組合長ノ命ヲ受ケ庶務ニ從事シ技術員ハ組合長ノ指揮ヲ受ケ技術ニ關スル事務ニ從事ス

第三十九條 組合長ハ本規約其他ニ依リ事務ヲ施行スル爲メ處務細則ヲ設クルコトヲ得

第五章 議員會

第一款 組織及選舉

第四十條 本組合ハ北海道土功組合法施行令第十七條ニ依リ議員會ヲ設ケ總會ニ代フルモノトス

第四十一條 組合議員ハ組合員ニ於テ其被選舉權アリタルモノヨリ之ヲ選舉ス其定員ヲ十八名トス

第四十二條 組合議員ハ各選舉區ニ於テ之ヲ選舉ス  
其選舉區及選舉スヘキ議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一區 本組合ノ區域ニ屬スル一巳村ノ全部三人

第二區 深川村六號線道路ヲ貫直ニ南石狩川北大風川東一巳村界ニ至ル一圓(組合區域外ノ地ヲ除ク)四人

第三區 第二區ノ境ヨリ西一號線道路ニ至リ南石狩川北大風川ニ至ル一圓(組合區域外ヲ除ク)四人

第四區 第三區ノ境ヨリ西兩龍川ニ至リ南石狩川北大風川ニ至ル一圓(組合區域外ヲ除ク)四人

第五區 大風川以北秩父別村界ニ至ル一圓三人

第四十三條 選舉ノ所屬ハ其住居ノ地ニ依ル組合地域内ニ住セサル者ハ其所有地又ハ占有地所在ノ區ノ所屬トス若シ所有地占有地ヲ  
兩區以上ニ涉ルトキハ段別ノ多キ區ノ所屬トス

第四十四條 組合員ハ總テ被選舉權ヲ有ス  
但左ノ各號ノ一ニ牴觸スルモノハ此限リニ非ス

一 六年ノ懲役若クハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ舊刑法ノ重罪ノ刑ニ處セラレタルモノ及刑法及舊刑法ノ禁錮以上ノ刑ノ宣告  
ヲ受ケタル時ヨリ其執行終リ又ハ其執行ヲ受クルコトナキニ至ルマテノモノナリ

二 禁治産若クハ準禁治産ノ宣告ヲ受ケタルモノナリ

三 身代限リノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサルモノ及家資分散若クハ破産ノ宣告ヲ受ケ其確定シタル時ヨリ復權ノ決定確定ス  
ルニ至ルマテノモノ

四 國稅徵收法ニ依リ滞納處分ノモノ

五 陸海軍ノ現役ニ服スル者及現役以外ノ兵役ニ在ルモノニシテ戰時及事變ニ際シ召集セラレタルモノ

六 組合費ノ督促ヲ受ケ尙ホ納金セサルモノ

第四十五條 組合議員ハ名譽職トシ其任期ハ二箇年トス議員ノ任期ハ選舉ノ日ヨリ起算スルモノトス

選舉ノ日數日ニ涉ルトキハ其初日ヲ以テ起算點トス

第四十六條 組合議員ハ職務ノ爲メニ要シタル實費ノ辨償ニ必クルコトヲ得

第四十七條 組合議員中缺員五名以上ニ及ヒタルトキハ必ス補缺選舉ヲ行フヘシ

其五名ニ滿タサルトキト雖モ組合長ニ於テ必要ト認ムルトキ亦同シ

補缺選舉ニ依ル議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

第五章 組合ノ成立



第四十八條

選舉ヲ行フトキハ組合長ハ選舉ノ日ヨリ少クモ七日前ニ選舉ノ場所日時及選舉スヘキ選舉區並議員ノ數ヲ公告スヘシ各選舉區ハ組合長又ハ臨時ニ組合長ノ指名シタル者選舉長トナリ之ヲ管理ス組合長ハ臨時ニ選舉區内ノ組合員ヨリ二名乃至四名ノ選舉立會人ヲ選任シ選舉ノ日ヨリ五日前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日選舉場ニ參會セシムヘシ

前項ニ依リ選任シタル選舉立會人其職ヲ辭シ又ハ指定ノ時刻ニ至リテ參會セサルトキ若クハ參會シタルモ中途ヨリ定數ヲ缺キタルトキハ選舉長ハ臨時ニ選舉人ノ内ヨリ立會人ヲ選任スヘシ

但辭職ノ場合ニ於テ選舉前尙ホ餘日ヲ存スルトキハ前項ノ手續ニ依リ組合長之ヲ選任スヘシ

第四十九條

選舉ハ無記名連記投票ヲ以テ之ヲ行フ

投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選舉人自ラ投票スヘシ

自ラ投票ヲ記スルコト能ハサル者ハ選舉長ヘ申立代書ヲ求ムルコトヲ得

選舉長前項ノ申立ヲ受ケタルトキハ選舉立會人又ハ其他選舉事務ニ從事スル者ヲシテ代書セシメ本人ニ讀ミ聞カセタル上之ヲ本人ニ交付スヘシ

選舉ハ代人ヲ以テ之ヲ行フコトヲ得未成年者禁治產者及法人ハ必ス代人ヲ以テ之ヲ行フヘシ

但法定代理人自ラ選舉ヲ行フ場合ハ此限リニ非ス

選舉人ハ自ラ選舉權ヲ行使シ得ル組合員ニ限ル

但一人ニテ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス

第五十條

選舉長ハ選舉ノ當日一定ノ投票用紙ヲ選舉場ニ備ヘ置キ選舉係ヲシテ之ヲ交付セシムルモノトス

第五十一條

左ノ投票ハ無効トス

一 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

二 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ

但一投票ニ列記シタル人名中ニ資格アル者ニ付テハ尙ホ其效力ヲ有ス

三 第五十條ノ投票用紙ヲ用ヒサルモノ

投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ無効トセス又定數ニ過キタルトキハ末尾ヨリ順次其過數ヲ除却ス

一人ノ氏名ヲ複記シタルモノハ一人トシテ計算ス

第五十二條

投票ノ受理及效力ニ關スル事項ハ選舉立會人ノ意見ヲ聞キ選舉長之ヲ決ス

第五十三條

投票ノ時間終リタルトキハ選舉長ハ選舉場ニ於テ投票ヲ檢シ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ當選トシ同數ナルトキハ年長者ヲ取り同年者ナルトキハ選舉長抽籤シテ之ヲ定ム

第五十四條

選舉長ハ選舉錄ヲ作り選舉ノ顛末ヲ記錄シ選舉ヲ終リタル後之ヲ總讀シ立會人ト共ニ記名捺印スヘシ

第五十五條

投票ハ有效無効及一部無効ヲ區別シ之ヲ封緘シ選舉長立會人之ニ封印スヘシ

第五十六條

投票選舉錄其他選舉ニ關スル一切ノ書類ハ選舉ノ效力確定スルマテ之ヲ保管スヘシ

第五十七條

選舉ヲ終リタルトキハ選舉長ハ關係書類ヲ添ヘ其結果ヲ組合長ニ報告スヘシ

第五十八條

當選人定マリタルトキハ組合長ハ當選者ニ當選ヲ通知スヘシ

當選者ハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ當選ノ諾否ヲ組合長ニ通知スヘシ若シ期限内ニ其通知ヲ爲サハルトキハ當選ヲ辭シタルモノト看做ス



第五十九條 一人ニテ數選舉區ノ選舉ニ當選シタルトキハ最後ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ何レノ選舉區ノ當選ニ應スルヤツ  
届出ツヘシ若期日以内ニ其届出ヲ爲サ、ルトキハ凡テ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

前項ニ依リ當選決定シタルトキハ之ヲ組合内ニ公告スヘシ

本條並前條ノ場合ニ於テ當選人ヲ失ヒタル選舉區ハ更ニ選舉ヲ行フモノトス

第六十條 組合員選舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ選舉ノ日ヨリ七日以内ニ組合長ニ申立ツルコトヲ得

第六十一條 選舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其選舉ヲ無効トシ更ニ選舉ヲ行フモノトス

但選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞ナキトキハ此限りニ非ス

第六十二條 組合員中被選舉權ヲ有セサルモノハ其職ヲ失フ

前項ニ該當スルモノハ組合長之ヲ決定ス其決定ニ異議アル者ハ之ヲ議員會ニ申立ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規定

第六十三條 議員會ノ決議スヘキ事項左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ變更スル事
- 二 諸規則ヲ設定シ及變更スル事
- 三 組合費ヲ以テ支辨スヘキ事
- 四 收支豫算ヲ定ム事
- 五 決算報告ヲ承認スル事
- 六 貸貸料組合費加入金及夫役現品ノ賦課徵收方法ヲ定ムル事
- 七 組合財産及營造物ノ營理方法ヲ定ムル事

八 役員ノ給料及諸給與並其支給方法ヲ定ムル事

九 實費辨償及其支給方法ヲ定ムル事

十 組合不動産ニ關シ權利ノ得喪ヲ目的トスル行爲ヲ爲ス事

十一 收支豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ヲ負擔シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

十二 組合ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

十三 會計事務擔任者ノ身元保證金徵收並其金額ヲ定ムル事

但北海道土功組合法施行令第十一條ノ場合ハ此限りニ非ス

十四 其他法律命令又ハ此規約ノ定ムル所ニ依リ其權限ニ屬スル事項

第六十四條 議員會ハ組合ノ事業ニ關シ意見書ヲ組合長ニ差出スコトヲ得

議員會ハ組合長又ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申ス

第六十五條 議員會ハ組合事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ組合長ノ報告ヲ請求シテ事務管理決議ノ執行並收入支出ノ正否ヲ監査  
スルコトヲ得

第六十六條 組合議員選舉ノ效力若クハ議員ノ資格ニ關スル異議ニ於テ之ヲ決定スヘシ

組合議員ハ自己ノ資格ニ關スル會議ニ於テ辯明スルコトヲ得ルモ其議決ニ加ハルコトヲ得ス

第六十七條 議員會ノ會期ハ通常會ハ七日以内臨時會ハ三日以内トス

通常會ハ毎年一月臨時會ハ必要ニ依リ開會スルモノトス

第六十八條 議員會ハ組合長ヲ以テ議長トス

組合長事故アルトキハ其代理タル理事ヲ以テ議長ニ充ツ若シ組合長代理共ニ事故アルトキハ出席議員ノ内ヨリ假議長ヲ選舉スルモ



ノトス

第六十九條 議員會ハ組合長之ヲ招集ス

議員ノ招集ハ少クモ會議ノ五日以前ニ書面ヲ以テ議員ニ通知スルモノトス

但急施ヲ要スル事件ハ本項ノ日限ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ招集ニハ會議ノ事件ヲ記載シ招集者之ニ記名捺印スルヲ要ス

第七十條 議員會ハ組合長之ヲ開閉ス

第七十一條 議員會ハ議員定數半数以上出席スルニアラサレハ決議スルコトヲ得ス

但同一事件ニ付集會ノ再度ニ涉ルモ尙ホ半数ニ滿タサルトキハ此限リニ非ス

第七十二條 議會ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

但法律命令又ハ此規約若クハ組合ノ規則等ニ別段ノ定メタルトキハ此限リニ非ス

第七十三條 議員會ニ於テ役員ノ選舉ヲ行フトキハ無記名投票ヲ以テ之ヲ爲シ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス若シ同數

ナルトキハ年長者ヲ取り同年者ナルトキハ議長抽籤シテ之ヲ定ム

前項ノ選舉ニハ議員會ノ決議ヲ以テ指名推選ノ方法ヲ用フルコトヲ得

本規約第五十一條ノ規定ハ本條ノ選舉ニ之ヲ準用ス

投票ノ效力ニ關スル事項ハ議員會之ヲ決ス

第七十四條 前條ニ規定シタルモノ外議員會ニ於テ行フ選舉ノ規定ハ會議中ニ之ヲ規定スヘシ

第七十五條 議長ハ會議ノ事務ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第七十六條 議長ハ書記ヲシテ會議録ヲ調製セシメ其決議ノ頌末並出席議員ノ氏名ヲ記録セシムヘシ

會議録ハ會議ノ末ニ之ヲ朗讀シ議長及出席議員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

書記ハ議長之ヲ選任ス

第七十七條 議員會ハ其會議ニ關スル規則ヲ設ケクルコトヲ得

第六章 組合員ノ加入脱退

第七十八條 組合員ハ組合區域内ノ土地ニ關スル所有又ハ占有ノ權利ヲ他人ニ移轉スル場合ハ權利受移者ト連署ノ上組合長ニ届出ツ

ヘシ

第七十九條 新ニ組合員タラントスル者ハ申込書ニ加入地積及設計書ヲ添へ署名捺印シテ組合長ニ差出スヘシ

前項ノ申込アリタルトキハ組合長ハ之ヲ許否シ次ノ議員會ニ報告スヘシ

但加入ヲ許可スル爲メ工事變更或ハ増設ヲ要スト認ムルトキハ議員會ノ決議ヲ經ルニアラサレハ之ヲ許可スルコトヲ得

第八十條 前條ノ申込者ハ組合ニ加入ノ許可ヲ受ケタルトキハ其許可ヲ受ケタル年度ヨリ組合費ヲ負擔スルモノトス

組合ハ前項會費ノ外特ニ加入金ヲ徵收スルコトヲ得

加入金徵收ニ關スル規定及加入金率ハ議員會之ヲ定ム

第八十一條 組合員ハ現ニ組合事業ノ利益ヲ受クルコト能ハサルニ至リタル場合ノ外脱退スルコトヲ得ス

組合員脱退ヲ申込ミタルトキハ其承認ハ議員會ニ於テ之ヲ決ス

議員會ニ於テ脱退ヲ承認シタルトキハ其旨ヲ脱退申込人ニ通知スヘシ脱退申込ヲ爲シタル者ハ脱退承認ノ通知アリタル日ヨリ脱退

シタルモノトス

但脱退者ノ既納組合費ハ還付セス

第七章 規約及設計書ノ變更

第五章 組合ノ成立



第八十二條 規約及設計書ヲ變更セントスルトキハ議員會ニ於テ議員定數三分ノ二以上ノ同意アルニアラサレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八章 解散及清算

第八十三條 本組合解散ニ關シ總會ヲ開クトキハ議員會ニ關スル規程ヲ準用ス

第八十四條 本組合解散シタルトキハ組合長理事及總會ニ於テ選舉シタル三名ヲ以テ清算人トス

第八十五條 本組合ヲ解散シタルトキハ其殘餘ノ財産ハ解散當時ニ於ケル現在組合員ニ分配ス其分配標準ハ解散ノ決議ヲ爲ス際總會ニ於テ之ヲ決ス

清算ノ場合ニ於テ現在ノ財産ヲ以テ其債務ヲ完済スルニ足ラサルトキハ其不足額ハ解散當時ニ於ケル組合員ヨリ追徴ス其追徴ノ標準ハ總會ニ於テ之ヲ決定ス

第八十六條 清算決了シタルトキハ清算人ハ直ニ清算報告書ヲ總會ニ提出シ承認ヲ受クルモノトス

(改正後ノ規約ハ別掲)

第五節 事務引繼

組合ハ既ニ設立認可ヲ受ケ組合長新ニ指定セラレタルヲ以テ明治四十二年九月ニ至リ創立委員長佐藤樹太郎ヨリ空知支廳長稻見貞藏ヘ創立ニ關スル書類ヲ引繼キ十一月四日之ヲ完了セリ(創立費其他ハ便尙ホ創立前深川、一已兩村役場ヨリ道廳ヘ稟請セル灌漑溝工事ニ就キ實地調査ヲ遂ケタル趣ニテ同年九月二十六日付ヲ以テ設計書類ヲ交付セラル(設計ノ概要ハ起工ノ沿(華水源選定ノ部ニアリ)引繼當時委員長ノ演說書左ノ如シ

演說書

本組合區域内ニ於ケル水田見込反別約四千町歩ノ地積ハ從來畑地トシテ經營シ其收穫ハ年毎ニ多少ノ差異アリト雖モ一反歩平均八圓乃至六圓八十錢ニシテ本道一般ヨリ見ルモ普通以上ノ成績タルヲ信ス然レトモ地力ノ減耗ト物價高騰諸稅ノ増加等ハ逐年著シク之ヲ收入ヨリ差引ニ於テハ殆ント餘剩アルヲ見ス隨テ農事ノ改良副業ノ撰擇等農家舉ケテ腐心セサルモノナント雖モ畢竟荷息ノ方法タルヲ免レヌ何等大ナル成績ヲ舉ゲ得タルモノアルヲ聞カス故ニ今ニシテ根本的農業狀態ヲ變更シ作物ノ增收ヲ圖リ將來生産ノ基礎ヲ確實ナラシメサルニ於テハ將來ノ慘狀實ニ憂慮ニ堪ヘサルモノアリ即チ茲ニ水田事業ヲ經營セントスルニ至リシ所以ナリ

抑モ本道ニ於ケル水田ハ内陸高濕ノ地ヲ以テ適切トシ上川郡及我兩龍郡ハ最モ好適地ト稱セリ而シテ上川郡地方ノ諸村ハ現ニ一反歩平均二石五斗此價格三十圓ヲ示シ我組合地域内亦現下ノ實驗ニ徵スルニ一反歩最下收穫二石一斗此價格二十五圓二十錢ヲ降ラス今後水田完成ノ曉ニ於テハ以上ノ收穫ニ依テ計算スルモ八萬四千石以上ニ達シ此價格優ニ一百万圓ヲ超過スヘク之ヲ從來ノ畑作收穫ニ比スルトキハ一躍四倍ノ增收獲ヲ見ルニ至ルヘシ水田經營ノ利益既ニ斯ノ如シ組合區域内ノ農家ハ早ク既ニ之ヲ經營ヲ熱望スト雖モ本事業タルヤ一大灌漑用水溝ニ竣タサルヘカラサルヲ以テ曩ニ北



海道廳ニ申請シ實地ノ設計踏査ヲナシタルニ工費約三十萬圓ヲ以テ完成ナヘキコトヲ示サレタリ茲ニ於テ發起人等ト北海道土功組合法ニ依リ組合ヲ設立シ以テ素志ヲ貫徹センコトヲ企圖シ本年三月十五日創立總會ヲ開キ組合内全部同意ノ下ニ終ニ本組合設立ノ認可ヲ見ルニ至レリ

組合區域ハ規約ニ掲記セル如ク雨龍郡一巳村ノ一部及深川村一圓此水田見込反別約四千町歩ニシテ雨龍郡秩父別村雨龍川ヨリ用水ヲ注入スヘキ計劃タリ抑モ水田灌溉ノ用水ハ最モ温度ノ高キヲ要シ本道地方ノ如キ夏期尙ホ比較的冷水ノ地ニアリテハ殊ニ注意ヲ要スル處ナリ故ニ本組合地域ヲ環流スル石狩、雨龍兩川ニ就キ水温ヲ檢スルニ石狩川最モ低溫ナルノミナラス工事其他利害關係ヨリスルモ絶對的雨龍川ニ依ラサルヲ得ス之レ即チ前述ノ計劃ヲ爲シタル所以ニシテ將來本事業經營上特ニ留意セラレンコトヲ當事者ニ切望スル所ナリ

用水路ハ即チ前記ノ注入口ヨリ幹線延長一萬四千八百間第一支線延長七千八百間第二支線延長三千間第三支線延長三千六十五間此工費豫算三十萬八千四百七十三圓二十錢ナリ以上ノ外水田反別百五十町歩ヲ限度トシ各所ニ分水門分水路等ノ施工ヲ爲サ、ルヘカラス之ハ組合設立後組合自身ニ設計施工スルコトニ總會ニ於テ決議シアルヲ以テ更ニ豫算ヲ設ケ實施セラレタリ又本組合地域中用水溝堀鑿ト同時ニ排水ノ設備ヲ要スル個所アリ素ト同水ト相俟テテ初メテ目的ヲ達スヘキモノナルヲ以

テ事業開始ニ際シ宜シク實査ノ上相當設備アランコトヲ希望ス而シテ總工費三十萬餘圓及小分水路經營費等ハ直ニ組合ノ負擔ニ據リ得ヘカラサルヲ以テ相當年賦償還ノ計劃ヲ立テ起債ヲ爲シ以テ本事業ヲ完成セラレンコトヲ希望ス

組合創立發起人ハ東武、内田澁、青木利一、柳町靜一郎、篠田赫穂、谷口繁信、村田忠正、西熊太郎、千葉藤吉、山川十免吉、松村茂富、上杉米藏、植田重太郎、佐藤政三、青地初三郎、川島與三吉、土屋鍋治郎、佐伯藤市、桑島仲太郎ノ外ニ創立委員トシテ佐藤樹太郎之ニ當リ組合創立手續其他ノ事務ハ發起人總代青木利一之ヲ擔當シタリ北海道廳ヘ申請シタル測量設計ハ全部終了シ本月二十六日下付セラレタルモ再ヒ起工認可申請トシテ提出ヲ要スルニ付右完了マテ道廳灌溉溝調査ヘ保管ヲ囑托シ置ケリ(内一部ハ道廳ヨリ空知支廳ヘ回送セラレタル管)

要之本組合事業ノ完否ハ實ニ組合民命ノ繫ル所ニシテ一日モ等閑ニ付スヘカラス茲ニ創立事務引繼ニ當リ將來充分ニ完成セラレンコトヲ切望シテ止マサル所ナリ

以上



## 第六章 諸般ノ設備

組合ハ創立委員ヨリ事務ノ引繼ヲ受ケタル後チ議事及執行ノ諸機關ヲ備フル爲メ明治四十二年十一月十四、十五ノ兩日組合議員ノ選舉ヲ行ヒシニ其結果第一區佐伯藤市、土屋鍋治郎、齊藤庄太郎、第二區中井哲太郎、村田忠正、横内清太郎、横山角藏、第三區五井伊次郎、更谷辰太郎、合田芳太郎、五十嵐久助、第四區遠藤庄次郎、川上樂治、柳町靜一郎、篠田赫穂、第五區篠田赫穂、三谷兵太郎、山岸茂一當選セシモ五十嵐及兩區ヨリ當選セシ篠田ハ第四區ヲ辭セシヲ以テ同年十二月十五日其補缺選舉ヲ行ヒシニ第三區林淺次、第四區青木利一當選セリ而シテ第一議員會ハ同年十一月二、三ノ兩日開カレンカ理事、評議員、検査委員ノ選舉ヲ行ヒシニ理事ニ内田游、青木利一當選シテ同月二十七日認可ヲ得評議員ニ篠田赫穂、五井伊次郎、上杉米藏、柳町靜一郎、爲岡利三郎當選シ内爲岡辭任ニ付翌四十三年三月三十日其補缺選舉ヲ行ヒシニ青地初三郎當選篠田外三名ハ同年二月二十五日青地ハ同年四月十六日何レモ認可セラレ臨時出納検査委員ニ中井哲太郎、五井伊次郎、佐伯藤市、村田忠正當選セリ尙ホ議員會ノ決議ニ基キ組合顧問ニ東武、森源三、五十嵐久助ヲ推薦セリ(以下役員ノ異動ハ役員及吏員ノ部ニ掲ク)又第一議員會ニ於テ組合ノ事業施行ニ關スル諸規程ヲ定メ爾後屢次議員會ヲ開キテ諸般ノ設備ヲ整ヘ專

ラ事業ノ進捗ヲ期セリ(諸規程ハ規約及規程ノ部ニアリ)其重ナルモノヲ舉ケンカ議員會會議規則、議員實費辨償額及支出方法、事務員給料額旅費額及支出方法、四十二年度豫算、組合費賦課期日、四十三年度豫算、議員會會議傍聽規則、工事請負規程、工事費繼續年期及支出方法等ニシテ是等ヲ順次議定シタルト一面明治四十三年四月ニ入り理事青木利一ハ書記八木田豊一ト共ニ組合員査力調査ハ土地臺帖名寄帖連絡圖ノ調製ニカテ注キ技術負松岡胸太郎ハ人夫ヲ督シテ區域内ノ高低及支線ノ實測ニ從事スル等只管起業ノ準備ヲ急キシナリ(吏員ノ任免ハ役員ノ部ニアリ)



# 第七章 起工ノ沿革

## 第一節 水源選定

本組合ノ地勢ヨリセハ其水源ヲ石狩、雨龍ノ兩川何レニ依ルモ灌漑シ得ヘシト雖モ工事ト工費ノ關係上之カ比較對照ハ實ニ此懸案ノ骨子タリシナリ然ルニ明治四十二年九月二十六日道廳ヨリ交付セラレタル計劃書(計劃說明書、工費豫算調書、工事仕様書、土積書等八部並ニ圖面八卷ト十七部ヲ添ユ)ニ依レハ雨龍川ヲ選定シタルモノニシテ道廳河村技師主任トナリ戸津技手其他ノ補佐ニ依リ調査設計セシナリ而シテ其選定理由左ノ如シ

組合ノ地勢ハ石狩雨龍兩川ノ間ニ介在セルヲ以テ水源ハ此兩川ノ孰レニ定ムルモ灌漑シ得ヘシト雖モ工事ノ安全及經濟的ナルモノヲ撰ムヘキハ論ヲ俟タス而シテ今兩川ニ於ケル優劣ヲ對照センニ石狩川ニ在リテハ有名ナル神威古潭ノ左岸及一巳村納内市街附近ノ地點ヲ最モ適當トスヘク又雨龍川ニ於テハ秩父別ノ最上流現在ノ引入口附近ヲ唯一ノ個所トス依テ神居古潭ヨリ引入スルモノトセハ納内以下一巳村ノ石狩河岸地一圓深川村ノ雨龍河岸ニ於ケル小藤千秋ノ一部ヲ除クノ外ハ全部ニ灌漑シ得ヘク一見極メテ有利ノ事業タルモ如何セン同所ハ殆ント全部果果タル轉石ニシテ開鑿ニ非常ニ困難ナルト本流ヲ橫斷スルカ爲ニハ數百尺ノ鐵橋若クハ其他ノ堅固ナル工法ニ據ラサルヘカラサルヲ以テ工費ノ莫大ナルハ想像ニ餘リアルト云フヘク故ニ一巳、深川ノ兩地積ヲ合スルモ到底收支償ハサルハ敢テ實測ヲ經サルモ瞭然タルコトナリトス次ニ納内附近ヨリスルモノハ假測ノ結果一巳屯田ノ一部及深川村前額ノ地積ニ灌漑シ得ルモ特別ノ作工ヲ要スヘキ深サ三十餘尺ノ開鑿六百間及十五尺以上ノ堀鑿場所實ニ一千有餘間ノ長キニ亘リ給

本流取入口ノ工費ヲ見込ムトキハ同前經濟的ナラスシテ共ニ深ク考究スルノ餘地ナキモノトス雖テ雨龍川ヨリセンカ一巳屯田ノ一部及深川村ノ全體ニ引水シ得ヘク一巳一村ヨリ觀ルトキハ少シク遺憾ナキ能ハスト雖モ引入口ノ安全ニシテ且ツ難工事ノ箇所ナク隨テ工費モ低廉タルヘキニ依リ本灌漑溝ノ水源地トシテ優勝ナルコト素ヨリ前二者ノ比ニ非ラス且又他ニ適當ノ場所ナキヲ檢シ技ニ選定セシモノトス

尙ホ雨龍川ノ最湯水位ヲ海拔千七十九尺八寸ト認メ水量測定ノ結果湯水量毎秒時二百七十二奇零四六二立方尺ヲ得タルヲ以テ内ニ百五十立方尺ヲ引水スル計劃トシ水田一町歩ニ對シ灌漑用水量ヲ毎秒時百分ノ五立方尺トセリ

是レ實ニ本組合設立當初ノ水源ニシテ之ニ依リテ水路線ヲ定メ區域内ニ灌漑セントシタルモノニシテ灌漑地積ト水路線ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

灌漑地積ハ深川村大鳳川以北ノ泥炭ノ部分ヲ除キタル一圓及一巳村ノ内深川、一巳秩父別三村ノ境界タル宇登橋ヨリ山麓ヲ周リ舊兵村一番通三丁目附近ニ至リ同高地ノ裾ヲ曲折經過シ二番三番通及五丁目六丁目ノ中間ニ達シ左折シテ五番通ヲ經鐵道線路ヲ橫斷シ石狩川一帶ノ低地ヲ包圍シ深川市街地ノ背後ニ合スル線以西深川村界マテノ地積ニシテ總面積六千町餘歩ノ内四千町歩ヲ水田トシテ開發セントスルモノニシテ灌漑地積タル大體ニ於テ石狩川ニ沿ヒ東ヨリ西傾斜シ尙ホ雨龍川ニ沿フ部分ハ秩父別方面ヨリ妹背牛ニ向ヒ緩カナル句配ヲ有スルモ中央部ノ大鳳川附近ニ於ケル大泥炭地ハ一般ニ周圍ヨリ低キヲ以テ宛然大皿ノ如キ形狀ナルヲ以テ之カ完全ナル灌漑ヲ爲サントセハ勢ヒ水路線ヲシテ周圍ノ高所ニ通セシメサルヘカラス殊ニ一巳方面ノ如キハ及フ限リ地積ヲ擴メントセシカ故ニ線路ハ丘陵ノ關係上一般句配ニ逆アテ東進セサルヘカラスルニ依ル已ムヲ得ス迂回シ各支線モ亦成ルヘク其部分ニ對スル高地ヲ撰メリ

而シテ水源ナル雨龍川ハ秩父別灌漑用水路ノ引入口上流約五十間即チ斷崖ノ個所ヲ起點トシ長五十間ノ隧道ヲ穿チテ背後ノ小澤ニ達



シ更ニ河岸ニ左折シテ十五鎮ノ點ニ至リ既設用水路ニ合シ十六鎮附近ニ於テ餘水路ヲ設ケ餘水並ニ灌漑時期以外ハ再ヒ本流ニ放出セシメ又水位ヲ高メ及湯水時ノ逸水ヲ棄ク裝置ヲ爲シ十七鎮ニ於テ初メテ水門ヲ設クルモノニシテ導水門以下ハ既設水路ヲ利用擴張シ百七十鎮山角ノ邊ニ於テ左折シ全ク舊水路ト離ル此附近ニ於テ秩父別用水ヲ合メル小藤支線ヲ分岐シ山麓ニ於ケル一帯ノ高地ヲ屈曲シテ南シ四百三十鎮ニ至リ秩父別村ニ條通及深川村ニ通スル道ヲ横切り同道ト鐵道留筋線トノ中間ヲ過キ五百鎮ニシテ同道路ヲ超エテ東側ニ出テ爾後殆ント鐵道線路ト並行シテ山腹ヲ一已村舊兵村一番通三丁目四丁目ノ中間ニ達ス之ヨリ全ク左折同一番通ノ北側ニ沿ヒ同四丁目ニ於テ右折レ又小許ニシテ左折シテ五丁目ノ一番通ト二番通ノ中間ヲ經、直ニ六丁目三番通ノ附近ニ向ヒ同道路ノ兩側ニ並行シテ五番通ニ至リ此處ニ於テ一已支線ヲ分岐シ更ニ五番通ニ沿ヒ一已、深川兩村境ニ至リ大風川ヲ超エテ停車場ノ北部及留筋線ノ附近ニ於テ鐵道上川線ノ北側ニ達シ此處ヨリ芽生支線ヲ分岐シ妹背牛市街マテハ殆ント鐵道線路ニ沿ヒ同所ヨリ更ニ妹背牛支線ヲ分岐ノ上下折北龍道西側並大排水溝ノ南部ヲ曲折シテ兩龍ニ注ク此延長一万五千三百二十一間六分五厘ヲ幹線トス

小藤支線ハ幹線ノ百七十九鎮ヨリ右ニ分岐シ直ニ秩父別水路ニ合シ之ヲ擴張利用シテ百四十三鎮ニ至リ秩父別第一支線ヲ分岐シテ全ク右折シ尙ホ舊水路ヲ利用曲折シテ二條通四丁目ニ於テ二秩父別水路ヲ分岐シ以下舊水路ト分離シテ二條通南側ニ並行シ五丁目ニ於テ少シク左折同道路ノ西側ニ沿ヒ四百九十一鎮附近ニ於テ東側ニ移リ並行南シテ六百九鎮ニテ右折シ道路ヲ超エテ大風川ヲ横切り蜂須賀農場ニ入り兩龍川ニ注ク此延長八千五百八間二分八厘トス一已支線ハ幹線ノ八百八十五鎮加七間五分ヨリ左ニ分岐シ六丁目ノ西側ニ沿ヒ大風川ヲ切リテ左シ六丁目ノ中間ニ於テ鐵道上川線及深川ヨリ納内方面ニ通スル道路ヲ橫斷シ此附近ニ於ケル一帯ノ低地ヲ右ニ迂回シテ深川市街地ニ達ス此延長六千二百九十五間六分トス芽生支線ハ幹線ノ第二タル八百九十一鎮加五間ヨリ左ニ分岐シ直ニ上川線ヲ横切り尙ホ右折シテ鐵道線ヲ並行西シ百九十二鎮附近ニ至リ斜ニ左折シ以下直線ニ石狩川岸ノ古川ニ注ク此延長二千八百七十八間七分七厘トス妹背牛支線ハ幹線ノ千九百九十二鎮ヨリ左ニ分岐シ妹背牛市街ヲ横切り斜ニ同停車場ヲ經過シ百鎮ニ於テ鐵道線路ノ附近ニ達シ西側ヲ並行シテ石狩古川ニ注ク此延長千三百七十七間三分八厘トス

シテ其而工費概算左ノ如シ

一金三十三万九千四百三十四圓二十七錢五厘

工費總額

内 譯 金二十五萬四千四百三十六圓八十四錢七厘

幹線工費

金十一萬百七十六圓二錢七厘

土工費

金十一萬九千七百五十六圓六十二錢一厘

作工費

金二萬四千三十九圓十九錢九厘

敷地買收費

金四百六十五圓

家屋移轉費

金二萬四千四百九圓八十一錢

小藤支線工費

内 金一萬三千八百二十三圓三十三錢九厘

土工費

金六千五百圓八十三錢八厘

作工費

金四千三百二十四圓六十三錢三厘

敷地買收費

金二百一十一圓

家屋移轉費

金四千二百一圓三十四錢九厘

一已支線工費

内 金一千七百五十一圓七十四錢

土工費

金一千三百十四圓三十七錢六厘

作工費

金一千百三十五圓三十三錢二厘

敷地買收費



深川土功組合紀要

金一萬五千三十六圓四十四錢二厘	芽生支線工費
内	
金四千七百七十五圓六十二錢九厘	土工費
金七千一百一十一圓八十八錢	作工費
金三千七百四十八圓八十三錢三厘	敷地買收費
金四千三百四十九圓八十二錢七厘	妹背牛支線工費
内	
金二千二十八圓六十二錢一厘	土工費
金一千六十八圓七十七錢二厘	作工費
金一千百四十三錢四厘	敷地買收費
金百五十二圓	家屋移轉費
金二千圓	測量費
内	
金二千圓	幹支線測量費
金五千圓	需用費
内	
金三千圓	備品費
金一千五百五十圓	消耗費
金四百五十圓	雜費

金二萬五千圓	工事監督費
内	
金一萬八千圓	俸給及手當
金三千圓	旅費
金四千圓	慰勞及賞與
金五千圓	豫備費
内	
金五千圓	豫備費

第二節 沿岸故障

懸案ノ骨子タル水源ヲ兩龍川ニ決シ設計ノ交付ヲ受ケシヲ以テ明治四十三年三月三十日岩見澤町空知教育會圖書館ニ議員會ヲ開キ工事費豫算並ニ繼續費支出方法等ヲ議定セリ即チ總費額ハ前掲工費概算ヲ合セ金三十七萬五千二百三十六圓二十七錢五厘ニシテ四十三年度以降三ヶ年ノ繼續支出トナシ

(内金十四萬五千二百四十五圓四十一錢一厘四十三年度、金十七萬六千六百六十五圓)之カ財源ハ一時ニ組合員ノ負擔ニ堪ヘ六十六錢九厘四十四年度、金五萬三千八百三十五圓十九錢五厘四十五年度支出トス)

サルヨリ幾分ノ補助ヲ仰クト少額ノ賦課ノ外ハ借入ニ依リテ支辨シ四十七年度ヨリ二十ヶ年賦ヲ以テ均等償還ヲ爲サントスルノ計劃ニシテ其借入額ヲ金三十三萬九千圓トシ之ヲ三ヶ年度ニ分割セリ



(内金十三万二千二百四十四年度、金十五万八千六百四十四年度、  
度、金四万八千二百四十五年度、借入ル其償還年表ハ略ス) 是レ本組合最初ノ事業企劃ニシテ再來該企劃ニ  
基キ諸般ノ準備着々整頓シ今ヤ起工ノ認可起債ノ成立ト共ニ將ニ事業實行ノ期ニ入ラントスルニ際シ  
幸カ不幸カ雨龍川上流沿岸ノ陣情ナルモノ起リ意外ニモ故障ノ原因トナリテ茲ニ事業ノ進捗ニ一大頓  
挫ヲ來スノ止ヲ得サルニ至レリ時恰モ明治四十三年一月ニシテ一巳村吉田三郎外二十四名ノ連署ヲ以  
テ道廳ニ陣情書ヲ提出シ同時ニ總代ヲ派シテ當時上京中ノ河島長官並ニ西村土木部長ニ具陳スル所ア  
リタルナリ其理由ニ依レハ「深川土功組合ハ道廳ノ設計ニ基キ雨龍川ヨリ導水シテ四千町歩ノ灌漑工  
事ヲ起サントスルモノナルカ若シ果シテ斯ノ如ク下流ニ於テ多大ノ水利權ヲ先取獲得セシメラルハア  
ランカ上流ニ於ケル既成ノ水田ハ遂ニ其水利ヲ確認セラルハ時機ナキノミナラス雨龍川唯一ノ水利ニ  
依リテ改良セントスル上流沿岸及北龍、秩父別ノ二村ニ屬スル多大ノ水田見込地ハ將來ニ於テ蓋シ絶  
望ノ位置ニ立タサルヲ得ス殊ニ現在該沿岸ニ移住セルモノ八百餘戸皆農業ニ従事シ多年廣漠僻陬ノ地  
ニ忍フハ只前途有望ナル水田開發ニ據リテ一身一家ヲ興サントシ苦心經營日モ是レ足ラサルニ拘ハラ  
ス單一深川土功組合ノ爲ニ上流沿岸ノ水利ヲ顧ミサルカ如キコトアラハ雷ニ離散荒廢ノ不幸ヲ招ク  
ノミナラス延テ本道拓殖上實ニ輕視スヘカラサル重大問題ナルヲ以テ速カニ再調査ヲ遂ケ相當救濟ノ  
途ヲ講セラレタシ」ト云フニアリキ河島長官ハ其陳情ニ對シ同情スヘキモノアリトシ當事公務ノ爲メ

上京中ナル稻見支廳長ニ命スルニ實情ノ調査ヲ以テセリ支廳長ハ命ニ依リ融雪期ニ入りテ上流沿岸ノ  
踏査ニ着手シ之カ調査ノ歩ヲ進ムルニ從ヒ上流各地ノ實況甚タ同情スヘキモノアルヲ知レリ然モ組合  
長タル組合代表ノ資格ヨリ考フルニ「法人タル深川土功組合ハ既ニ雨龍川ノ灌漑ヲ其存立ノ目的トシ  
テ生レタルモノナレハ之カ水利權ノ未タ獲得ニ至ラサルモ設立認可ニ依リテ之ニ伴フ水利權ハ當然既  
決ノ事項ニ屬ス假令今日上下流ニ於テ故障アリトスルモ起工ニ對シ顧慮スヘキ餘地ナキノミナラス之  
カ執行ニ關シテモ敢テ躊躇スルノ必要ナク若シ爲ニ一日ヲ緩フセハ其間土地ノ改良ニ伴フ多大ノ收益  
ヲ失フノ結果ヲ生スヘク從テ之カ變更延期ハ實ニ組合ニ取リテ大打撃タルナリ然レトモ又一面組合前  
途ノ爲メ用水利用ノ安否ヲ考フルニ前設計ニ依ル導水位置ハ雨龍川ノ最下流秩父別村ニ屬スルヲ以テ  
縦シ組合ニ於テ權利ノ收得ヲ爲スモ果シテ上流ニ水田開發ノ餘地廣濶ナルモノアリトセハ沿岸各地ノ  
引水ヲ防止セントスルモ能ク組合ノ制シ得ヘキニアラス寧ロ此機ニ乘シ水利ノ豐富ナル石狩川ニ依ル  
夫レ或ハ優ランカ」ト今後該沿岸開發ノ趨勢ヲ慮ルト共ニ組合用水將來ノ爲メ水源地ノ變更ヲ得策ト  
認メタルヲ以テ其旨具サニ開申シ併セテ組合ハ曩ニ調査費ヲ道廳ニ納付シテ設計書ノ交付ヲ受ケタル  
モノナレハ今ヤ何等其必要ノ原因ナキニ拘ハラス更ニ調査設計ヲ爲サシメ能ハサルニ付キ若シ水源地  
ノ變更ヲ命セラレノ曉ニハ直ニ之ニ代ルヘキ設計書ノ交付アランコトヲ稟申セリ(同年六月) 茲ニ於テ河島



長官モ事態容易ナラス拓殖上輕々看過スヘカラサルヲ察シテ其大局ニ稽ミ水源地ノ撰擇ヲ慎重覈査セシムルコトトナリタルヲ以テ事件ハ頗ル復雜ヲ極ムルニ至リ且ツ是等ノ内情ハ何時シカ外間ニ漏シタルヨリ一部組合員間ニ稍ヤ動搖ノ色アリシト雖モ顧問理事並ニ役員ノ慰撫斡旋ニ依リテ幸ニ事無キヲ得タリ

### 第三節 計劃變更

雨龍川ヲ水源トセル組合當初ノ計劃モ沿岸ノ故障ニ依リテ一頓挫ヲ來シ茲ニ水源變更ノ必要ヲ生シタルヲ以テ明治四十三年七月ニ入り道廳河村技師主任トナリ渡部外三技手ノ補佐ニテ水源ノ變更ニ伴フ設計ノ再調査ヲ爲セリ而シテ翌四十四年一月ニ至リ略之力完了ヲ告ケシト雖モ未タ發表ニ至ラサル爲メ組合員何レモ一日千秋ノ思ヲ爲シテ其目的ヲ達スルノ曙光ヲ認メツハ尙ホ遷延逡巡ノ巷ニ迷ヒ其間揣摩憶説ヲ流布スル等頗ル焦心苦慮ニ堪ヘサルモノアリ遂ニ理事青木利一ノ上京ヲ促カシ道廳長官ニ陳情セシムルニ至ル青木理事ノ上京ハ同年三月ニシテ其報告書ノ概要ヲ摘記スレハ「十二日在京中ノ顧問東武ト相謀リ共ニ河島長官ノ寓所ヲ訪ヒシモ宿痾面會謝絶中ノ故ヲ以テ陳情スル能ハス已ムナク西村土木部長ノ宿所ヲ訪ヒシニ來客ニ遮キラレテ面談ノ邊ナク翌十三日時間ノ都合上衆議院ニ於テ面

會ヲ求メシモ公務繁劇寸暇無カリシヨリ翌十四日漸ク西村部長ノ宿所ニ於テ組合ノ用水引入口變更ニ伴フ工事費額并ニ區域變更等速ニ發表センコトヲ請ヒ若シ年度内ニ總テヲ決定スルニアラサレハ組合員ノ苦情ヲ惹起スルハ勿論組合ノ事業進捗上困難ヲ醸生スルヤモ計リ難ク憂慮ニ堪ヘサルヨリ斯ク出京陳情ニ及ヒタル次第ヲ述ヘシニ西村部長ハ事情聞届ノ上直ニ道廳ヘ長文ニテ電照スルコト二回三回ニ及ヒ其結果十五日早朝西村部長ヨリ工事設計ノ正式發表ハ道廳ヨリ組合長ヘ至急直接通知スヘキ旨達セラレタルヲ以テ東顧問ト協議ノ上右相違ナキニ於テハ承諾スヘシトテ十八日歸着云々」トアリ尙ホ同月十五日組合長タル稻見空知支廳長ヘ宛在京西村土木部長ヨリ「深川土功組合ノ件至急設計ヲ確定シ本月内ニ區域及水源ノ變更並ニ四十四年度組合費豫算附議ニ差支ナカラシムヘキ旨電命シ置キタリ道廳ニ就キ然ルヘク御取計アリタシ」トノ電照アリ又青木理事ヨリモ「道廳ヨリ貴官ヘ用水口位置變更費額ノ通知アル筈」ト報告シタリ然カモ將ニ發表セラレントスル設計ノ内容ニ依レハ石狩川ヲ水源トスルモノニシテ其選定ノ理由及灌溉區域水路線ノ經過并ニ工費等實ニ左ノ如キモノアリ先ツ水源選定ノ理由ヲ掲ケンニ

灌溉工事ノ引水口ハ灌溉水路ノ最要部ニシテ灌溉水路ニ供給スル水量ハ凡テ此頭工ヲ經過スルモノナリ而シテ頭工ノ損傷ハ延テ灌溉水路全部ノ死命ヲ制スルコトナルカ故ニ之カ撰定ニハ最モ慎重ニ意ヲ用キサルヘカラス深川灌溉工事ノ豫定引水口ニ二箇所アリ一ヲ納内三丁目附近トシニヲ納内四丁目附近トス深川灌溉工事ニ於テ石狩川引水ヲ決定スル要件中主要ナル問題ハ堰堤築設如何ニ在リト



ス思フニ石狩川ニ於テ堰堤ヲ築設セントセハ永久的築造ノ工法ヲ採用スヘキハ論ヲ俟タス蓋シ木匠堰ノ如キ木石混合ノモノニ至リテハ石狩川特有ノ流水及巨大ノ流木ノ衝突ニ堪ユルコト能ハサルハ容易ニ想像シ得ラル、事實ナリトス故ニ出來得ヘクンハ多少工費ノ増大ヲ來タスモ斯カル危險ナル計劃ヲ避ケ堰堤ヲ築設セシテ引水シ得ルノ水源地ヲ撰定スルハ當然ノ計劃ナリトス第一撰定水源地納内三丁目附近ノ石狩川ハ水流極メテ眞直ニシテ河岸缺壞ノ患ナク且ツ地盤堅牢ナリト雖モ河流ノ狀態ハ堰堤ノ築設ニ依ラサレハ引水不可能ナリトス然モ石狩川ノ流量ハ夏期最大濁水ノ際ト雖モ約二千六方尺ヲ算シ一朝降雨ノ際ニ當リテハ直ニ水流ノ激増ヲ來タシ夏期濁水時ヲ利用シテ満足ナル施工ヲナスハ容易ノ業ニアラス若シ絕對ニ堰堤工事ヲ施行セントセハ冬期河水凍結ノ期ヲ待テ永久的工事ヲ廢シテ木匠堰ノ如キ假設ノ工法ヲ採用セサルヘカラス而シテ假設ノ堰堤ノ安定ナラサル前途ノ如シ納内四丁目附近ノ撰定水口ハ河岸軟整ナルモ能ク水勢ニ堪ユ水深深クシテ引水口ハ恰モ流心ノ方向ニ適合スルヲ以テ堰堤ノ築設ヲ俟タスシテ容易ニ引水シ得ルカ故ニ多少工費ノ増加ヲ來タスモ本引水口ヲ採用シタル所以ナリトス

尙ホ石狩川ニ於ケル既往最濁水量ヲ毎秒時一千七百十五奇零九二立方尺ト認メ引水口附近石狩川ノ棄水面積ハ一千四百奇零七八平方呎ナルヲ以テ引水口上流ニ於ケル明治四十三年度ニ於ケル灌溉作付反別ヲ一万三千五百五町步將來增加反別一万町步トシ既往濁水量ノ影響ヲ假定シテ引水口ニ於ケル水路ノ計劃高ヲ明治四十三年度ノ最低水位百八十七尺五寸ヨリ約二尺ノ餘裕ヲ見込ミ六尺ヲ低下シテ百八十一尺五寸ト決定セリ

次ニ灌溉區域及水路ノ概要ヲ示セハ左ノ如シ

灌溉區域ハ深川村ニ於テハ南ハ一巳、深川ノ村界ヨリ深川停車場ノ北側ヲ十一號道路ニ至リ之ニ沿フテ川一線ニ及ヒ右折シテ九號道路ニ至リ更ニ左折シテ川二線ニ沿ヒ四號道路ニ至リ左折石狩川ニ沿ヒ兩龍川ト合流點ニ至ル東北及西ハ大風川及兩龍川ヲ以テ界トス一巳村ニ於テハ南ハ石狩川ヲ界トシ東ハ同村八丁目ノ石狩河畔ヨリ八丁目道路ニ沿ヒテ中央道路ニ至リ高臺ノ裾ヲ迂曲シテ官設鐵道上川線ヲ横斷シ六丁目道路ニ沿ヒテ二番通附近ニ至リ更ニ高臺ノ裾ヲ迂曲シテ一番通ニ沿ヒ三丁目ニ出テ官設鐵道留萌線ニ沿ヒテ山麓ヲ繞リ一巳、深川、秩父別ノ三村境界ヨリ左折シテ深川、一巳兩村界ヲ沿ヒ大風川ニ達シ更ニ兩村境界ヨリ石狩川ニ達ス而シテ

區域内官有道路敷地河川堤防敷地古川沼地高丘地等ヲ控除スル時ハ民有地總面積五千百十二町八反步ニシテ内宅地總面積ノ百分ノ五ヲ除クシ灌溉總面積四千五百五十七町一反六畝步ナリトス

灌溉水路ハ幹線トシテ石狩川ノ中納内四丁目觀内川ノ落口ヨリ約七十間ヲ起點トシ測點六鎖加五間ニ導水門ヲ設ケ同七鎖ヨリ長百三十二間ノ隧道ヲ穿テテ高臺ヲ貫キ石狩川岸ノ低地ニ至リ洪水防禦ノ爲メ工法ヲ暗渠トナシ納内三丁目附近ナル測點六十九鎖加二間附近ニ放水門水槽第二導水門及逆水門ヲ設ケ放水門及水槽ハ平時水源地ヨリ水路線ニ流入スル土砂ヲ沈澱セシメ再ヒ石狩川ニ放流シ第二導水門ハ洪水期ニ際シ第一導水門ニ故障アル時更ニ此處ニ防禦シ以下安全ヲ期シ逆水門ハ洪水ニ際シ水路線中ニ河水流入シテ土砂ヲ沈澱スルヲ防クモノトス第二導水門ノ後部ヨリ更ニ暗渠ヲ接續シ石狩川ニ沿ヒテ納内一丁目附近ニテ右折シ高臺ヲ過キ一巳十三丁目測點百八十三鎖加一間ニ至リ洪水氾濫ノ憂ナク且ツ比較的切土ノ少キニ至リテ止ム測點百八十三鎖加一間ヨリ高臺中ノ低部ヲ十一丁目附近ヨリ測點二百六十二鎖ニ達スルマテ水路法面ノ崩壞ヲ防ク爲メ石垣ヲ築造シ夫レヨリ右折シテ九丁目ヲ過キ低地ニ至リ八丁目測點四百二十一鎖ニ至リ稍ヤ高地ニ達シテ防水門ヲ設ケ八丁目附近低地ヨリノ洪水ヲ防キ防水門以下中央道路ニ沿ヒテ右折シ同道路官設鐵道上川線ヲ横斷シ五番通六丁目附近ニテ一巳支線ヲ分岐シ更ニ五番通ニ沿ヒテ深川、一巳兩村ノ境ヨリ大風川ヲ超エ停車場ノ北部ヲ過キテ官設鐵道留萌線ヲ横斷シ深川村十一號道路附近ニ於テ官設鐵道上川線ノ北側ニ達シ此處ニ芽生支線ヲ分岐ス尙ホ妹背牛市街ノ北部マテハ哈ント鐵道線路ニ沿ヒ一號道路附近ニ於テ妹背牛支線ヲ分岐シ右折レテ北龍道路ノ西側ニ沿ヒ左折山二線並行シ下六號ニ於テ「メム」川ニ注ク此延長一萬九百三十四間五厘トス

一巳支線トシテハ幹線測點四百九十九鎖加一間ヨリ右ニ分岐シテ六丁目道路ノ東側ニ沿ヒ一巳村ニ番通學校ノ附近ニ至リ左折シテ五丁目一番通ト二番通ノ中間高臺ノ麓ヲ迂迴シテ四丁目ヲ過キ右折シテ一番通ニ出テ之ニ沿ヒテ西下シ柳川ニ注ク此延長一千九百七十六間一分トス芽生支線トシテハ幹線六百二十鎖加二間ヨリ左ニ分岐シ直ニ官設鐵道上川線ヲ横斷シ川一線十號道路附近ニ至リ之ニ沿ヒテ五號道路ニ達シ左折シテ川一線ヲ横斷シ川二線ノ中間ヲ西シテ二號道路附近ニ於テ「メム」川ニ注ク此延長三千間トス妹背牛支線トシテハ幹線九百二十鎖ヨリ左折妹背牛市街ヲ横切り斜ニ停車場前ヲ經過シ測點百鎖ニ於テ鐵道線路附近ニ達シ西側ニ並行シテ石狩川古川ニ注ク此延長一千三百八十五間五分ナリトス

次ニ工費ノ概算ヲ示セハ左ノ如シ



一金五十七萬七千九百八圓二十八錢

内 課

金四十九萬三千七百八十八圓七十五錢二厘

金一萬一千七百二十三圓五錢三厘

金一萬七千五百七十二圓二十錢九厘

金八千三百二十四圓二十六錢六厘

金一千圓

金一千五百圓

金三萬圓

金二千圓

金一千圓

金一千圓

金一萬圓

總工費額

幹線水路工費

一已支線工費

芽生支線工費

背牛支線工費

小支線測量費

大風川芽生川深

工事測量費

工筆監督費

備品費

消耗品費

雜費

備備費

### 第四節 設計確定

石狩川ヲ水源トセル新設計未タ發表ヲ見スト雖モ其内容ニ依レハ前掲ノ如ク工費概算金五十餘萬圓ニ達シ雨龍川導水ノ計劃タル工費金三十餘萬圓ニ比シ金二十餘萬圓ノ増加ヲ來シタル以テ若シ果シテ

斯ノ如シトセハ舊ニ曩ノ財政計劃ヲ維持シ能ハサルノミナラス負擔亦頗ル重ク徒ラニ發表ヲ急キテ却テ組合員ノ動搖ヲ招クナキヲ保セサルナリ稻見組合長ハ此點ニ就テ豫メ處斷ノ方案ヲ講究シ出來得ヘクンハ之カ差額ノ補充方法ヲ定メタキモ不幸其方法ニシテ容レラレザランカ組合ニ處スヘキ長官ノ内命ヲ受ケ置カサルヘカラスト一面道廳ニ新設計ノ發表見合セテ請フト同時ニ急遽上京シテ長官ニ具情スルコトトナレリ組合長ノ上京セシハ明治四十四年四月ニシテ當時長官ニ開陳セシ意見ノ大要ハ

一、水源變更ニ伴ヒ新設計額ニ於テ多大ノ増加ヲ生セシト聞ク而モ此増加額ハ組合ニ採リテハ全ク他働の原因ニ基クモノニシテ何等組合ノ必要希望ニ由ルモノニアラス然ルニ道廳ニ於テ飽迄今回交付ノ設計ニ依リ起工セシムル御主旨ナリトセハ該増加額ニ對シ國費又ハ地方費ヲ以テ補填ノ方法ヲ講セラレ度

二、前項設計ナルモノハ今ヤ漫然交付セラレントス然ルニ該設計ノ變更ハ少クモ當初道廳調査ノ不充分ナリシ等ノ原因ニ基クモノナレハ所謂他働ノ必要ニ屬ス從テ之カ交付ヲ受クルモ組合自體カ變更ノ必要ヲ認メサル限リハ組合長トシテ發案ノ理由ナシト信ス此際寧ロ長官ヨリ組合ニ對シテ變更ヲ命セラル、コトニ御取計相成度

三、組合長トシテ發案スヘキコトハ御命令ナル以上敢テ躊躇スル所ニアラサルモ若シ組合會ニ於テ



増加工費ヲ負擔シテマテモ他働の原因ニ基ク設計ノ變更ヲ爲スノ必要ナシトセシカ途ニ變更シ得サルノ結果ヲ生スヘシ從テ本件ハ到底任意ノ決議ニ委スルコト能ハサルヘキヲ以テ此場合ニ處スル方法トシテハ原案執行ヲ稟議スルモ差支無之哉

以上ニ對スル指揮ヲ仰キタシト云フニアリ由來河島長官ハ論壇ノ獅子吼ヲ以テ著聞シ殊ニ上長トシテ頗ル謹嚴下僚ノ常ニ畏縮スル所加フルニ傍ニ理論家タル西村土木部長ノ在ルアリ稻見組合長苦心ノ提案ニシテ一朝論破シ去ラレンカ實ニ組合ノ運命茲ニ決シテ前途殆ント絶望セサルヘカラサルニ至ル幸ニシテ長官ノ深ク組合ニ同情スルアリ西村部長ヲシテ國費豫算ノ許ス限リ工費ノ約四分ノ一ヲ補助スルノ案ヲ立テシメ尙ホ命令變更ノ穩當ナラサルヨリ組合自體變更ノ形式ヲ採ルヘキヲ以テセリ組合長亦長官ニ答フルニ補助ハ増加額ノ全體ニアラサルモ總工費ノ四分一ノ補助ヲ決定セラレ又組合ヨリスルモ將來水量ヲ安全ナラシムルノミナラス四千町歩ヲ五千町歩トスルノ利益アルコトナレハ其旨組合會ニ提議シ圓滿ニ結局スヘキヲ以テシ組合復活ノ一大難問ハ豁然解決ノ端ヲ啓クニ至レリ時ニ四月二十六日ニシテ長官ノ薨去前僅カニ二日ナリキ長官ノ死期目前ニ迫リテ此一英斷ヲ下シタルハ本組合ノ今日アルヲ致セル所以ニシテ實ニ故河島長官ノ賜ト云フヘク又之ト相終始シテ其間西村主務部長ノ同情斡旋ニ基因スルモノ尠シトセス組合員タルモノ亦永ク感銘記念セサルヘカラサルナリ(補助ニ就テハ國庫ノ補助ノ部ニ

(記七)斯クシテ茲ニ事業執行ノ前途漸ク曙光ヲ認メ設計亦既ニ完成ヲ告ケタリト雖モ巨額ノ工事ニシテ組合ノ利害休戚ニ多大ノ影響アルヘキヲ思ヒ未タ道廳ヨリ設計ノ交付ヲ受ケサルニ先タチ特ニ組合ヨリ懇請シテ未交付間ニ内容ノ明示ヲ得經驗アル高級技術員ノ審議ヲ求メ若シ考慮スヘキ點アリトセハ該技術員ヨリ充分ナル意見ヲ提出シテ道廳ノ參考トシテ以テ設計ノ完璧ヲ期スルコトトシ在京中ノ稻見組合長ハ之カ派遣ヲ内務省ニ請ヒ同時ニ事業施行上ノ主任トシテ技能アル技術員ヲ備聘ノ人選ヲモ請フ所アリタルニ對シ幸ニ之ヲ容レ種々詮議ノ末先ツ調査ニ就テハ當時臺灣總督府在勤タリシ清水技師(後チ内務技師ニ轉ス)ヲ總督ノ承認ヲ得テ特ニ本組合ニ派遣スルコトナレリ而シテ同年五月三十日清水技師深川ニ着シ同日ヨリ翌三十一日ニ亘リ道廳上野技師、渡部技手、青木組合理事其他ト共ニ納内四丁目ノ水源豫定地ヨリ石狩川沿岸ノ狀況、關係區域ノ地質等ヲ調査シ、適當ナル水源地及水路線ノ位置等ニ對スル意見ヲ求メタルニ、同技師ノ意見ニ依レハ納内三丁目附近ノ石狩川ニ永久的工事ノ堰堤ヲ築設シ導水スル計劃ヲ試ミンコトヲ以テセラレタリ

然ルニ道廳ニ於テハ、石狩川ニ於ケル堰堤築設ヘ多額ノ工費ヲ要シ且危險ノ伴フ虞アルニヨリ當初ヨリ成ル可ク之ヲ避クルノ方針ヲ採リ來リシノミナラス、水源地ヲ下流ニ變更スルハ勢ヒ水路施工面ノ低下ヲ來シ、爲メニ組合域内ニ於テ灌漑不可能トナルヘキ箇所ヲ生スルニ至ルヘキヲ以テ、同シク水



源地ヲ變更スルモノトセハ測量調査當時ノ比較線取入口タル國見峠上流對岸ニ選定スルノ有利ナルニ如カサルモノトシ、清水技師ノ意見ハ一應ノ參考ニ止ムルコトトセリ

道廳ニ於テハ新タニ上野技師ヲ主任トシ、當初ノ方針ニ從ヒ同年七月再ヒ比較調査ニ着手シ、翌明治四十五年三月ニ至リ其ノ設計ヲ終ヘタリ、此ノ間月ヲ閱スルコト僅カニ九ヶ月ニシテ能ク大工事ノ首隔タル設計ノ全部ヲ完成セシ道廳主任技師及調査員諸氏ノ努力又察スルニ餘リアリタリト云フヘシ

斯クテ同年五月下旬ニ至リ道廳土木部技師會議ノ審査ヲ經テ愈々設計ノ確定ヲ見同年六月三日變更設計書及圖面ノ交付ヲ受ケタルナリ(計劃概要ハ第一期工事ノ部ニアリ)尙ホ設計書交付ニ際シ土木部長ノ發セシ通牒左ノ如シ(本通牒ハ國庫ノ補助ニ關シ係アルヲ以テ特ニ掲出)

土庶第一五八一號

土功組合灌溉工事設計ニ關スル件

明治四十三年四月二日付深土第一四六號ヲ以テ認可申請ニ係ル土功組合灌溉溝工事ハ雨龍川ヨリ分水スルノ設計ニ有之候處右ハ別冊計劃ノ如ク石狩川ヨリ引水スル設計ニ改ムルヲ適當ト被認候條右ニ變更方御取計相成度依命此段及通牒候也

追テ右起工認可申請ノ際ハ別紙一般平面圖ニ記入ノ灌溉區域ヨリ風防林、道路敷地、堤防敷地等ノ官有地ヲ除キタル境界線ヲ記入ノ上提出セシメラレ度尙本件工事施行ニ付テハ申請ニ依リ追テ豫算ノ許ス限リ總工費ノ約四分ノ一以内ノ補助ヲ爲ス見込ニ有之候尤モ豫算成立セス若クハ豫算成立前其ノ竣功ヲ告ケタル場合ハ補助額ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘキ旨御示達相成度併テ此段及通牒候也

明治四十五年六月三日

土木部長事務官西村保吉

空知支廳長稻見貞藏殿

斯クテ明治四十五年六月十六日岩見澤町空知教育會圖書館ニ於テ議員會ヲ開キ設計其他ニ關スル諸問ヲ爲セシカ當日特ニ道廳ニ請ヒテ上野技師ノ臨席説明ヲ求ム同技師ノ取入口ニ關スル説明ニ依レハ「取入口ハ一已九丁目先石狩川ニシテ引水口ノ上下流各五十間ハ河流ノ變動ヲ防ク爲メ護岸工事ヲ施シ其附近河岸一帶洪水ノ虞アルヲ以テ約三十間ノ堤防ヲ築キ堤防ニ達スルマテ百二十間ノ間ハ水路ヲ隧道トシ又放水路ヲ設ケテ不用ノ水ヲ棄テ水路ヲ横斷スル「ニユースベツ」川ハ「コンクリート」ノ掛樋「オサナンケツブ」川ハ「コンクリート」ノ暗渠ヲ以テ水路ノ上ヲ通シ上川鐵道ニハ鐵橋ヲ架シ



其下ヲ水路トシ留前鐵道ハ「サイホン」ヲ以テ通水シ終リニ「メム」川ニ放水ス云々」トアリ異議ナク設計ヲ是認セリ次テ同月二十三日深川村菊水尋常高等小學校内ニ組合總會ヲ開キタルニ組合員五百三十名ノ内出席者三百五十六名ニシテ上野技師再ヒ臨席説明ノ任ニ當リ瞬時ニシテ滿場一致ノ可決トナリ同年七月二日設計變更ノ認可ヲ道廳長官ニ申請セシカ超エテ八月二日北海道廳指令第二一三號ヲ以テ認可ヲ得ルニ至リシナリ是ヨリ先キ内務省ニ懇請セシ組合主任技師ニ就テハ同省技師近藤博士并ニ農商務省木下技師ニ於テ人撰中ナリシカ爾來專ラ近藤技師斡旋シ數次組合ト交渉ヲ重ネテ同年七月八日工學士友成伸氏ヲ聘スルコトトシ同月二十六日同技師ノ着任ヲ見タリ

### 第五節 區域變更

水源ノ變更ニ伴ヒ從テ區域ノ變更ヲ生セシヲ以テ前掲明治四十五年六月二十三日ノ總會ニ於テ設計變更ノ議ヲ決スルト共ニ區域ヲ左ノ如ク變更セリ

東ハ鶯橋ヨリ直線ニ一已村零通三丁目ニ至リ一番通ニ出テ二番通四丁目五丁目六丁目三番通六丁目八丁目七番通八丁目ヲ經テ直線ニ石狩川ニ達ス西ハ雨龍川ヲ以テ界トニ南ハ雨龍川ト石狩川トノ落合ヨリ石狩川ニ沿ツテ遡リ深川村メニ四號線ヲ川二線ニ至リ夫レヨリ六號線ニ出テ川四線ニ至リ七

號線川四線八號線川四線九號川四線川三線川一線及十號川一線十一號川一線ヲ徑テ深川市街地ノ西側ヨリ其北方ニ出テ山一線ト深川市街地トノ間ヲ山一線ニ並行シテ深川村一已村ノ村界ニ至リ同村界ヲ石狩川ニ出テ同川ニ沿フテ一已村八丁目ニ至ル北ハ鶯橋ヨリ深川村一已村ノ村界ヲ大鳳川ニ出テ同川ニ沿フテ雨龍川ニ至ル

但一已村二千九百七十八番、三千二百二十五番、深川村畑百六十五番ノ一、百六十五番ノ二、百六十五番ノ三、三百六十八番、百六十九番、百七十一番、百七十三番、百七十五番、百七十六番ノ一、百六十六番ノ二、百七十六番ノ三、百七十七番、二百五十八番ノ二、二百五十九番ノ二、妹背牛市街地、高丘地、宅地、官有地、國有地、池沼、道路及堤塘等ハ之ヲ除ク

區域ノ變更ニ伴ヒ規約モ亦改訂ヲ要スルモノアリ明治四十五年六月二十三日總會ノ終了ヲ待チテ直ニ議員會ヲ開キ規約ノ改正ヲ附議シ是亦原案ニ決シテ同月二十八日區域ノ變更認可ト共ニ道廳ヘ申請シ何レモ同年七月十二日認可ノ指令ニ接セリ(改正規約ハ其後農務部ノ訂正アリ規約及規程ノ部ニ該規程ト共ニ掲ク)斯ノ如ク本組合ハ水源ヲ石狩川ニ變更シテヨリ設計ノ變更ニ區域ノ變更ニ或ハ規約ノ改正等着々其手續ヲ了シテ事業ノ進捗ヲ計リシト雖モ之カ爲メ最モ影響ヲ及ホセシハ大鳳川以北ノ地ニ對スル除外問題ナリトス是レ該地區組合員ノ頗ル苦痛トセシ所稻見組合長ハ深ク之ヲ遺憾トシ空知支廳長トシテ秩父別村土切組合創立發起



人并大鳳川以北ノ有志ノ會合ヲ求メ(同年六月十日)同組合ノ成立ヲ期トシテ大鳳川以北ヲ該區域ニ加入セシムルコトトセリ而シテ同年八月十日日本組合カ設計變更ノ認可ヲ受ケタル日秩父別土功組合ノ設置アリタルヲ以テ相互ニ水田ノ懇成ヲ企テ得タルハ組合事業進行ノ爲メ將又該地方ノ開發上極メテ幸慶事タルナリ

## 第八章 財政ノ計劃

本組合ハ初メ道廳ノ交付セル雨龍川導水ノ設計ニ基キ工事費ノ繼續年期及支出方法ヲ定メタルカ當時ノ總額金三十七萬餘圓ニ對シ三ヶ年度ニ分割支出セントスルモノニシテ即チ左ノ如シ。

一、本工事費ハ明治四十三年度ヨリ同四十五年度マテ繼續事業トシテ之ヲ支出スルモノトス其金額左ノ如シ  
 一金三十七萬五千二百三十六圓二十七錢五厘

内

金十四萬五千二百四十五圓四十一錢一厘	明治四十三年度支出額
金十七萬六千六百六十五圓六十六錢九厘	明治四十四年度支出額
金五萬三千八百二十五圓十九錢五厘	明治四十五年度支出額

右ハ本組合ノ企劃スル四千町歩ノ水田灌漑工事ニ要スル總工費ニシテ其事業ハ到底一年度内ニ完成スル克ハサルヲ以テ前記ノ通其工費ヲ三ヶ年度ニ涉リ之ヲ繼續費トシテ支出セントス

又組合借入及償還方法並利息ノ定率ニ關シテハ左ノ通り定ム

第一條 本組合ノ事業ニ要スル水田灌漑工事費ハ一時ニ組合會員ノ負擔ニ堪ヘサルヲ以テ借入金ニ依リ之ヲ支辨スルモノトス  
 第二條 前條ノ借入金額及其ノ借入償還ノ方法利息ノ定率等左ノ如シ  
 一借入金三十三萬九千圓

内



金十三萬二千二百圓  
金十五萬八千六百圓  
金四萬八千二百圓

明治四十三年度ニ於テ借入  
明治四十四年度ニ於テ借入  
明治四十五年度ニ於テ借入

二借入方法 銀行 其他

三償還方法 明治四十七年度ヨリ二十ヶ年賦トシ毎年一定ノ金額ヲ以テ償還スルモノトス但シ組合財政ノ都合ニ依リ償還年額ヲ増加シ所定ノ年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得

四利息ノ定率 年八分以内

第三條 借入金ノ償還ハ元利共組合員ニ賦課スルモノトス

如上總費額ノ内工事費金三十三萬餘圓ハ之カ年度別所要額ヲ起債ニ求メ其他ノ組合費ハ賦課ニ依リテ支辨シ尙ホ工事費ニ對シ十分ノ一ノ地方費補助ヲモ見込シモノ實ニ組合當初ノ財政計劃ナリトス後テ設計ノ變更ニ伴ヒ工事費ノ増加ヲ來スト共ニ殆ント其差額ニ相當スル國庫補助ヲ仰キタルモ事業ヲ繼續年度別トシ起債モ所要額ヲ年度別ニ銀行ニ求メテ漸次低利借換ニ出テタル等總テ此最初ノ計劃ニ倣ヒシナリ即チ大正元年度ニ於テ定メタル新設計ニ基ク財政計劃ヲ示セハ左ノ如シ

内

總 工 事 費

金一萬六千七百五十五圓

大正元年度支出額

金二十五萬五千八百七十九圓  
金二十四萬一千四百八十三圓  
金三萬六千六百九十七圓

大正二年度支出額  
大正三年度支出額  
大正四年度支出額

右ハ工事ヲ四ヶ年ノ繼續事業トシタルモノニシテ内國庫補助金十三萬五千八百四十三圓ヲ見込ミ起

債方法ヲ左ノ如ク決定セリ

(大正元年九月十八日)  
議決會ニ於テ議決)

一起債金額 四十一萬五千九百七十一圓

一起債ノ目的 組合灌漑水路ノ施設及之ニ伴フ工事費等ニ充ツル爲メ

一利息ノ定率 年 七 分

一借入先 株式會社北海道拓殖銀行

一借入時期 借入金額ハ左ノ四期ニ分チ大正元年度ヨリ大正四年度ニ至ル四ヶ年度ニ於テ之ヲ借入ル、モノトス但シ每期ノ借入期日ハ銀行ト協定ス

(イ) 第一期 大正元年度金一萬五千四百二十六圓二十五錢

(ロ) 第二期 大正二年度金十九萬一千九百九圓二十五錢

(ハ) 第三期 大正三年度金十八萬一千百十二圓二十五錢



(ニ) 第四期 大正四年度金二萬七千五百二十三圓二十五錢

一 据置期間

- (イ) 第一期 借入金借入ノ月日ヨリ大正四年三月マテ
- (ロ) 第二期 借入金借入ノ月日ヨリ大正五年三月マテ
- (ハ) 第三期 借入金借入ノ月日ヨリ大正六年三月マテ
- (ニ) 第四期 借入金借入ノ月日ヨリ大正七年三月マテ

一 償還期限 左ノ區別ニ依リ償還スルモノニシテ別紙償還年次表(略ス)ノ通但シ毎年度ノ償還期月ハ銀行ト協定ス

- (イ) 第一期 借入金(自大正三年度至大正三十四年度)二十八ヶ年賦
- (ロ) 第二期 借入金(自大正三十四年度至大正三十五年)二十八ヶ年賦
- (ハ) 第三期 借入金(自大正三十五年至大正三十六年)二十八ヶ年賦
- (ニ) 第四期 借入金(自大正三十六年度至大正三十四年度)二十八ヶ年賦

組合財政ノ都合ニ依リ線上償還ヲ爲シ償還年限ヲ短縮シ又ハ低利債ニ借替ヲ爲スコトヲ得  
一 償還財源 反別割

道廳ハ右ノ起債認可ニ際シ(大正元年九月三十日)金一千圓ヲ減シタルヲ以テ總額及第一期借入金各一千圓ノ減額トナル面シテ元金及利息ノ償還財源トシテ段別割ヲ充當シ各年度ニ於ケル賦課反別及金額並ニ課率ヲ左ノ如ク豫定セリ

年 度	賦 課 反 別	賦 課 率 一 反 步 當	賦 課 金 額
大 正 元 年 度	五、〇〇〇	四、〇一三	六二九
同 二 年 度	五、〇〇〇	二、九一	一四、五一三
同 三 年 度	五、〇〇〇	五、四八	二七、三八二
同 四 年 度	五、〇〇〇	六、三四	三一、六八七
同 五 年 度	五、〇〇〇	六、七九	三三、九三一
同 六 年 度	五、〇〇〇	六、八六	三四、二七二
同 七 年 度	五、〇〇〇	六、八六	三四、二七一
同 八 年 度	五、〇〇〇	六、六一	三三、〇〇一
同 九 年 度	五、〇〇〇	三、四四	一七、一八九
同 十 年 度	五、〇〇〇	〇、四六	二、二六八



尙ホ財源ニ缺陷ヲ生シタル場合ノ經理方法トシテ稻見組合長ヨリ山田内務部長へ提出シタル書面左ノ如シ

(大正元年九月二十一日付)

本組合工事ハ大正元年度ヨリ大正四年度ニ至ル四ケ年度ニ亘リ施行スルモノニシテ其工事費總額ハ五十五萬餘圓ノ巨額ヲ要スルモノニ有之候而シテ之カ財源ハ國庫補助金十三萬餘圓及組合債四十一萬餘圓ヲ以テ之ニ充ツル計劃ニ有之候得共萬一組合工事ノ繼續年期内ニ右補助金ノ交付ヲ受クルコト能ハサルカ如キコト有之候トキハ忽チ其工事費財源ニ一大缺陷ヲ來スヘキ筋ニ付斯カル場合ニ達着スルコトアルトキハ不得已之カ財源缺陷ニ對スル補填ノ方法トシテ豫定ノ補助金ニ相當スル金額ヲ再ヒ起債ニ依リ經理スルノ外他ニ何等途ナキモノニ有之候

トアリ然レハ後日工事ノ繼續年期内ニ國庫補助金ノ交付ナキ爲メ北海道拓殖銀行ヨリ特ニ補充借入トシテ起債スルニ至ル以上ハ組合當初ノ計劃ニ依據シテ第一期工事費ノ支辨方法ヲ定メタルモノナルカ更ニ第二期工事費モ之ニ則リテ起債及償還方法ヲ定メ工事費以外ノ組合費ハ是亦反別割ヲ以テ支辨セサルヘカラサルヲ以テ右ニ豫定セル第一期工事費ノ課率ノ外第二期工事費ノ元利金及補充借入金ノ利子(元金ハ國庫補助ア)並ニ組合費ニ充ツル等反別割賦課ノ増率アルコト勿論ナリトス(第二期工事費實際ノ起債額各年度ノ徴收額等ハ便宜各節ニ掲ク)

## 第九章 國庫ノ補助

### 第一節 補助決定

本組合ノ事業ニ對スル國庫ノ補助ハ明治四十四年六月二十六日河島長官ノ決裁ニ基クモノニシテ初メ組合ノ工事ヲ起サントスルヤ其財源ハ勿論幾分ノ補助ヲ見込シト雖モ主トシテ起債ニ依リ工費ヲ支辨シ漸次賦課徴收シテ年賦償還ノ方法ヲ取ラントセリ然ルニ計劃ノ變更ニ伴ヒテ著シク工費ノ増加ヲ來シ(起工ノ沿革ノ部参照)到底當初ノ財政計劃ヲ以テ事業ノ遂行ヲ期スル能ハサルヨリ其差額(約二十萬圓ヲ超ユ)ノ補填ヲ講セントシ遽カニ組合長ノ上京陳情トナリ幸ニ在京長官ノ内定ヲ得ルニ至リシナリ當時長官ハ他ニ差額補充ノ途ナキヲ以テ國費豫算ノ許ス限リ工事費約四分ノ一(第一期確定工事費ノ四分ノ一ハ金十三萬五千八百四十三圓トナル)ノ標準ニテ補助セントシタルモノニシテ西村土木部長其案ヲ具シ長官ノ決裁ヲ仰キテ之ヲ時ノ土木部長代理タリシ道應岡理事官ニ送付セシ趣ナルヲ經營案ノ前途自然增收ナルモノ、嵩否未タ明確ナラス何等補助等ノ定マルナキニ際シ突如本組合ノ補助ノミヲ決定セシハ全ク異例タラスンハアラス而シテ決裁書ノ道應ニ到達シタルノ時ハ河島長官薨去ノ後ナリ故ヲ以テ該補助ニ就テハ穩當ナラストテ非議サレタル



ヤニ傳ヘラレ或ハ決裁書ハ何等效力ナキモノトシテ取扱ハレタルヤニ聞エシト雖モ兎モ角此決裁書ハ暗憚タル組合事業ニ一道ノ光明ヲ與ヘ物議ヲ醸セシ丈組合ニ取リテ有益ナル證據タリキ惜ムラクハ後日其書類ノ有無スラ確ムルニ由ナク後任石原長官ニ數次事情ヲ詳陳スルニ當リ西村部長ノ在ルアリテ既往ノ經過ヲ證明スルヲ得タリシト雖モ往々ニシテ「深川土功組合ニ對シテ河島長官ハ補助ノ決定ヲ與ヘタリト云フモ何等法規ニ準據シタルニアラス若シ未來ノ義務ヲ負擔スルモノナル以上ハ義務負擔ノ形式ニ依リテ議會ノ議決ヲ要スヘキニ單ニ組合長タル支應長ニ決定ヲ與ヘタルカ如キハ一ノ反古同様ノモノナリ」トハ道廳一部ノ唱フル所ニシテ之カ爲メ決定ヲ受クルヲ得サリシコト久シカリシヲ以テ顧問東武、理事内田壽、同青木利一等道廳ニ迫リテ專ラ決裁書ノ效力ヲ維持スルニ努ム當時設計既ニ成リ公表ノ期近ツクト雖モ補助ノ決定ヲ見ルニ至ラスシテ企劃遂行ノ目途立タス組合ノ苦慮焦心措ク能ハサル所ナリシカ石原長官深ク組合ノ沿革ニ考ヘ一面本道唯一ノ事業ニシテ拓殖ノ進展ニ資スル顯著ナルヘキヲ察シ經營案實行ノ年度間ニ於テ改良費ノ幾部ヲ割キ總工費ノ四分ノ一以內ノ補助ヲ與フヘキ内議ヲ決定シ諸般ノ難件ヲ一掃シテ明治四十五年六月三日設計ノ交付ト共ニ組合長タル支應長ニ之カ通牒(起工ノ沿革ノ部ニアリ)ヲ發スルニ至ル是レ實ニ石原長官ノ果斷ノ然ラシメシモノニシテ茲ニ組合事業ノ確定ヲ見タルハ組合員ノ永ク記念シテ忘ルル能ハサル所ナリトス爾後ノ國庫ノ補助ニ關スル道廳

ヨリノ通牒並ニ組合ノ伺等ハ次節(往復書ノ類ノ部)ニ於テ其大體ヲ知ルヲ得ヘシト雖モ書類以外ノ經過ヲ略記スレハ其後政變相次テ起リ爲ニ國費豫算ノ不成立トナリ容易ニ補助ヲ受クルニ至ラサリシヲ以テ大正二年ニ入り十一月十七日青木理事ハ評議員柳町靜一郎ト共ニ上京シテ東顧問(議會出席ノ爲メ在京)ト協議スル所アリ翌十八日中村長官ニ陳情セシニ長官ハ「直ニ内務省ニ交渉スヘク道廳トシテハ豫算ニ繰込ムヘキモ若シ不成立ノ場合ハ一年間延期セサルヘカラス尙ホ西村部長トモ協議セヨ」トノ事故越エテ十九日西村部長ニ縷々具情シ再ヒ中村長官ニ請フテ補助ノ承諾ヲ得同月二十三日歸途ニ就ケリ當時中村長官ハ東顧問ノ滯京スルアリ態々組合員カ費用ヲ投シテ出京スルニ及ハスト諭シタルニ對シ青木理事ハ未タ組合費ヲ利用シテ上京シタルコトナク一切自辨ノ上組合ノ爲メ奔走シ居タル旨ヲ述ヘ一座洪笑セシト又一佳話タルヲ失ハス斯クシテ中村長官ハ拓殖費二百五十萬圓ノ外十數萬圓ノ増加割當額アリシヲ幸ヒ本組合補助費ヲ増加額ノ内ニ繰込シカ豫算ノ不成立トナリテ目的ヲ達スル能ハス西久保長官時代ニ至リ復々豫算ノ成立ヲ見スシテ已ミキ最モ二百五十萬圓ノ既定拓殖費アリト雖モ所謂殆ント既定ノ費途ニシテ土地改良費ノ新設科目ヲ編入スルノ餘地ナキヲ以テ結局豫算不成立ノ影響ヲモ受ケサラシメントシ既定額ニ補助金ノ組入ヲ懇請セシニ西久保長官モ同情シテ「如何ナル繰合ヲシテモ既定額内ノ支出トシ決シテ豫算不成立ノ影響ヲ及ホサシメサルヘシ」ト明言スルニ至リ次テ現儀長官ハ「假令



道應ニ於テ決定シタル河島長官ノ決定カ其手續違法ナリシニセヨ一旦約束シタル以上ハ速ニ支出スルハ義務ナリト明晰ナル論斷ヲ下シテ本年度(大正五年度)ノ豫算ニ計上シタルハ近ク第一回分トシテ始メテ幾分補助金ノ交付ヲ見ントスルニ至レリ尙ホ補助金ノ缺陷補充借入ニ際シ之カ償還ヲ補助ノ年度別ニ依リテ其額ヲ定メ以テ補助ノ確實ヲ期シタルカ如キハ起債ノ部ニ於テ記スル所アルヘシ

### 第二節 往復書類

明治四十五年六月三日設計書ノ交附ニ際シ西村土木部長ノ發シタル通牒(本文ハ設計變更ニ關スルモノ)ノ中其追書ニ國庫補助ニ關スル件アリタルモ疑義ニ亘ルヲ以テ同月七日稻見組合長ヨリ左ノ照會ヲ爲セリ

本月三日付土庶第一五八一號ヲ以テ深川土功組合灌漑溝設計變更ノ義ニ付キ御通牒ノ趣了承右變更ニ付キテハ其區域ニ於テ獨リ多大ノ増減ヲ來シ候ノミナラス水源地ニ於テモ全然變更ヲナサシムヘキモノニ候得者其ノ實質ニ於テハ寧ロ組合ノ新設ニ屬スヘキ次第ト存候就テハ不日組合總會ヲ開キ區域變更等夫々議決致スヘキ見込ニ候得共之カ可否評決ニ關シテハ結局工費額ニ伴フ負擔額ハ之カ問題ニ屬スヘクト存候併シ此點ニ付テハ幸ヒ御通牒ニ依リ將來ニ於テ工費額約四分ノ一以內補助

可相成御見込ノ旨御指示ヲ得候得者此上ハ組合員ニ於テモ異議ナク御指示ニ添フヘキ評決可致トハ存候得共該御通牒未發ニ於テ「豫算成立前其ノ竣工ヲ告ケタル場合ハ補助ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトアルヘキ云々」ト有之右ニ付キ聊カ疑義ニ涉リ候廉有之候得者近ク組合員ニ對シ御趣旨ヲ説明シ併セテ組合豫算書ノ編成ニ關シ豫メ御意見承知致置度左ニ愚見相添エ御問合セ候間至急何分ノ御回示相煩度此段及御照會候也

### 記

一、組合工事ハ約三ケ年ヲ以テ完成致度見込ニ有之候處無論杞憂トハ存候得共不幸ニシテ期間内ニ國費豫算ノ成立ヲ見ル能ハス即チ却テ組合工事ノカ完成ヲ告ケタル場合ニ在リテハ假令四年目ニ於テ經營案ニ基ク豫算額ノ成立シタリトスルモ當組合ニ對シテハ補助セラレサル事アルヘキ御趣意ニ候哉右ハ工事施行計劃上其ノ財源ニ至大ノ關係ヲ有シ候次第ニ付万一斯ル場合アリトセハ起債償還年限内ニ於テ補助ヲ與ベラルヘキ御趣旨ト解釋シ可然哉

二、補助ニ就テハ現在ノ國費豫算編成ノ關係ヨリセハ一年度ニ全額ヲ交付セラレ候場合ハ格別ニ候得共然ラサル限リハ年度毎ニ補助ノ令達可相成モノト被存候果シテ然ルトキハ組合工事ノ繼續年期ノ半即チ四十七年度ニ於テ幸ニ豫算成立ノ爲メ假リニ五萬圓ノ補助ヲ受クルニ至ルモ次年度即チ四



十八年度ニ於テ豫算成立ニ至ラス組合工事ハ該年度ヲ以テ完成ヲ告ケタリトセハ遂ニ補助額ノ一部支給セサルコトアルヘシトノ適用ヲ受クル御趣旨ニ候哉是又前項同様組合ノ財政上ニ容易ナラサル關係ヲ生スヘキ次第ト存候

三、補助ニ付テハ各年度ニ於テ御決定令達ヲ與ヘラレ候ト存候得者恰モ各年度各別ニ組合工事ノ支出額ト其ノ年度割成功程度ヲ査定セラル、ニアラサルカノ懸念モ有之候旨當組合工事ニ付テハ繼續年期間ヲ通シ最後ノ年度ニ於テ其ノ竣功ヲ調査セラルヘキ御趣旨ト解シ可然哉尙ホ此等ノ點ニ付テハ何等カ規則ニ於テ御規定可相成御見込ニ候哉

四、補助ハ豫算ノ關係上年度各別ニ令達可相成ハ當然ノ筋ト存候得共本件ノ如キ工事ニアリテハ特ニ繼續年期支出總額ニ對シ補助御決定ノ當初ニ該補助金額ノ御示達ヲ得ル能ハサルモノニ候哉將又不日何等カノ便宜方法ニ依リ組合ニ於テ右ニ基ク財政ニ關シテハ懸念ヲ要セサル程度ニ規程等ノ御制定可相成御見込ニ候哉

五、組合工事費ハ其ノ大部分之ヲ起債ニ求ムルノ計劃ニ有之而シテ該起債額ハ所要額ヨリ今回補助御通牒ニ基ク準率ノ金額ヲ控除シ其ノ餘ノ額ヲ目的トシテ起債致度見込ニ候得者右ニ關シ後日豫算ヲ編成シ別ニ起債認可提出ノ節ハ其ノ年度補助交付ノ成否ハ未定ナルヘキモ御通牒ニ基ク範圍内金額ノ歳入掲上ニ付テハ貴部ニ於テハ御異議ナク認可ヲ與ヘラルノ筋ト解シ可然哉

右ニ對シ同月十六日西村土木部長ノ回答左ノ如シ

本月七日付ヲ以テ土功組合灌漑工事國庫補助ノ件ニ付疑義ノ點御申越相成候處右ハ左記ノ通御了知相成度此段及御回答候也

記

- 一、補助費豫算成立年度ノ前年度迄ニ工事全部完成シタルトキハ前段御見込ノ通ト存候
- 二、繼續事業完成前補助豫算成立シタル場合ニ於テ當該年度ノ豫算カ補助スヘキ金額ノ全部ヲ充スニ足ラサルトキハ爾後豫算ノ成立シタル各年度ニ於テ其ノ殘額ヲ漸次支給スルコトアルヘキ見込ニ有之候
- 三、工事ノ査定ハ部分檢定ヲ要スル場合ノ外工事竣功ノ際之ヲ行フヘク補助ニ付テハ前項ニ依リ御了解相成度候
- 四、補助ノ場合ハ各年度ニ於テ補助シ得ヘキ金額ニ付各年度別ニ指令相成ルヘキ見込ニ有之候
- 五、御申越ノ通ニテ可然存候得共國庫補助金ハ各年度ニ於テ組合希望ノ如ク交付セラルヘキヤ否ヤハ今日ノ場合尙未定ナルヲ以テ起債認可申請ノ場合ハ豫期ノ補助ヲ交付セラレサルトキハ之ニ該當



スヘキ金額ハ再ヒ起債ニ依リ經理スヘキ旨添屬書類ニ記載セラレ度候  
次ニ大正二年十二月二十二日政府財政ノ都合ニ依リ大正二年度ニ於テ補助金交付相成難キ旨橋本土木部長ヨリ左ノ通牒アリタリ

去ル明治四十五年六月三日付土木庶第一五八一號ヲ以テ雨龍郡深川土功組合ノ經營スル水田灌漑工事費ニ對シ追テ豫算ノ容ルス限リ總工費ノ約四分ノ一以内ノ補助ヲ爲ス見込ナル旨及通牒置候處政府財政ノ都合ニ依リ本年度ニ於テ下付スルコト不可能ニ有之候ニ付該補助金ニ關スル今後ノ處理方法ハ左ノ如ク取計フ事ニ廳議決定致候條右御含置相成度依命此段及通牒候也

第一、大正三年度拓殖費豫算案ハ既ニ主務省ニ進達濟ナルモ若シ今后ニ於テ幾分ニテモ總額ヲ増スコトヲ得ルトセハ本件補助金ノ一部ヲ計上スルコト

第二、若シ又大正三年度豫算案ニ増額ヲ爲スコト能ハストセハ大正四年度拓殖費豫算編成ノ際ハ必ス本件補助金ノ幾部ヲ計上スルコト

次ニ大正四年一月二十二日稻見組會長カ橋本土木部長トノ往復書類ヲ添ニ組會議員ニ發シタルモノヲ掲クレハ左ノ如シ

當組合灌漑溝開鑿工事費ニ對スル國庫補助ノ義ニ就テハ先年特ニ御通報致候如ク起工ノ當初之カ

補助ノ内議ヲ受ケ候得共爾來政府財政ノ都合ニ依リ屢々請願ヲ重ヌルニ拘ラス一金ノ受付ヲ受クルニ至ラス候處漸ク大正三年度ニ至リ土木部長ノ通牒ヲ以テ來ル四年度ノ國庫豫算ニハ必ス幾分ノ補助金ヲ掲上シテ之カ支出ヲ爲スヘキ旨ノ内定ヲ得候得者少クモ明年度ニ於テハ交付ヲ受クルコトヲ得ヘク期待致候折柄時局ノ影響ヲ受ケ遂ニ大正四年度ニアリテモ其ノ交付ヲ受クルコト能ハサル實情ニ接シ候事極メテ遺憾ノ至リニ存候右ニ關シ先般諸君ノ御希望モ有之候ニ付今回別紙甲號ノ書面ヲ提出シテ特ニ長官ノ御承認ヲ受ケ乙號ノ回答ヲ得候間御承知相成度最モ各年度支出額ノ見込ニ至リテハ何分公書ヲ以テ回答致兼ヌル趣ナルモ畧前協議ノ如ク三ケ年ニ割當テ組合ノ財政計劃ヲ立ツルモ異議無之國庫豫算編成ニモ可成其ノ目的ヲ以テ掲上方取計フヘシトノ事ニ有之候間是亦承知相成度爲念此段御通知候也

(別 紙)

甲號 (大正三年十一月二十八日深土甲第七七〇號ヲ以テ)  
稻見組會長ヨリ橋本土木部長ヘ照會シタルモノ

當應管理ニ屬スル深川土功組合灌漑溝開鑿工事國庫補助ノ義ニ關シテハ去ル四十四年施行ノ當時夫御内議ヲ得更ニ四十五年六月三日付土木庶第一五八一號及同月十六日付土木庶第一五八一號ヲ以テ補助可相成旨ノ御内牒ヲ得テ組合員一同ハ深ク安堵致シ爾來工事ニ着手スルコト茲ニ三年今ヤ將ニ其



大半ヲ了ヘ明年度ヲ以テ之カ完成ニ近ツキ候得共、國庫補助金ニ至リテハ元ヨリ政府財政ノ御都合上止ムヲ得サル義トハ承知罷在候共、今尙ホ一金ノ御補助ヲ受クルニ至ラス而カモ客年十二月十二日工祕發第一三〇號ヲ以テ大正三年度ニ於テ拓殖費豫算ニ幾分ニテモ増額スルコトヲ得ハ本件補助金ノ一部ヲ計上スヘク若シ大正三年度ニ増額ヲ爲スコト能ハストセハ大正四年度ニハ必ス本件補助金ノ幾分ヲ計上スヘシトノ御内牒ヲ受ケタルヲ以テ組合員一同ハ其ノ御詮議ニ感涙スルト共ニ遅クモ大正四年度ニ於テハ其ノ幾分タリトモ御補助ヲ仰クコトヲ得ヘシトノ確信罷在候ニ拘ラス仄ニ承レハ大正四年度ニ於テモ遂ニ其ノ御交付ヲ受クルコト能ハサル哉ノ趣茲ニ於テ組合員ハ全ク危惧ノ念ニ覆ハレ昨日ノ喜悅ハ一層今日ノ悲觀ヲ來シ日夕集會ヲ催シテ之カ補助金ノ前途ヲ懸念致居候事情ニ有之候而シテ一面工事ノ進行ハ已ニ其ノ三分ノ二ヲ了リタルノ實況ナルヲ以テ之カ工事費ニアリテハ當初起債ニ需メタルノ額ハ支拂ヲ了シテ殆ント殘額ヲ有セス從ツテ今後ノ支拂額ハ之カ補助金タル十三萬五千圓ノ收入ヲ以テ其ノ支辨ニ充當セサルヲ得サルモ該補助金ハ前述ノ如クナレハ此上ハ更ニ補助金ノ收入ヲ財源トシテ新債ニ依ラサルヘカラサルノ事情ニ遭遇致候就テハ此際彼是組合員ニ慰撫ヲ與ヘ併セテ將來ニ關スル財政計劃ヲ立ツルノ必要有之候義ニ付今後該補助金ニ關スル御處理ノ内容即チ交付可相成年度及金額等御示ノ御詮議相成候様致度尙ホ起債ニ關シテモ豫メ償還財源

タル金額ヲ確定シテ夫々交渉ヲ要スル次第ニ候得者是亦歩合ヲ工費四分ノ一ト限定シ即チ十三萬五千圓ノ豫定ヲ以テ新債ノ成立ヲ企圖致候事差支無之候哉御經伺ノ上何分ノ御回示相煩度此段車ネテ及御照會候也

乙號(大正三年十二月二日土工第九六八號ヲ以テ橋本土木部長ヨリ稻見組合長ヘノ回答)

客月二十八日付深土第七七〇號ヲ以テ國庫補助金交付ノ件ニ關シ申出有之候處政府ノ財政ノ都合上明年度ニ於テモ下付スルコト不可能ニ候間本件ニ就テハ左記ノ通り了知相成度依命此段及回答候也

記

第一、補助ノ歩合ハ總工費ノ四分ノ一トス

第二、大正五年度ノ豫算ニ必ス本件補助金ノ幾分ヲ計上スルコト



## 第十章 起債及償還

## 第一節 總工事費

本組合ノ工事費借入ニ就テハ當初政府ノ低利資金ヲ仰クノ說アリシト雖モ翻テ思フニ此一大設計ヲ政府ニ提出シテ其審査ヲ請ヒ之カ資金借入ノ決定ヲ受クルニ至ルマテハ優ニ一二年ノ時日ヲ經過セサルヘカラサルノミナラス假ニ資金ヲ得ルコト容易ナリトスルモ同資金ハ二十ヶ年賦ヲ局限トスヘキ取扱ナレハ斯テハ組合ノ負擔亦償還年度ノ始メヨリ重キヲ加フルモノアルヲ以テ先ツ年限期間ノ長キ銀行ノ借入ヲ爲シ工事完了ノ後ニ於テ低利資金ヲ仰クハ寧ロ事業施行ノ上ニ便利多カルヘシト茲ニ株式會社北海道拓殖銀行ヨリ借入ノコトニ決セシナリ而シテ明治四十五年七月十六日工費四十餘萬圓ノ貸出ヲ同行ニ交渉セシニ幸ニ組合ノ希望ヲ容レテ直ニ調査ニ決シ同月十八日同行囑託東北帝國大學農科大學教授坂岡工學士ノ實地見分トナリタルヲ以テ組合ヨリハ青木理事其他案内者トナリ道廳ヨリハ特ニ西村土木部長ノ承認ヲ得テ上野技師ノ出張説明ヲ請ヘリ再來數次交渉ヲ重ネ同月三十日及翌八月(大正元年)二十二日設計ニ關スル書類ノ提供トナリ同月二十八日同行貸付課長鷺見邦司ノ實地視察トナリ

テ九月二日又復關係書類ヲ送付シタルノ外稻見組合長、青木理事、囑託書記石井屬等交々道廳並ニ銀行ニ謀リテ貸出ノ進捗ヲ期セシカ同月十一日ニ至リ稻見組合長、友成技師ハ拓殖銀行頭取美濃部俊吉ト會見シ同行重役立會ノ上漸ク借入ノ内約ヲ整ヘシナリ尤モ銀行ノ希望トシテハ取入口ヲ道廳交付ノ設計ヨリ千五百間ノ上流ニ選定センコトヲ以テシ其理由トシテ「取入口附近ノ護岸工事ナキニ徵スルモ上流沿岸ノ安全ナルヲ知ル故ニ取入口ヲ上流ニ移シテ其低地ヨリ引水セハ特ニ隧道ヲ設クルノ必要ナク工事費モ節減シ得ヘシ」ト云フニアルモ取入口ノ變更ハ道廳ノ容易ニ同意スル所トナラス爲ニ貸出ノ決定ヲ遲延シテ組合事業ノ進行上ノ利益尠カラサルヲ以テ稻見組合長ハ「取入口ノ變更及之ニ伴フ隧道等ノ施設ニ關シテハ實施設計ニ際シ篤ト調査スヘク組合トシテハ安全ニシテ工費ヲ減スルヲ得ハ此上ナシ」ト調停シ双互主張ノ可否ハ後日ニ譲リ兎モ角借入ノ決定ヲ得タルモノニシテ同月十二日在京石原長官並ニ東組顧問ニ組合債内定ノ經過ヲ報シ同月十八日岩見澤町空知教育會圖書館ニ於テ議員會ヲ開キ「工事費ニ充ツル爲メ大正元年度ヨリ四ヶ年度ニ涉リ總金額四十一萬五千九百七十一圓(總工費ヨリ國庫補助金ヲ控除シタル額)ヲ年七分ヲ以テ北海道拓殖銀行ヨリ借入シ各借入ノ年ヨリ二ヶ年据置ノ二十八ヶ年賦トシ反別割ヲ財源トシテ償還スルコトヲ議決シ同月二十日起債認可ノ申請ヲ爲セシカ同月三十日北海道廳指令第一二一九號ヲ以テ起債金額四十一萬四千九百七十一圓ヲ限リ認可セラレ同時ニ内地



第一二八八號ヲ以テ内務部長ヨリ工事費中事務所建築費ノ内一千圓ヲ減少シタル旨通牒アリタリ後チ十月八日ニ至リ拓殖銀行ヨリ借入申込書ハ毎年度各別ニ所要額ニ對シ借入ノ都度差出スヘキ旨申越アリタルヲ以テ同月十二日組合ヨリ大要左ノ意味ノ照會ヲ發セリ

申越ノ如ク毎年度ニ契約成立スルモノトセハ其結果各年度ノ借入額ハ其際ニ於ケル經濟狀況ニ基ク銀行ノ都合ニ依リ其成否ハ決定セラル、モノト思考ス從テ金利ノ如キモ必スシモ年七分ニアラスシテ其以上タル場合モ豫期セサルヘカラサルコトナリ工事費ノ支辨ニ於テ偏ニ歳入ヲ財源トシテ起工スル本工事ニ於テ或ハ豫定ノ如ク各年度ニ進行セシメ得ルヤ否ヤ既ニ其財源ニ於テ未定ナリトノ事ニ歸着スヘク假ニ實行ニ於テ成ルヘク便宜ノ取扱ヲ與ヘラレ事實上差支ナシトスルモ何等カ之ニ對シ豫メ貴行ノ決定ヲ受クルニアラサレハ行政ノ監督上財源ノ不確實ナル事業ニ對シテ其施行ヲ計劃實施シタルコトトナリ又利率ニ於テモ今回ノ議決許可ノ範圍ニ於テ遂行シ得サル場合アリトセハ獨リ許可ニ違背スルノミナラス組合財政ノ計劃並ニ工事ノ豫定上ニ重大ノ關係ヲ有スル次第付何等カ便宜上解釋ヲ許サレモノニヤ若シ強テ借入ノ總金額ニ對シ此際貸付ノ契約ハ到底承諾ヲ得ル能ハストセハ假令其形式ハ公書ナリ又ハ内翰ナリトモ差支ナク要ハ明年度以降ニ於ケル貸付額等利率ニ對シ契約ノ豫約トシテ御取運相成難キモノニヤ承知致度云々

右ニ對シ十月十五日拓殖銀行ヨリ左ノ回答アリタリ

貴組合ヨリ御請求ノ灌溉工事費御借入ノ件ハ御申込通り總額金四十一萬四千九百七十一圓ヲ大正元年度ヨリ同四年度ニ至ル四期ニ分割シ各期共利率ハ年七分ノ割合ヲ以テ御融通可申上事ニ決定致候得共貸借ノ御契約ハ各年度共分割額ニ對シ公正證書ヲ以テ締結致金負御貸渡可申候間其都度申込書及公正契約ニ要スル書類毎年度ニ於ケル組合ノ收支豫算書等御差出被下度云々

次テ翌十六日銀行ノ希望ニ依リ比較圖面等ヲ送付スル共ニ大正元年度ノ借入金一萬四千四百二十六圓二十五錢ノ申込書ヲ提出シ大正二年一月十五日一切ノ手續ヲ了シテ貸借スルコトナレリ右ハ第一期工事費ニ對スル初年度ノ借入ナルカ二年度以下ハ勿論第二期工事費及國庫補助金未交付ノ爲メ缺陷補充起債モ亦拓殖銀行ヨリ借入ル、ニ至リタルモノニシテ其總額金六十九萬五千九百十四圓ニ達セリ内第一期工事費金四十一萬四千九百七十一圓第二期工事費金十四萬五千一百圓補充借入金十三萬五千八百四十三圓ナリトス年度別借入額并ニ借還期限等ヲ示セハ左ノ如シ

借入年月日	起債金額	利率	債主名	据置期間	償還期間	償還方法	財源	備考
大正二年一月十七日	一四、四三六	年七分	株式會社北海 道拓殖銀行	大正二年度	大正三十年代	二十八箇年賦	段別割	灌溉用水路ノ施設及之 ニ伴フ工事費ニ充ツ



大正二年 六月二日	一七、三〇三	七五〇	年七分	同	上	大正三年度	大正三十二年度	年二十八賦	同	上	同
大正三年 月二十六日	四、三〇三	五〇〇	年七分	同	上	大正三年度	自大正四年度	年二十八賦	同	上	同
大正三年 二月三十日	一五九、五五八	〇〇〇	年五分	同	上	大正三年度	自大正四年度	年十九賦	同	上	同
大正四年 六月三十日	七、七七一	五〇〇	年七分	同	上	大正三年三 月卅一日迄	自大正五年度	年二十八賦	同	上	同
大正四年 六月三十日	一四、八〇〇	〇〇〇	年五分	同	上	大正五年 三月迄	自大正五年度	年十八賦	同	上	同
計	四一四、九七一	〇〇〇									
大正四年 八月十一日	六、〇七三	五〇〇	年八分	株式會社北海 道拓殖銀行	上	大正五年 三月迄	自大正五年度	二個年賦	段別割及工 事費補助金	工事費補助金收入欠 陥補充ノ爲	同
大正四年 十月十二日	七、五二〇	五〇〇	年八分	同	上	大正六年 三月迄	自大正六年度	二個年賦	同	上	同
計	一三五、八四三	〇〇〇									
大正四年十 二月廿九日	四、五、一〇〇	〇〇〇	年八分	株式會社北海 道拓殖銀行	上	大正六年 三月迄	自大正六年度	年二十八賦	段別割	第二期工事費ニ充用 ノ爲	同
大正五年 三月廿三日	一〇〇、〇〇〇	〇〇〇	年八分	同	上	大正六年 三月迄	自大正六年度	年二十八賦	同	上	同
合計	六九五、九二四	〇〇〇									

第二節 補充借入

工事費ノ國庫補助ニ關シテハ國庫ノ補助ノ部ニ記セシカ組合ハ大正元年及二年ノ兩年度豫算ニ於テ國庫補助金ヲ歳入ニ掲上セシモ政府財政ノ都合上交付セラレサル爲メ歳入ニ缺陥ヲ生シテ其補充方法ヲ講セサルヘカラサルニ至レリ然レトモ之ヲ普通工事費ノ如ク北海道拓殖銀行ノ融資ニ求ムルトセハ償還期限ノ長短如何ハ何等顧慮スルノ必要ナシト雖モ道廳ヘ國庫補助金ヲ請フノ一方法トシテハ此補充借入ニ限り短期償還ニ依ルヲ得策トスヘク且他ノ工事費ハ其財源ヲ段別割トセシモ補充借入ハ財源ヲ國庫補助金トスルヲ至當ナリトス故ニ此意味ニ於テ拓殖銀行ヘ借入方ヲ照會シタルニ一時異説アリシモ結局内諾ヲ得タルヲ以テ更ニ道廳ヘ内申シテ「曩ニ補助ノ決定ヲ與ヘラレシ工事費四分ノ一ノ程度ノ金額ハ財源ヲ國庫補助金トシテ三ヶ年度ニ分割借入ノ儀承認アリタシ」ト請ヒシモ容易ニ決セザリシカ是又辛フシテ内諾ヲ受クルニ至レリ實ハ組合トシテハ國費豫算ニ補助金ノ計上ヲ熱望シタル結



果其伏線トシテ斯クセシモノニテ其額ノ如キモ初年度金五萬圓次年度金五萬圓三年度金三萬五千圓ノ合計金十三萬五千圓ヲ見込マントシ又一方組合豫算ニ計上セシ大正元年度及同二年度ノ工事費ノ内兩年度ノ補助額ニ相當スル金額ハ七萬五千圓ナリシモ實際拓殖銀行ヨリノ借入ニハ前掲總工事費ノ部ニ表示セシ如ク大正四年八月十二日金六萬七百十二圓五十錢同年十月十二日金七萬五千一百三十圓五十錢ノ合計金十三萬五千八百四十三圓ヲ補充トシテ起債セシナリ而シテ財源ハ補助金ノ外反別割ヲ加ヘ第一回分ハ大正五年度ヨリ二ヶ年賦第二回分ハ同六年度ヨリ二ヶ年賦ノ短期償還トシ何レモ其都度組合ノ議ニ付シ道廳ノ認可ヲ得タリ尙ホ大正元年度ヨリノ歳入缺陷ニ對シ大正四年度ニ至リテ借入補充シタルハ當時財界ノ趨勢カ到底當初拓殖銀行ト協定セシ七分利率ヲ以テ借入ル、コト能ハサルノ状態ナレハ成ルヘク低利ノ資金ヲ繰上ケ使用スルノ有利ナルヨリ同銀行ニ交渉シテ最初ノ借入年度割ヲ變更シ以テ七分利資金ノ補充トシ而シテ之レカ補填ノ借入ヲ最後ニ讓リタルニ因レリ

### 第三節 低利資金

工事施行ノ便宜ト組合費負擔ノ關係ヨリ當初資源ヲ銀行ノ起債ニ求メシコト前掲總工事費ノ部ニ記セシカ如シ然レトモ又附記セシ如ク事業施行ノ後ニ於テ政府ノ低利資金ニ依ラントスルハ組合ノ素志

タリシナリ故ヲ以テ組合ハ常ニ低利資金借入ノ機會ヲ待ツ、アリシニ大正三年十二月ニ入り偶々此機會ニ接スルヲ得タリ當時本道ノ凶作救済資金トシテ政府ノ融通シタル金四十萬圓ノ内金二十八萬圓ハ既ニ回收済トナリテ拓殖銀行ニアリタルナリ稻見組合長ノ其事實ヲ確メタルト恰モ同月二十五日ニシテ直ニ借入ノ交渉ヲ開始セシニ幸ニモ組合同年度ノ所要額ニ相當スル金十五萬九千五百五十八圓ハ之ヲ貸出シ得ヘシトノ内諾ヲ得更ニ同行監理官タル清應内務部長并ニ札幌稅務監督局長ノ承認ヲ經タルヲ以テ遽カニ同月二十九日議員會ヲ開キ急速起債認可ノ手續ヲ了シテ然モ歲暮ノ迫リタル同月三十日目前記ノ金額ヲ年五分三厘ノ低利ニテ借入レタルナリ尤モ此借入金タル十九ヶ年賦ナルヲ以テ從來ノ起債ニ比シ短期ナル丈ケ負擔ニ重キヲ加フルコト勿論ナリト雖モ當時ノ計算ニ依レハ假リニ七分債トシテ利子ノ總額金二十三萬八百七十六圓二十六錢ヲ要スヘキニ低利債ハ金九萬九千五百四十六圓五十七錢トナリ差引金十三萬一千三百二十九圓六十九錢ヲ利スルコト、ナリ又償還年限ノ短縮ニ伴ヒ金三百八十一圓四錢ノ増加ヲ來スヘキ計算ナレハ從テ其負擔ニ於テ組合總反別ニ割當テ一反歩金七厘六毛餘ノ加重トナルモ利子ニ於テ莫大ナル利益ヲ得ルニ對スレハ殆ント言フニ足ラサルカ如シ斯ク急速低利資金借入ノ舉ニ出テタルハ若シ年内(大正三年十二月)ニ借入レサルニ於テハ融通ヲ受クルノ機會無カルヘシト銀行ヨリ注意アリタルカ爲メナリ後テ大正四年六月三十日再ヒ年利五分三厘ノ低利ニシテ金一萬



四千八百圓ヲ借入レタルコト前掲起債表ニ示スカ如シ後チ大正五年六月久保田内務次官本道視察ノ途次青木理事ヨリ組合ノ沿革及國庫補助金ノ關係並ニ低利資金借換ノ必要等ヲ陳ヘ更ニ同月二十三日評議員一同ノ名ヲ以テ將來政府ニ低利資金ヲ仰クノ際特別ノ便宜ヲ與ヘラレタシトテ同次官ヘ左ノ陳情書ヲ提出セリ

吾深川土功組合ハ本道有數ノ灌溉組合ニシテ其目的タルヤ水ノ利便ヲ得テ水田ノ開發ニ存シ之ヲ企圖スル茲ニ年アリ明治四十二年八月始メテ是カ設立認可ヲ見ルニ至レリ爾來銳意組合ノ發展工事ノ進捗等ニ努メ本年ヲ以テ全ク其功ヲ竣ヘタリ其包括スル面積ハ優ニ五千町歩ヲ超ヘ之ヲ灌溉スヘキ大小ノ水路ヲ合スレハ其延長實ニ三十里ニ餘レリ此大地積ニシテ全部水田ニ開墾セラルノ日モ蓋シ遠キニ非サルヘシ(中略)然リト雖モ額テ組合ノ經濟狀態ヲ見ルニ轉々憂慮ノ點ナキ能ハサルモノアリ他ナシ右工費ノ財源是ナリ抑モ本組合ノ歲入ハ經常部ヲ除クノ外ハ全部公債及國庫補助金ヲ以テ其費途ヲ辨スルノ計劃ナリ而シテ借入金ハ据置二ケ年ノ後二十八ヶ年賦ニヨリ組合費ヲ以テ償還スルノ條件ノ下ニ北海道拓殖銀行ト協定ノ上必要ニ應シ數次ニ之カ借入ヲナシタリ而シテ利率ノ如キ當初年利七分ノ豫定ナリシモ低利資金ニ轉換シタル一部ノ年五分三厘ヲ除クノ外ハ年七分以上八分五厘ノモノ其大部分ヲ占ム且ツ施工ノ當初ヨリ收入ヲ期待シタル國庫ノ補助金ハ昨年度迄ハ交付

ノ恩命ニ接セス年々歳々豫算ニ計上シタルノミニテ每次歲入缺陷ノ爲更ニ借入金ヲ以テ之ヲ補填セサルヘカラサルノ運命ニ逢着セリ此故ニ組合債ハ逐年増加シ組合員ノ負擔年ト共ニ重キヲ加ヘ而モ此間ニ於テ大正二年大凶作ノ後ヲ享ケ農民ノ疲弊未タ全ク癒ヘサルニ此重課ヲ荷フ加之地方稅町村稅ノ如キモ頻年更ニ減スルコトナク彌々益々重キヲ加フルノ事態ナレハ多數ノ組合員中水田ヲ開墾シテ未タ收穫ヲ見サルニ土地ヲ賣却スルモノアルニ至ル中略之ヲ救済スルノ途他ナシ組合債ノ全部ヲ低利資金ニ俟テ出來得ル限リ其負擔ヲ輕減シ一面ニ於テ國庫補助ノ一日モ速カナランコトヲ懇請シ各自安ンシテ水田ノ墾成米作ノ改良ニ努ムルアラハ蓋シ豫期ニ反ムクナキニ庶幾カラシカ願クハ具ニ組合ノ現狀ヲ洞察セラレ後日低利資金借替ノ際何分ノ便宜ヲ與ヘラレンコトヲ(後略)



### 第十一章 賦課及徵收

本組合ノ事業施行ニ就テハ巨額ノ工事費ヲ起債ニ求メタルト未交付ノ國庫補助既定額ノ補充モ亦起債ニ依リタルノ外財源トシテハ組合費ノ賦課アルノミ(手數料、雜收入等、隨時若クハ不確定ノモノハ別トス)而シテ如上多額ノ起債モ將來總テ組合費ノ賦課ヲ以テ償還セサルヘカラサルコト同起債ノ何レモ段別割ヲ財源トシタルニテ知ルヲ得ヘシ(國庫ノ補助金ヲ除ク)實ニ組合費ノ賦課徵收ハ今後組合事業ヲ經營スル唯一ノ財源タルナリ本組合創立以來經常費ハ主トシテ組合費ノ徵收ニ依リ臨時費(工事費)ハ起債ヲ以テ支辨シ來リタルモノナルカ組合費ノ徵收科目ハ段別割ニシテ創立後明治四十二年度ニ於テ區域內三千六百町歩ニ對シ一反步當リ年率金十五錢ノ割ヲ以テ金五千六百四十一圓八十二錢ヲ測定シタルヲ第一回トシ爾來毎年度ノ課率及測定金額左表ノ如シ尙ホ初メ賦課徵收ヲ年一回トセシモ其後毎年二回トシ第一期ハ該當年八月一日第二期ハ翌年二月一日現在ニ依リ賦課シ更ニ期限ヲ定メテ徵收セリ又徵收額ハ第一回以來専ラ負擔ノ輕減ヲ期セシト雖モ水田ノ造成ニ從ヒ一面起債償還ノ期迫リ且ツ用水ノ維持費等漸次負擔ノ加重スルニ至ルヘキハ勿論組合モ優ニ是等ヲ支辨シ得ルノ程度ニ達スヘキナリ

年 度	科 目	反課 步率	富一	調 定 金 額	摘 要
明治四十二年度	段別割	一五〇	五、六四一	八二〇	一期ニ賦課ス
同 四十三年度	同	一一〇	四、六五四	六七〇	二期ニ賦課ス
同 四十四年度	同	一	一	一	組合費ヲ課セス
大 正 元 年 度	同	一三〇	六、七二七	二五〇	一期ニ賦課ス
同 二 年 度	同	二五〇	一、八一五	六一〇	二期ニ賦課ス一期ハ八月一日現在ニ依リ二期ハ翌年二月一日現在ニ依ル
同 三 年 度	同	三七〇	一、九三三	五四〇	同
同 四 年 度	同	九〇〇	四、五六九	一六〇	同
同 五 年 度	同	三〇〇	三、一九七	三一〇	同
計			一、二八、〇四三	三六〇	五年度ノ第一期分ナリ課率ハ一ケ年分ヲ示ス



### 第十一章 豫算及決算

本組合ノ成立後創立委員ヨリ新組合長ニ引繼キタル經費ノ收支ハ收入トシテハ諸方ヨリ一時借入レタルモノ即チ金七百六十圓深川村農會、金五十圓一已村金二千圓絲屋銀行深川出張所、金一千圓千葉藤吉、金五百圓深川村、金三百七十八圓十九錢同村ノ合計金四千六百八十八圓十九錢ナルカ支出ハ金三千七百九十二圓十八錢測量人夫賃外十一件、金八百七十八圓十九錢一時借入金返済、金十五圓九十九錢道應河村技師へ前渡金不足ノ合計金四千六百八十六圓三十六錢ニシテ差引殘金一圓八十三錢ハ現金引繼トシタルモ組合費トシテ支出スヘキ性質ノモノナリヤ否ヤヲ調査シ豫算編入ノ際別ニ創立費トシテ掲上スルコト、セリ(引繼現金ハ明治四十三年ニ於テ過年度收入トシテ整理ス)而シテ創立費以來議員會ノ議決ヲ經道應ノ認可ヲ得テ施行シタル毎年度豫算及議員會ノ承認ヲ經タル毎年度ノ決算左ノ如シ尙ホ左表ノ中豫算ハ便宜同年度ニ於ケル追加更正等ヲ加除シテ表示シタルモノナリ

#### 豫算 收入ノ部

科目	明治四十 二年度	同四三年度	同四四年度	大正元年度	同 二年度	同 三年度	同 四年度	同 五年度	計
手数料				300.000	300.000	600.000	600.000	1011.000	2811.000
雑収入		1,170.000	600.000	300.000	2,070.000	2,000.000	600.000	1,011.000	2,211.000
預金利息				300.000	300.000	300.000	300.000	1,200.000	3,400.000
過年度收入		210.000						210.000	420.000
寄附立金		100.000						100.000	210.000
不却用品									100.000
賣却代金			100.000						210.000
雜收入			300.000	300.000					900.000
前年度繰越金		1,020.000	3,320.000	1,120.000	8,620.000	8,020.000	8,020.000	7,220.000	18,120.000
経前年度		1,020.000	3,320.000	1,120.000	8,620.000	8,020.000	8,020.000	7,220.000	18,120.000
寄附金						2,000.000			2,000.000
寄附金						2,000.000			2,000.000
補助金						2,000.000			2,000.000
工助費	5,580.000	5,580.000		6,000.000	3,380.000			4,000.000	19,540.000
裁助費	5,580.000	5,580.000		6,000.000	3,380.000			4,000.000	19,540.000
組合費	5,580.000	5,580.000		6,000.000	3,380.000			4,000.000	19,540.000
段別割	5,580.000	5,580.000		6,000.000	3,380.000			4,000.000	19,540.000



公債 組合債	支出ノ部 (經常部)				
	明治四十 二年	同四十 三年	同四十 四年	大正元 年	同二 年
計	五,五〇八,〇〇〇	六,七三三,五〇〇	三,三三〇,〇〇〇	二,四三三,〇〇〇	一,四三三,〇〇〇
計	八,六六六,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇	一四,〇〇〇,〇〇〇

支出ノ部 (經常部)

科目	支出ノ部 (經常部)				
	明治四十 二年	同四十 三年	同四十 四年	大正元 年	同二 年
事務所費	八八一,九八〇	二,八五六,〇〇〇	二,四九一,七〇〇	三,三三七,〇〇〇	三,六九八,五〇〇
給料	三三三,〇〇〇	七三三,〇〇〇	九七二,八〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	六〇〇,〇〇〇
雜給	五五九,〇〇〇	一,七六〇,一〇〇	一,一〇〇,一〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇	二,三三三,〇〇〇
需用費	一〇〇,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	三三三,〇〇〇	七〇〇,〇〇〇
修繕費	三〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
會議費	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇
雜給	三〇〇,〇〇〇	四〇〇,〇〇〇	一八三,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
需用費	三〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	二〇〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇
水路維持費	—	—	—	—	—
計	二,七〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	九,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇,〇〇〇

支出ノ部 (臨時部)

科目	支出ノ部 (臨時部)				
	明治四十 二年	同四十 三年	同四十 四年	大正元 年	同二 年
揚水機費	—	—	—	—	—
給料	—	—	—	—	—
雜給	—	—	—	—	—
需用費	—	—	—	—	—
修繕費	—	—	—	—	—
雜支出	—	八五三,九五〇	—	—	—
雜支出	—	—	—	—	—
過年度支出	—	八三三,九五〇	—	—	—
豫備費	—	—	—	—	—
計	一,三三三,〇〇〇	一,六八七,九〇〇	三,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇	四,〇〇〇,〇〇〇

科目	支出ノ部 (臨時部)				
	明治四十 二年	同四十 三年	同四十 四年	大正元 年	同二 年
創立費	三,九九八,三三〇	—	—	—	—
創立費	三,九九八,三三〇	—	—	—	—
事務所費	—	—	—	—	六,〇〇〇,〇〇〇
計	三,九九八,三三〇	—	—	—	六,〇〇〇,〇〇〇



科 目	決 算 ( 收 入 ノ 部 )							
	明治四十二年度同	四十三年度同	四十四年度	大正元年度	同 二 年 度	同 三 年 度	同 四 年 度	計
建築費				六〇,〇〇〇			四八〇,〇〇〇	五四〇,〇〇〇
測量費	一,三六七,四〇〇						一,三六七,四〇〇	一,三六七,四〇〇
工事費	一,〇〇〇,〇〇〇	五六〇,〇〇〇					一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
本年度支出額				三〇〇,〇〇〇	一七九,八〇〇	三〇六,六四六	七〇〇,〇〇〇	九七九,八六七
小支線分派線							三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
等工事費							三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
水道復舊費							三三,〇〇〇	三三,〇〇〇
調査費	一,〇〇〇,〇〇〇	五六〇,〇〇〇					一,〇〇〇,〇〇〇	一,〇〇〇,〇〇〇
公債費	一六六,七八九			一三,四七九	二四,四四〇	四六,五九九	一〇三,二七七	一八六,八六一
公債償還	一七六,七八九			一三,四七九	二四,四四〇	四六,五九九	一〇三,二七七	一八六,八六一
計	四,一六五,一一九	三六〇,〇〇〇	二,〇〇,〇〇〇	三三,七六二	三〇四,三三〇	三三三,二四五	一,七三三,四七〇	二,一七三,五二〇
合計	五,五〇八,〇〇〇	六,七三三,五〇〇	三,三三〇,〇〇〇	三三,七六二	三〇四,三三〇	三三三,二四五	一,八五〇,〇〇〇	二,一七三,五二〇

手 數 料	明治四十二年度同	四十三年度同	四十四年度	大正元年度	同 二 年 度	同 三 年 度	同 四 年 度	計
雜收入		二四四,九四〇	三六二,八五〇	二六六,四〇〇	四,五三一	四,五三四	二,七九一	一三,六九九
預金利息			五二,九八〇	二一,一八〇	四,三三二	四,一〇〇	一,〇〇〇	一〇,二二二
過年度收入		二四四,九四〇	三〇八,一七〇	一六二,八二〇	三二八,六七〇	四三〇,〇〇〇	九七四,五五〇	二,三四三,〇〇〇
創設費寄附金								
不用品賣却代								
雜入			二,九〇〇	二,二〇〇				八,五〇〇
前年度繰越金		一,〇八五,一三〇	二,三三三,二五〇	一,四四八,九七〇	九,五八六,六四〇	四九,五七五,〇七〇	四,七〇九,五五〇	六八,五五七,八〇〇
前年度繰越金		一,〇八五,一三〇	二,三三三,二五〇	一,四四八,九七〇	九,五八六,六四〇	四九,五七五,〇七〇	四,七〇九,五五〇	六八,五五七,八〇〇
寄附金				一,二四八,九七〇	九,五八六,六四〇	四九,五七五,〇七〇	四,七〇九,五五〇	六八,五五七,八〇〇
組合費寄附金						二,〇〇〇,〇〇〇		二,〇〇〇,〇〇〇
補助金						二,〇〇〇,〇〇〇		二,〇〇〇,〇〇〇
工事費補助金						二,〇〇〇,〇〇〇		二,〇〇〇,〇〇〇
組合費	五,〇五五,七八〇	四,一五一,三三〇		六,二八一,六一〇	六,二八一,六一〇	一七,三二二,四三〇	五九,七三三,一五〇	七六,六三三,八一〇
段別割	五,〇五五,七八〇	四,一五一,三三〇		六,二八一,六一〇	六,二八一,六一〇	一七,三二二,四三〇	五九,七三三,一五〇	七六,六三三,八一〇
公債				一四,四三六,三五〇	二八,四三〇,三三〇	一五九,五五八,〇〇〇	三三三,五三四,五〇〇	六九五,九一四,〇〇〇
組合費				一四,四三六,三五〇	二八,四三〇,三三〇	一五九,五五八,〇〇〇	三三三,五三四,五〇〇	六九五,九一四,〇〇〇



支出ノ部 (經常部)

科 目	明治四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度	同 三年度	同 四年度	計
事務所費	303.010	210.610	1,157.520	2,678.620	3,322.820	3,644.120	3,522.200	16,744.300
給料	106.620	594.000	1,500.000	3,368.120	7,006.200	1,026.000	1,334.000	12,264.340
雜給	135.410	1,997.950	1,009.720	1,920.420	1,846.320	1,671.920	1,566.120	9,388.880
需用費	6,925	113,310	15,820	32,120	757,020	3,224.200	6,244.600	9,388.880
修繕費	-	11,925	-	18,120	12,820	4,720	10,220	57,820
會議費	1,928.820	111,820	6,020	3,620	3,220	1,120	30,220	2,186,820
雜費	121,320	100,720	5,720	2,920	2,820	9,020	2,820	246,320
需用費	15,820	10,220	2,220	1,720	9,120	1,320	3,820	44,420
雜支出	-	-	2,020	2,920	-	-	6,720	11,640
過年度支出	499,820	3,127,520	1,122,720	3,120,020	3,494,220	3,454,220	3,522,220	17,370,720
計								

支出ノ部 (臨時部)

科 目	明治四十二年度	同 四十三年度	同 四十四年度	大正元年度	同 二年度	同 三年度	同 四年度	計
事務所費	-	-	-	-	58,920	-	-	58,920
建築費	-	-	-	-	58,920	-	-	58,920
創立費	3,431,920	-	-	-	-	-	-	3,431,920
測量費	3,438,920	-	-	-	-	-	-	3,438,920
測量費	-	1,001,320	-	-	-	-	-	1,001,320
工事費	-	-	328,720	9,224,620	1,799,920	2,018,820	2,324,620	16,696,720
本年度支出額	-	-	-	7,799,920	1,799,920	2,018,820	2,324,620	13,943,280
小支線分派線	-	-	-	-	-	-	-	-
等工事費	-	-	-	-	-	-	-	-
水害復舊費	-	-	-	-	-	-	-	-
調査費	-	-	328,720	1,426,020	-	-	-	1,754,740
公債費	3,280,000	-	-	-	-	-	-	3,280,000
公債償還	3,280,000	-	-	-	-	-	-	3,280,000
計	3,438,920	1,001,320	328,720	9,224,620	1,799,920	2,018,820	2,324,620	17,846,920
合計	3,938,840	4,128,840	1,451,440	13,024,640	3,598,840	3,662,940	4,848,840	37,650,400



### 第十三章 水利權解決

本組合ハ道廳ノ設計ニ基キテ其區域ヲ定メ組合費ヲ徵收スル爲メ第一期ノ賦課ヲナスニ及ンテ一已村ノ一部既成水田所有者ヨリ「耕地ハ組合ニ編入セラレタルモ最早既成ノ水田ナレハ畑地ト均等ノ賦課ヲ受クルノ謂ナキヲ以テ等差ヲ設クルカ然ラサレハ區域ヨリ除外サレタシ」トノ情願ヲ生スルニ至レリ茲ニ於テ水利權解決ノ必要起レリ從來區域内ニ於テ許可ヲ受ケ若クハ受ケスシテ灌溉シ居タルモノ尠カラス即チ

- 一、明治三十二年十二月一已屯田兵村ノ森田虎次郎外三十二名カ時ノ中隊長鷹森越夫ノ許可ヲ得一已九丁目先堺川ヨリ引水シ北一已ニ於ケル三十四町五反歩ヲ灌溉シ櫻川ニ放水シタルモノ(後チ所有テ山崎平藏外二十六名ヨリ灌溉溝確認ヲ願出ツ)
- 一、明治三十六年二月空知支廳指令第四六號ヲ以テ森徳之助外八十四名ノ許可ヲ得タル一已村字一已十丁目先「ニウシベツ」川ヨリ引水シテ石狩川沿岸二百六十四町六反歩ヲ灌溉シ再ヒ同川ニ放水スルモノ
- 一、明治四十年五月道廳指令第三二二一號ヲ以テ谷口又次郎外五名カ許可ヲ得深川村字メム十號線

山四線櫻川ヨリ引水シテ二十四町歩ヲ灌溉シ再ヒ同川ニ放水スルモノ

- 一、其他明治三十一年八月一已屯田兵村藤田萬藏外十二名カ時ノ中隊長平加正三郎ノ許可ヲ得堺川ヨリ引水シタ灌溉溝同年同月同兵村山本彦太外五名カ時ノ中隊長小幡彬ノ許可ヲ得排水ヲ利用シテ施設セル灌溉溝ノ外同年ヨリ三十五年ニ至ル間ニ造成シタル無願灌溉溝凡ソ十個所アリテ何等連絡ナク個々獨立シテ經營シ來リ南一已堺川「ニウシベツ」川支流熊川及既成排水溝ヨリ引水シ元屯田給與地五十三町一反四畝歩ヲ灌溉シ境川ニ放水スル施設ニシテ後チ石川永一郎外七十八名ノ所有トナリタルモノ(大正元年十月山本彦太外一名ヲ代人トシ連合シテ水利權確認ヲ願出ツ)

等ニシテ右ハ灌溉ノ關係上區域内外ニ跨リ居ルヲ以テ總反別三百六十八町六反三畝十七歩ノ内、區域内百八十七町三反一畝十九歩、區域外百八十一町二反一畝二十八歩ナルカ内水利權取得反別區域内外ニ涉リ三百二十三町一反歩ナリトス從テ區域内ニ土地ヲ有スル既得水利權者ニ對シテハ事情亦斟酌スヘキモノアリ大正二年一月二十日「ニウシベツ」川組代表者加藤鋤三郎、爲岡利三郎、吉川源太郎、萩原藤太、柳川組同佐伯藤市、土屋鍋次郎、齋藤庄太郎、堺川組同竹原岩吉、青地初三郎、五十嵐國松、矢野勝平、櫻川組同鈴木増吉、杉坂新藏、山出富治、森田岩次郎、徳廣愛吉、山崎平藏、北原徳市等ヲ深川村役場ニ召集シ稻見組合長ハ支廳長トシテ協議スル所アリタルナリ當時代表側ノ意見トシ



テハ

- 一、經常費ヲ除クノ外既成水田ニ對シテハ負擔ヲ免除セラレ度
- 二、若シ區域内ナルカ故ニ免除セラル、コト能ハストセハ寧ロ除外セラレ度
- 三、結局既成ノ水田ニシテ區域編入ヲ甘ンヌル所以ノモノハ將來ニ於ケル灌漑量ノ潤澤ナランコトヲ希望スルニ過キサルヲ以テ新ニ耕地ヲ水田ニ改良セントスルモノトノ間ニ等差ヲ設ケラル、コト至當ナルヘシ

ト云フニアリ之ニ對シ

- 一、負擔ニ等差ヲ附スルハ法規上敢テ禁止スル所ニアラスト雖モ此場合ハ其利益ニ厚薄アル際ナラサルヘカラス然ルニ本組合ノ灌漑ニ就テハ既成水田タルト新開水田タルニ拘ハラヌ均一ノ利益ヲ享受セシムルモノナレハ等差ノ理由トナラス
- 二、強イテ此主旨ヲ主張スルニ於テハ既成水田區域ヲ除外スルノ外ナカルヘシト雖モ一面既成水田區域ハ組合區域ニ編入セラレタルト同時ニ從來ノ水利ニ關シテハ後日消滅セシムヘキモノト看做サレタルノミナラス將來水源地ノ枯渴ヲ考察シテ特ニ區域ニ編入シタルモノナレハ單ニ負擔云々ノ理由ノ下ニ除外ヲ希望スルモ果シテ之ヲ容ルヘキヤ否ハ至難ノ問題タルヘシ

三、又前主張ノ如ク工事費ノ負擔ヲ免ルモノトセハ區域内ニ存在シテ石狩川ノ水量ニ依ラサルヘカラス斯ル場合ハ組合ハ更ニ小細流ニ基ク水利權ヲ與ヘラレタル外果シテ小細流ノ水利權ヲ得サルヘカラサルカ又之ニ對シ許可ヲ與ヘラルヘキヤハ一層至難ノ問題トナルヘシ兎ニ角成案ハ道廳ノ内意ヲ確メタル上ニテ更ニ謀ル所アルヘシ

ト告ケ專ラ解決ニ苦慮セシト雖モ如何セン組合區域内ニ於ケル既成水田ノ所有者ノ主張實ニ斯ノ如ク其事情ニ於テ大ニ斟酌スヘキモノアリ又一方之ヲ區域ヨリ除外スルトセハ五千町歩ノ基礎計算ニ對シテハ幾多變更ヲ來スノ混雜ヲ生スルノミナラス既成水田ハ區域内ノ中央ニ介在セルヲ以テ將來區域内水路ノ敷設ニ關シ障害ヲ生スルコト尠カラズ殊ニ此際區域ヲ變更セントスルモ總會開催ノ手續ヲ要スヘク彼是容易ノ事ニアラサルヲ以テ之ニ處スルノ方案トシテハ稍ヤ公權ヲ私權ノ目的ニ供スルノ嫌ナキニアラサルモ「上流耕地所有者ト協議セシメ其所有者ヲシテ水利ノ使用ヲ將來ニ潤澤ナラシムル代償トシテ幾部ノ賠償ヲ受ケシメ而シテ該讓渡ニ就テハ之ヲ承認シテ許可ヲ與ヘラルルノ内定ヲ得尙ホ其手段トシテ未タ公認ヲ得サル既成水田所有者ニ對シ確認ヲ與ヘラル、コト」ニ長官ノ承認ヲ經タルヲ以テ前記人名ノ代表者ニ公示シタルニ何レモ喜ンテ此說ニ服シ茲ニ解決ノ曙光ヲ認メ爾來之カ手續交渉中、時恰モ政變頻繁ニシテ事情ヲ知悉セル石原長官既ニ更迭シ未タ新任山之内長官ニ具情ノ遑ナ



カリシカ事業ノ施行上猶豫スヘキニアラサルヲ以テ長官ノ赴任早々旭川第七師團ノ挨拶ヲ了ヘテ上京セントスルノ途次(同年一月)小樽マテノ汽車中ニ於テ組合長ハ西村土木部長ト謀リ更ニ「既成水田ニ係ル水利權者ニ對シテハ上流耕地所有者ト協議ノ結果幾部ノ賠償ヲ受ケ權利ノ讓渡ヲ承認シ之ニ依リテ組合ニ編入セラレタル既成水田ノ所有者ノ負擔ニ間接的均衡ヲ得セシムルコト之カ手段トシテ交渉ヲ便宜ナラシムル爲メ確認ヲ與フルコト」トシテ長官ノ承認ヲ得タルヲ以テ之ニ依リテ解決セントセシナリ而シテ後日一巳村小村幸太郎外百十五名及山崎平藏外二十六名ヨリ時ノ長官ニ各水利權ノ確認ヲ願出ツルニ至リシカ數次長官ノ更迭スルニ及ンテ深川土功組合ノ區域ニ屬スルモノハ水利權ヲ二重ニ認ムル結果トナルヘキ理由ヲ以テ却下セラレントセシヨリ空知支廳長ヨリ更ニ大要左ノ意味ノ意見ヲ具申スルニ至レリト即チ

一、出願ノ區域ハ深川土功組合區域ニ包括ノ地區ニ候得共之カ水田ノ墾成並ニ水利ノ使用ハ昔屯田時代ニ於テ試作耕耘シタルモノニ有之深川土功組合創立ノ當時蓋シ之ヲ除外スル事適當ナルカ如キモ該地域ハ恰モ一巳村ニ於ケル區域ノ中部ニ位置シタルト水源タル柳川及堺川ノ水量ハ順次枯渴ノ傾向ヲ有スルヲ以テ曩ニ當廳ハ區域査定ノ當時將來ノ爲メ之ヲ編入シ置クコト水田耕作上安全ナルヲ認メ編入セラレ候事ト推察致候

二、爾來深川土功組合ハ其成立ヲ告ケ着々之カ工事ヲ施行セントスルニ當リ該區域ニ屬シタル出願人等ハ既成水田タルノ故ヲ以テ強テ之カ除外ヲ申出テ剩ヘ組合費ノ負擔ニ應スルコト能ハサル旨ノ申出ヲ爲シタルニ依リ種々諭示ヲ加ヘ候得共頑トシテ之ニ應スルノ容子無之一方組合ニ於テハ彼等ヲシテ甘諾セシメ事業ノ圓滿ナル進捗ヲ圖ルコトハ當時ノ事情ニ鑑ミ極メテ必要ニ迫リ居候次第ニ有之候其主張スル要旨ハ吾々ノ所ニ係ル土地ハ永年連續ノ既成水田ニシテ今更新耕地ト同シク組合ニ編入セラレ石狩川ヲ導水スルノ必要ナク假リニ水源地タル支流水量ノ關係上將來ノ安全ヲ期スル爲メ區域ニ編入セラレタリトスルモ之カ水量ハ必スシモ短期間ノ限度ヲ示スモノニアラス然ルニ組合ノ負擔ハ一反幾何ノ誤率ヲ以テ將來ニ負擔スルハ極メテ苦痛トスル所ナルノミナラス後日若シ深川土功組合工事完成ノ下ニ權利ノ消滅ヲ來シ其水量ハ上流所有者カ無償ニ利用スルコトヲ得サルニ至ラハ結局吾々ハ上流者ノ爲メ犧牲ヲ拂フテ深川土功組合員タルモノニシテ忍フ能ハサル所ナレハ區域ヲ除外セラレカ萬止ムヲ得サレハ賦課ニ等差ヲ設ケ名義上ノ負擔ニ止メラレ度云々ト云フニ有之候是ニ於テ當時ノ部長西村事務官ト協議ヲ遂ケ山之内長官ノ御承認ヲ受ケテ左ノ方法ヲ示シ茲ニ漸ク一段落ヲ告ケ今日ニ經過シタル次第ニ候(左ノ方法トハ前掲長官ノ承認ヲ受ケタルモノト同様ニ付略ス)

三、爾來數閱月是等ノ既成水田所有者ハ上流ノ耕地所有者ニ對シ屢々交渉ヲ重スルモ未タ讓渡ノ契



約ヲ締結シ得サルモアリ或ハ畧之カ成立ヲ告ケタルモアリ之ヲ要スルニ上流者ノ考フル所ヲ察スレハ今ヤ深川土功組合ノ工事完成ヲ告ケントス支流柳川界川ノ水量ハ之ヲ導水スルノ要ナキニ至ルノ日近キニアリ如カス既成水利権者ノ交渉ヲ斷絶シテ之ガ權利消滅ノ時期ヲ待チ以テ無償ニ之ヲ利用スルノ策ヲ講セントスルニアルモノ、如クニ有之候

四、斯ク上流耕地所有者ニ於テ今日ニ至ルマテ猶ホ頑強ニ之カ交渉ニ應セサルハ曾テ道廳ニ出頭係官ニ面接ノ節單純ナル理論ノ上ヨリ内示セラレタル斯ル水量ハ工事完成ノ上ハ上流者ノ耕地ハ良ノ爲メ公益上取消スヘキハ當然ナリ云々ノ趣旨ヲ頑守スルニ基クトノコトニ候得共此際是非圓滿ニ之カ協定ヲ終ラシメ度キモノニ存候

五、而シテ確認ナルモノハ權利ノ附與ニアラスシテ一ニ權利存在ノ公定力ヲ與ヘラル、ニ過キササル次第ナレハ已ニ權利ノ存在カ明カナル以上強テ此際ニ當リテ確認ナル繁雜ノ手續ヲ要セサルカ如キニハ候得共結局本件交渉ヲ容易ナラシムル便宜手段トシテ確認相成度云々

右ニ對シ出願者ヘハ「深川土功組合ニ於ケル引水工事完成シ灌漑ニ使用シ得ル曉ハ本流灌漑溝區域及使用水量ノ相當變更ヲ出願スヘキコト」ヲ條件トシ大正五年四月七日俵長官ヨリ水利權ヲ確認セラ  
ル、ニ至レリ

## 第十四章 揚水機調査

### 第一節 實況視察

水源地變更ニ伴フ新設計成リテ未タ發表セラレサルニ先タチ設計ノ内容ヲ窺フニ區域内ノ一部一已村ニ係ル約三百六十町歩ハ其勾配ノ程度ニ於テ揚水機ヲ併用スヘキモノナルヲ以テ茲ニ揚水機調査ノ必要起レリ蓋シ揚水機ノ效果タル内地府縣ニ在リテハ其實績顯著ニシテ敢テ之ヲ疑フノ餘地ナキカ如シ然レトモ籲テ本道ニ於ケル從來ノ實況ニ徵センカ偶々使用セシモノモ寧ロ失敗ニ終リ當時僅ニ空知郡沼具村中村農場ニ施設中ノ揚水機アリシト雖モ未タ運轉スルニ至ラスシテ其結果ヲ知ルニ由ナシ故ニ若シ突然之カ公表ヲ見ルノ曉深ク疑念ヲ包藏スル者組合ニ續出スルニ於テハ效果充分ナル揚水機ノ据付ニ支障ヲ生センヤ必セリ如カス發表ニ先タチ組合ヨリ委員ヲ派シテ親シク揚水機ノ運用ヲ視察セシメ然ル後チ組合員ニ其實績ヲ吹聴セシメンニハト組合長則チ道廳ニ具陳スルニ組合員ノ一部ヲシテ府縣ニ於ケル揚水機並ニ組合事務處理ノ實況ヲ調査セシムルヲ以テシ應議之ヲ容レテ技師特派説明ノ任ニ當ラシムヘキ旨併セテ詮議ニ及ヒシカハ明治四十五年三月二十六日議員會ヲ開ヒテ之カ議ヲ決シ



視察員トシテ青木利一、柳町静一郎、合田芳太郎、更谷辰太郎、川上和平、中井哲太郎、青地初三郎、五十嵐國松、土屋鍋次郎、佐伯藤市ヲ舉ケ囑託八木田屬亦管外出張認可ヲ得テ之ニ加ハリ往復二十日ノ豫定ヲ以テ視察員ハ手當ヲ一名五十圓八木田屬ハ旅費ヲ組合負擔ト定メ視察地ハ農省務省ノ指定ニ依ルコトトセリ而シテ一行ハ、同年四月三日視察ノ途ニ就キシカ道廳ヨリハ上野技師一行ト共ニ出張セリ是ヨリ先キ(四月一日)稻見組合長ハ官命ニ依リ東京ニ出張中ナルヲ以テ一行ニ加ハル一行ハ四月七日ヨリ農商務省木下技師ニ導カレテ千葉縣ニ赴キ坂川水利組合ニ就キテ同技師ノ施設ニ係ル揚水機及矢切耕地整理組合ノ同機等ヲ視察シ四月十日ヨリ愛知縣ニ至リテ深町内務部長、世間瀨技師ヨリ同縣ニ於ケル耕地整理ノ狀況并ニ揚水機ノ運用ヲ聽キ更ニ野崎技師ニ伴ハレテ連日孫寶、日光川、新川、上郷川。明治、宮田等ノ各組合ニ就キ其實況ヲ視察シ何レモ揚水機ノ效果ヲ確認シタルヲ以テ四月十五日愛知縣廳ニ於テ記念撮影ノ上解散セリ尙ホ本組合ニ就テハ隨處ニ稻見組合長其經過ヲ述ヘ設計ノ概要ハ上野技師之ヲ説明セリ茲ニ附記スヘキハ從來組合員カ公費ヲ以テ旅行スルカ如キハ之ヲ認容セラレサリシニ拘ハス山田内務部長、西村土木部長協議ノ上特ニ組合費ノ支出ヲ承認シ且ツ灌溉溝ニ揚水機ヲ應用セシメントスルハ道廳交付ノ設計ニ於テ今回ヲ囑矢トスルモノナリトテ上野技師ヲ同行セシムルニ至リタルナリ

## 第二節 結果報告

揚水機ノ實地視察ヲ遂ケタル組合員ハ連名ヲ以テ明治四十五年四月十五日左ノ報告書ヲ組合長ニ提出セリ

### 揚水機 關 調 査 報 文

千葉縣葛飾郡坂川普通水利組合 本組合ハ明村、流山町、小金町、馬渡村二村ニ屬スル二十五部落ヲ以テ組織シ南杉戸ヨリ北流山ニ至ルノ間延長二里餘ニ至ル由來荒蕪ノ薄地タリ此地江戶川ノ東岸ニ沿フテ南北ニ開ケ岡原臺一帶ノ丘陵其東ヲ繞リ利根川ノ堤塘西ヲ限リ山ヲ負フテ水ニ臨ムト雖モ低窪ニシテ濕潤ヲ極メ坂川ノ一渠之ヲ貫流スルモ江戶川ニ注クニ河床低キニ過キ甚雨一度至ラハ河口ヨリ逆流シ農耕ニ適セサルヲ以テ萬難ヲ排シテ揚水器ノ設置ヲ見ルニ至リ最新式ノ機械ト管理ノ宜シキハ相待ツテ今日ノ好成績ヲ見ルニ至リタルモノトス

同郡矢切耕地整理組合 地勢坂川水利組合ト大差ナク目的及設置ノ時期同一ナルモ機ニ不完全ニシテ將來永久ニ本組合ノ利器タルヲ得サルヘク殊ニ最近ニ於テ揚水ヲ以テ更ニ灌溉ノ用ニ供セントスルノ計劃アル由ニテ改良ノ時期遠カラサルヘシ

愛知縣海西郡孫寶惡水普通水利組合 本組合區域一帶ハ木曾川ノ末流東岸ニ沿フ細長ナル土地ニシテ東ノ方ハ美太川並ニ六個惡水普通水利組合區域ニ接シ西方ハ木曾川ノ支流佐屋川並ニ神戸惡水普通水利組合區域ヲ以テ限リ地勢平坦凹窪ニシテ名古屋港干潮面ヨリ高キコト僅カニ一尺五寸乃至二尺五寸ニ過キス濕潤農耕ニ適セサルヲ以テ種々ナル困苦ト闘ヒ途ニ揚水機ノ設置ヲ見ルニ至レリ而シテ現今ニ於テハ組合員一般ニ揚水機ノ效果甚大ニシテ沼地ハ熟田ニ化シ耕舟ハ貨物ノ運搬ニノミ供セラル、ノ恩澤ニ浴シ一人ノ不服ヲ唱アル者無キニ至リタルハ喜ブヘキ次第ナルモ機械ノ構造及据付完全ナラサルヲ以テ震動甚ク取扱不便ニシテ比較的石灰